

松島町雄島周辺海底採集板碑の報告(2)

著者	新野 一浩, 七海 雅人
雑誌名	東北文化研究所紀要
号	46
ページ	17-136
発行年	2014-12-25
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00000496/

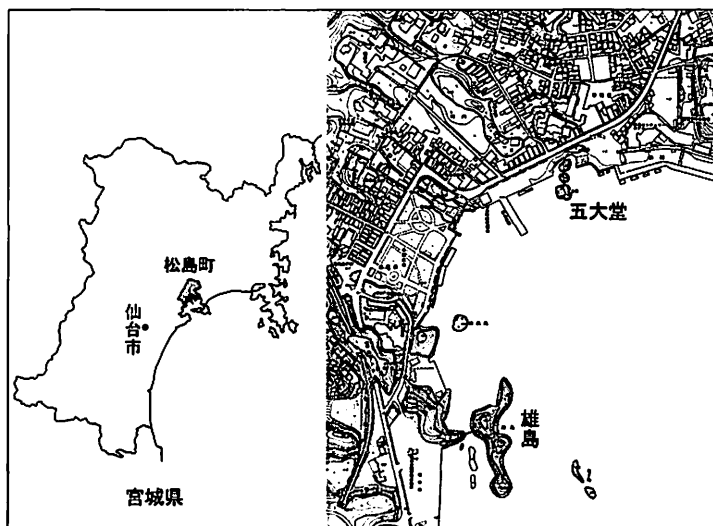


图1 雄島位置図

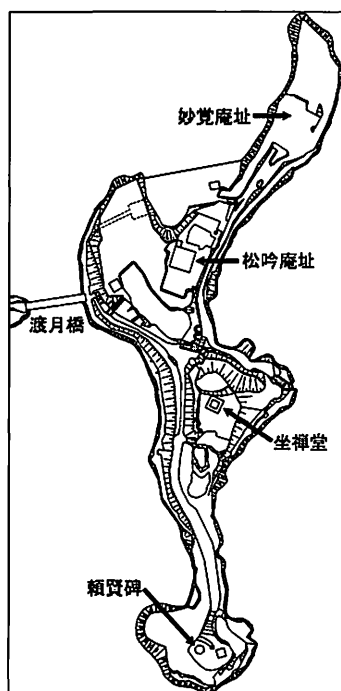


図2 雄島地図 S=1/2500

松島町雄島周辺海底採集板碑の報告(二)

松島板碑研究会（新野一浩・七海雅人）

一 調査の概要と成果

はじめに

雄島は松島湾の北西最奥部に位置する、南北約三三〇m、東西約五〇mの南北に細長い島である(図1・2)。板碑の表採作業は二〇〇六年から始まり二〇一四年まで継続して行われている。今回は二〇〇七年の調査報告になる。



図3 雄島南端部海岸の板碑散布状況 翌2008年7月3日撮影

二〇〇七年の板碑採集作業は前年の成果を元に、同じ西側干潟の北側から開始し、南下して前年と同じ区域をも再調査した。また島南端部で、干潮時に出現する僅かな干潟に多くの板碑が散布している状況(図3)が確認出来たため、潮の最も引いた時間帯にこの区域も調査した。

この年から畠山篤雄・七海雅人・高橋勝・渋谷悠子氏はじめ、東北学院大学の学生が参加する様になり、作業日数は昨年より三日多い十日であったが、のべ作業人数は六倍強の六五人であった。表採資料数も前年の六倍に上り、洗浄、乾燥、初期観察、写真撮影に追われる状態で、次回の調査まで全て処理仕切れない事もあった。

なお、表採作業に至る経緯、調査方法、処理・保管等に関しては『東北文化研究所紀要第四四号』二〇一二年発行(以後、東文研四四号とする)を参照していただきたい。

1. 二〇〇七年に採集した板碑

西側干潟区域の板碑のあり方は前年と同様で、泥土の最深部、岩盤上に接しているものから中層や表層で見つかるものと様々で、コンクリート片、ビニール、ガラス瓶等の現代物と共に埋もれていた。南端部での有様は西側干潟区域とやや違う。砂泥に埋もれている資料もあるが、全く埋もれず、全体に貝や海藻、その他海洋生物が多数付着している状態のものが多数あった。

この年の表採点数は五九九点、内二点ずつの接合例が四件(前年との接合例は除く)、同一個体と考えられる例が一件あったので、

実質五九四点となろうか。図4は出土位置を点で示した図である。尺度の都合上、乱雑となる為Noを付していない。一地点が一点とは限らず複数点出土した地点もある。

種子または銘文等の一部が確認出来たものは一八四点あった。種子の種類と点数は図5の通り。「？」は風化等による劣化の為確実に判断でないもの、「系」は欠失により全体の形を想定できるが涅槃点や空点等が付くことにより別の種子となり得るものに付した。種子は二五種あり、上位三種は「カ」二四点、「ラ」二二点、「バン」一七点である。前年は金剛界大日如来を表す「バン」が最も多かったが、今回は地藏菩薩を示す「カ」・「ラ」がそれを上回った。また前年は県内初の龍樹菩薩を表す「ナ」という種子を検出した

ナ	3	ア	3
バ	6	アク	1
バイ	2	アク?	1
バク	4	アン?	1
バーンク	1	イー* ¹	5
バン	17	イー* ²	3
バン系	9	カ	24
マ	2	カ?	1
マン	2	カー	1
ユ	1	カーン	2
ラ	22	カン	3
ラ?	5	キリーク	9
ラ系	1	キリーク?	3
ラン	6	サ	7
ル	5	サ?	1
ル?	1	サク	3
不明	24	シャン	1

図5 種子一覧

*1: 護讃地藏 *2: 弁尼地藏

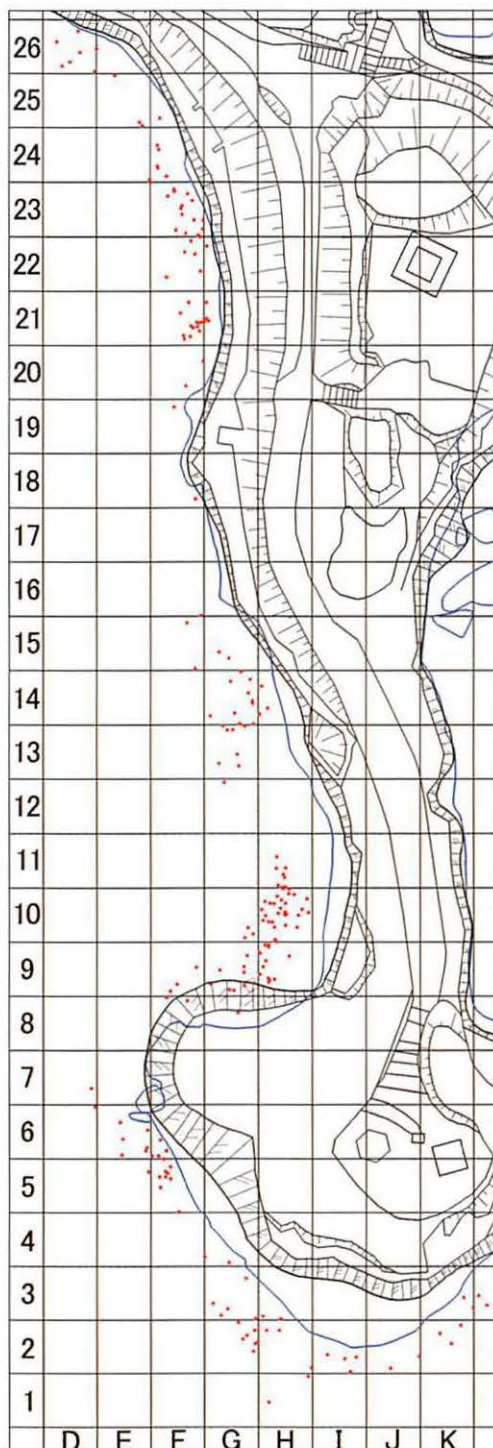


図4 板碑出土地点 S=1/700

が、今回も三点出土した。さらに今回は新たに「ル」という県内初の種子が見つかった。この「ル」の主尊に關しては後述する。

以下種子や銘文のあるものを図示し、一部に解説をおこないたい。

・銘文のある板碑

① No. 104

種子は「キリク」の異字体で、妙寿という人物の冥福を修した板碑である。下部を欠失し銘文の一部が不明である。失われた文字は文面から一行目は「寿」、二行目は一字、三行目は「寿」の下半と思われる。被供養者は法名から女性であり、銘文に回忌供養を示す文言はないが、種子から三回忌の供養碑になるうか。

左下部に刻まれた「治午卯」は年月と思われるが不明である。「治」の付く年号の「午」年、卯二月とすれば徳治元年になるうか。

② No. 124

種子「カ」の下に蓮台を刻む。島内に蓮台を伴う板碑は数基あるが、全て中・大型碑で、今回出土したような小型碑は初である。蓮台はやや斜め上からの側面観で、上部に蓮子が見える表現と思われる緩い二重の弧線を持つ。蓮台下の碑面中央に紀年銘を、右下部に被供養者名を刻む。下部を欠損しているため被供養者名は「僧鏡」の二文字しか残存していない。

この被供養者名については二通りの考えがある。一つは「○○禪門」のように「僧鏡」が法名である。もう一つは「僧」は僧侶であることを示し、「鏡」は法名の一文字目であるとする考えである。

雄島島内にある板碑の例では僧侶を示す語彙は「僧」ではなく「比丘」が使用されている。よって被供養者が僧侶であれば「比丘○○」または「○○比丘」となるであろう。従って「僧鏡」は法名で、僧侶を表す「僧」を冠したものではないとしたい。しかし完全に否定もできないので、さらに検討を要する。

③ No. 133

No. 133は年号と思われる部分の破片で、破断した左側の位置に「(欠) ■■■■ (欠)」と刻まれている。四文字目の「巳」は十支十干の巳で、右隣に十干を刻む為、行の左寄りになり欠失を逃れた。他の四文字は左側端が確認できるだけである。現状で長さ五・五cm、幅一六・五cmあり、中・大型碑の破片と思われる。

④ No. 157

上部を欠失し、種子は不明である。四行の銘文は三行目までが願文、四行目は紀年で、「願主 ■■■ 白」で終わっている。「七分 ■ 得」の文言から「妙阿禪尼」の逆修碑とわかる。願文に「佛母」や「萬有情」などあまり見られない単語を使用している点に特徴が認められる。

⑤ No. 184・189

二点が接合した板碑で、約五十 cm 離れて見つかった(図6)。被供養者「福戒禪門」の供養碑で、種子は弥勒菩薩を表す「ユ」に空点を伴っている。読みとしては「ユン」となるが、管見の限り「ユ



図6 No.184とNo.189の出土位置関係

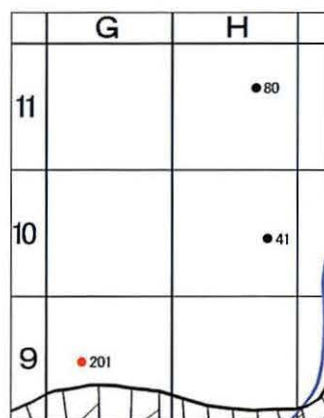


図8 No.41・201・80の
出土位置関係



図7 No.80

ン」が表す主尊はなく、「ユ」の異字体とするしかない。紀年の「文和」二四月六日」の不明文字は縦方向の一部が残っているが、判読できない。「年」は元々無く、「二」の下に「四月」と続く。

⑥ No.41・201

二〇〇六年の調査で出土したNo.41と二〇〇七年に出土したNo.201が接合した板碑である。東北歴史博物館の塩田達也氏が接合することを見出し、銘文の内容からNo.80（図7）と双碑であると判明した。

東文研四四号の報告で扱ったが今回も簡単に紹介したい。No.41・201とNo.80の出土位置関係は図8に示した。

種子は護讃地蔵を表す「イー」、種子下に偈として涅槃経を四行にわたり刻む。偈の下、中央に紀年銘を、左右に振り分けて願文を刻んでいる。願文から逆修碑であることがわかる。

種子は「カ」を削って消し、「イー」を彫っている。このことから、当初既存の板碑を利用して製作された改刻碑と考えた。しかし銘文を削った痕跡はなく、改刻されたというより訂正したという印象を強く受けた。銘文のない碑を使用したのであれば削った痕跡がないのは当然だが、双碑を建てる程経済的に裕福な人物であれば、誰かの供養に使用されていた碑を再利用するより新たな石材を求めて製作すると考えたい。また種子の面から考慮すると、「カ」と「イー」は共に地蔵を表すが、六地蔵に当てはめると、「カ」は地蔵又は預天賀地蔵、「イー」は護讃地蔵となる。六道において預天賀地蔵は天道で、護讃地蔵は人道で人々を導く役目を担っているという。であれば逆修碑に刻む種子としては「カ」より「イー」が適していると思われる。以上の事を理由に、当碑は改刻ではなく、より現世利益を受けられるように種子を訂正した碑と理解したい。

なお接合した二点は約九m離れた地点から出土しているが、この区域の干潟は泥土で、自然崩落で落ちて破損したのであれば、さほど時間をおかずに埋もれてしまうだろう。大風の時でも波がさほど立たない場所であるから波力で移動した、または潮汐作用で移動したとは考えにくい。恐らく島内で破壊され、人為的にそれぞれの出

土地点近くに投棄されたと思われる。

⑦ No. 202・206

二〇〇六年の調査で「源政行」銘板碑No.43(図9)が出土し、東文研四四号にて報告したが、二〇〇七年の調査においても同一人物銘の板碑No.202・206が出土した。出土位置関係は図10に示した。

No.202と206は直接接合しないが、石質や碑面の状態、大きさから同一個体と考えた。種子は「キリク」で、碑面右側に「(欠)性賢三十三(欠)」、中心に「(欠)亨三年八月二十一日源政行 敬白」と刻む。以下、一昨年の報告にも書いたので繰り返すになるが、説明を加える。

碑面中央の「(欠)亨三年」はNo.43造立三年後の元亨三年であろう。右側の「性賢三十三」は「性賢」の三十三回忌の供養のために造立した碑であることを示唆している。この二行の銘文には位置取りを



図9 No.43 (右:表左:裏)



図10 No.43・202・206出土位置関係

する為の細い縦野線が引かれているが、同様の野線が碑面左側にも認められる。

供養者の源政行なる人物については板碑の規模からみて、国人クラスの人物ではないかと推定されるが、残念ながら詳細不明である。被供養者と考えられる「性賢」についても詳細は分らないが、源政行が回忌供養を行っているので、この被供養者も源氏姓であろう。源氏姓で「賢」字を法名に持つ人物とすれば、同じ源氏姓の頼賢と関連のある人物であろうか。(一昨年報告参照)

また二基の破断箇所を観察するとNo.43は左右が、No.202・206は右側が半円形状に挟れている。これは背面から大きな木槌等で割られた痕跡である。この二基より小型または同規模で現在も島内に建っている板碑もあるが、それらは厚みが一〇cm程あり、破砕することとも移動させる事も困難であったために残ったと思われる。No.43と当碑は厚さ四cm程と薄かったために破砕され、海に投棄されたと思われる。

なお、一昨年の報告で「源氏姓を刻んだ板碑は松島町初検出」と報告したが、頼賢碑が禪宗様板碑として再認識されたので、No.43は二例目、No.202・206は三例目である。

⑧ No. 305

No.305は年号の一部「(欠)月廿四日(欠)」が残る小片である。彫りは「月」の一部に混乱があり、「廿」は浅く、石工が刻んだものでないことは一目瞭然である。なお、この銘文だけでは近世墓か板碑か判断できないが、板碑片として扱った。

⑨ No. 333

年号の一部のみが確認出来る小片。周辺から出土した多くの資料全てと接合関係を確認してはいないが、現在のところ同資料と接合するものはない。

⑩ No. 414

No. 414は種子の一部が残る板碑右側上部片である。種子は不明である。碑面は研磨され、下部に「右」字の上部と思われる刻みが見られる。

⑪ No. 422

仰月点をもつ「バン」を種子とする。「息女」の為に建てられた供養塔で、碑面中央に願文、左右に紀年を振り分けて刻む。種子の周囲に刺突具による加工痕が多数見られる。

⑫ No. 461

下半を欠失するが60cmを越す長さがあり、中型碑に類する板碑である。種子は護讃地藏を表す「イー」で、その下に涅槃経の偈を刻む。涅槃経の偈は四文字一組で一行とし横並びに刻まれることが多いが、当板碑は一行目「諸行無常 是生滅法」、二行目「生滅々已寂滅為楽」と刻む。ただし欠失のため下段の三・四文字目は失われている。

碑の頭部左右はやや円弧状に角を落とし、右側辺に打ち欠きによる加工が明瞭に残っている。

⑬ No. 546

金剛般若波羅蜜経の偈が刻まれた部分の小片で、二行確認出来

る。偈の右上方に種子の位置を決めるためと思われる円弧状の罫線がある。種子が右上方にあったとすれば、偈は四行あったものと思われる。

石質は黒く緻密で、玄昌石に近い。

⑭ No. 621

上部を欠失し、種子は不明である。碑面中央下に紀年銘、その右に被供養者名を刻む。

この板碑は昭和十六年五月十五日発行の『佛教考古學論叢』に掲載されている、松本源吉の「陸前宮城郡の古碑」第十二図109（以下古碑109とする）に該当する碑である。No. 621は種子部分を欠損し、彼のスケッチと違う部分もあるが、銘文が全く一致しているので、双碑でもない限り、同一碑といえる。後掲した図版に尺度を合わせた松本源吉のスケッチを掲載したので見比べていただきたい。

図によると古碑109の種子は仰月点を持つ「バン」で、命点が独立し、縦画が一画目にくい込む形態である。碑面中央下部に紀年銘が、その右側に「智道禪門」と彫っている。同図中のスケールからする



図11 No.621出土位置

と地上高二尺六寸Ⅱ約七八・八cm、最大幅は一尺五寸Ⅱ約四五・五cmとなるであろうか。さらに図下部の横線の表現は地面であろうから、松本源吉が調査した時、この板碑はいずれかの地点に建っていたと考えられる。

図11にNo.621の出土位置を矢印で示した。

・松本源吉が見た板碑 No.190

No.621とは別にもう一点、松本源吉がスケッチしたと思われる板碑が出土している。No.190は『佛教考古學論叢』に掲載されている、松本源吉の「陸前宮城郡の古碑」図十八188と同一ではないかと思われる。No.621の様に銘文がないので確定は出来ないが、図版に載せた彼の描いたスケッチと見比べていただきたい。どちらも石材は粘板岩、形状は長方形で、頭部右側に違いが見られるが、左辺の立ち上がりの中で内側に凹んだ後、円弧状に頭部まで続く形状は良く似ている。種子「バン」は仰月点がない、命点が独立している、縦画が一画目にくい込んでいるなど共通点が多い。

当資料は下三分の一が泥に刺さった状態で発見され、図版写真で分かる様に上部には貝が無数に付着していた。

・荘厳された種子 No.148・547

No.148の種子「バイ」は彫りが浅く、形状は不鮮明であるが、漆と金泥が残存しており、種子を荘厳していたことが分かる。島内においても金泥で荘厳された板碑が三基あり、これが四基目となる。残存する漆皮膜と金泥は著しく劣化しており、保護のため拓本は採っていない。

No.547は種子の部分が赤黒く変色している。漆皮膜や顔料等は残存していないが、色素が石材に沈着したための変色と考えられるので、赤色系の顔料で荘厳されていたと思われる。

・荘厳板碑を改刻した板碑 No.161

No.161は頭部を圭頭とし、「カ」を種子とする。種子の上下に横方向の野線が引かれ、左側に碑面下部まで続いていたであろう縦方向の野線を引いている。欠失しているが、右側にも同様の野線があったと推定される。さらに種子下側の野線から縦方向の野線が三本引かれ、碑面を五区画に区切っているが、銘文等は認められない。碑面半ばより下は欠失している。

種子に注目すると上下と右側にノミ痕が多数見られ、「キリーク」の一部を削る改変によって、「カ」としたことがわかる。また種子内は褐色に変色しており、削り残しのイー点にも認められるので、元々の種子「キリーク」は赤色系の顔料等で荘厳されていたと考えられる。

・宮城県初検出の種子 No.224・284・632・636

種子「ル」は「ラ」の右横に点が付いた形状(図12)で、「ロ」とも発音する。この種子が示す主尊は妙見菩薩、七仏薬師の宝月智嚴光音自在王如来、伊舎那天、羅刹天がある。

妙見菩薩は北極星を神格化したもので、妙見は優れた視力という意味

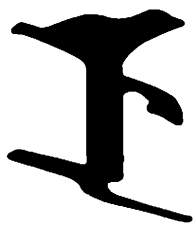


図12 種子「ル」

になる。そこから転じて眼病に御利益があるとされている。中世においては千葉氏や九戸氏一族の守り神であった。通常用いる種子は「ル」ではなく、梵名スダルシャナの頭字「ス」を使用する。

薬師如来は病気を治す仏として信仰され、その浄土は東方にあるという。七仏薬師の信仰では東方浄土は手前から七つの浄土が順に続いており、最も遠い浄土は薬師如来が居る浄瑠璃浄土で、宝月智厳光音自在王如来は手前から三番目の妙宝浄土を主催する仏となっている。ただ七仏薬師は七体そろっていなければ御利益がなく、宝月智厳光音自在王如来一体だけの種子を碑面に刻み祀る事はないと思われる。

伊舎那天は十二天の一つで、北東方角の護法善神である。仏教では大自在天の化身とされている。迷いや欲望を絶つため、または人生の無常さや身の儚さを悟らせるため、右手に三鈷戟、左手に血の入った杯を持ち、どくろの首飾りをしている。通常種子は「イ」または「イー」を用いる。

羅刹天は伊舎那天と同じく十二天の一つで、西南方角の護法善神である。四天王の一、多聞天の眷属として夜叉と共に仕える。手に持つ剣で煩惱を絶ち、法華経を信心する者を守護するといわれている。通常種子は「ニリ」もしくは「ラー」を用いる。

七仏薬師の一である宝月智厳光音自在王如来は単独で用いる事はないと思われ、残る三尊も通常用いる種子が別にあり、いずれも「ル」の主尊と確定しがたい。ただ雄島が、法華経を日夜唱え続け超常能力を身につけた見仏上人や、同じく法華経を日夜唱え、見仏

上人の再来といわれた頼賢の住した島である事を考慮したとき、私的には「ル」が表す主尊は羅刹天ではないかと思う。

・異字体種子 No.163・441・699

先述したNo.184・189の種子「ユ」に空点が付き、主尊が見当たらないため「ユ」の異字体としたが、これと同様、空点等が付加され、異字体とした種子があるので紹介したい。図13は弁尼地藏を表す「イー」の異字体と思われる例である。No.163・441は、空点が付く例で、読みとしては「イー」であろうか。No.699は「イー」の左右の点が各一点（本来は点ではなく小円）ずつになるところ、各二点ずつになっている例である。これらの種子に該当する主尊はなく、「イー」の異字体と考えざるを得ない。

「キリク」の異字体はよく見かけるが、空点等が付加されて異字体となった訳ではなく、今回の様に付加することによって異字体化する例は特殊な例となろう。この付加による異字体化は今後の課題であり、調査・研究していかなくてはならない。何方かのご教授、ご指導を是非ともお願いしたい。



図13

・No.180・273の種子について

No.180の種子は「ナ」としたが、「タ」の可能性もある。「ナ」は一

画目である斜め部分の左側が円弧状に上がる（さらにその先端の位置に点が入る場合がある）。しかし当資料の種子は直線で刻まれ、この点だけを見れば「ナ」ではなく「タ」になる。しかし「ナ」・「タ」共に二画目の縦線下端は右にはらった状態になるが、当資料の種子は下端をはらっていない。「ナ」・「タ」どちらともいえるが今回は前例のある「ナ」を選択した。なお「タ」であれば主尊は梵天、金剛光菩薩、金剛燈菩薩があり、県内初検出の種子と思われる。

No.273は月天を表す「シャン」とした。これは雄島島内にある板碑で月天を表す「シャ」とした種子の前例があり、これに従って「シャン」としたものである。ただ「バン」ではないかという疑問が残らないでもない。図14を見ていただきたい。「バン」と「シャン」は横画の下側の左側に出る部分が湾曲するか、「く」字状になるかの違いだけである。No.273の問題の部分は「く」字状であるから、「シャン」の特徴と一致する。しかし種子全体を見ると、横画が直線または下方へやや膨らむ円弧状となるところ、直線2本で「へ」を逆さにした様に彫っている。さらに彫り自体が粗く、葉研彫の底線がはみ出している箇所もあり、石工が彫ったものとは思えない。石工が手が



図14

けた様な綺麗な彫りであれば「シャン」で納得するが、これは湾曲線を彫る技術を持たない人物が、曲線となるべき箇所を簡易的に直線で彫った様に見える。だとすればこれは「シャン」ではなく素人が彫った「バン」と解することもできよう。

またNo.273だけでなく、形状から「シャン」とすべきではないかという種子は多く、これらすべてが月天を表すとすれば、「バン」とした種子の半数近くがこれに当たり、極めて特異な状況となる。どこで区別すべきか、今後の課題となろう。

・円礫の板碑 No. 204

殆どの井内石製板碑は板状に割られた材を使用しており、時折No.463の様な川原石であった時のなめらかな面を残しているものもあるが、当資料は扁平な縦長の円礫をそのまま利用している。長さ二五・五cmと小さく、種子は不動明王を表す「カーン」である。後年の調査で同形態の板碑が出土している。

・再利用の板碑 No. 482

当資料は長さ四四・五cmの完形品で、種子は金剛界大日如来ほか多くの主尊を表す「バ」である。種子の右側に別の葉研彫が見られ、彫刻方法が違っている。「バ」の葉研彫は底線に対してノミ痕が直行しているが、問題の葉研彫りはノミ痕が並行になっている。この位置に、しかも片側だけに刻みを付ける事に意味は無く、この葉研彫は別の種子の一部であると考えた。彫り幅や深さからすると種類は不明ながら相当大きく、当資料は中・大型碑を割って製作したと考えられる。これまで碑面を改刻した板碑の例（No.161等）はあった

が、中・大型碑を割って新たに板碑を製作した可能性がある資料は初めてであり、今後雄島の板碑を研究する上で貴重な資料である。

・長さ30 cm以下の板碑

No. 115・136・204・233・284・286・311・375・509・547・642・654

雄島島内の板碑はほとんどが小型板碑と言われているが、海底から表採した資料を見ても小型板碑が多い状況である。しかしその中においても、極めて小さい板碑が確認されている。右に挙げた十二点は完形もしくはわずかに欠失しているが、長さ30 cm以下の板碑である。銘文等は無く、種子のみが稚拙な彫りで碑面上部に刻まれている。最も小さいNo. 642は長さ20・5 cm、幅8・7 cm、種の大きさは縦2・5 cm、横1・5 cmしかない。

この極めて小さい板碑に関して、二〇〇九年三月十五日に瑞巖寺で行われたシンポジウム「雄島の板碑」において千々和到氏は「奉納する板碑ではないか」と発言されている。つまり、独立して造立するのではなく大型碑に結縁する様な形で納めたものではないかという。今まで板碑は小型であっても地面に建てるものだという感覚しか無かったが、氏の指摘に確かにその通りであるとその場で納得がいった。今、多くの人がお寺で健康、家内安全、先祖供養等の為に写経をし、奉納しているが、この感覚に近いのではないか。石材を手に入れ自分で、もしくは手慣れた人に種子を彫ってもらい、逆修や供養の念を込め雄島的大型碑近くまたは雄島自体に奉納したのではないだろうか。

この極めて小さい板碑に関しては年代や性格等、検討しなくては

ならないことが多く、今後の課題となろう。なお、二〇〇六年表採のNo. 1・49も30 cm以下の資料である。

(新野 一浩)

二 二〇〇七年採集板碑・資料編

1. 一覧表

雄島海底板碑については、採集作業のたびに新野一浩氏が計測・碑面観察・写真撮影をおこなっている。資料編では、二〇〇七年に採集した資料五九四点の基本情報(採集板碑一覧表)を提示する(二〇〇六年分については、前稿「松島町雄島周辺海底採集板碑の報告(一)」『東北学院大学東北文化研究所紀要』第四四号、二〇一二年に掲載した)。

採集した資料は、その順番に番号を付し、高さ・幅・厚さの法量を計測した。備考欄には、銘文や加工に関する所見を記載した。ガイド欄は、前掲図4における出土地点を示す。採集作業日については、最大干潮時刻(この時刻の前後合わせて三時間程度が採集作業の可能時間帯である)とその時の海水面の高さ、作業員名を記録として記載した。

2. 写真・拓本・釈文・データ表

つぎに、新野が作成した一覧表の中から種子や銘文が認められる資料をピックアップし、写真・拓本・データ表・釈文を提示する。

釈文は左右に実線を配して、その内側に示した。種子、偈頌、紀年銘、願文などの文字のみを示し、枠線などは示さなかった。梵字（悉曇）は片仮名で表記し、種子として使われている場合は（ ）内に記した。ただし、碑面に種子のみしか認められない資料については、釈文の提示を省略した。銘文が判読できない箇所については、内容から明らかに文字の存在が推定できる場合、文字数に応じて□で示した。文字数が不明の場合は□□で示した。また、その文字が推定可能な場合は傍注で示した。

データ表には一覧表の番号（漢数字により表記）、年代、保存状況、石材、法量、種子法量、種子調法、形状、備考記事を掲げた。法量の数値はすべてセンチメートルである。種子法量については、①縦および横の数値は原則として種子となる梵字の縦軸を垂直にした向きを基準に計算した、②彫幅は梵字を構成する画の中で最も幅の広い部分を計算した、③彫深は現状で最も深い部分を計算した（種子が欠損している計測が難しい場合、——を示し数値を記入しなかったものがある）。種子調法については、種子の彫り方の断面形態と彫刻技法を示した。形状については、石材の形状や加工技法、碑面の調整、破損状況などを示した。加工技法については、先端の尖った工具で板碑の輪郭を造り出している技法を「敲打」、石材を割り取って板碑の形状を造り出している技法を「割り矧ぎ」と表現した。備考欄には、改刻、偈頌の出典、野線などの記事を示した。板碑の碑面・背面の左右については、碑面に対しての左右を示した。

データ表の作成については『仙台市史 特別編5板碑』（仙台市、

一九九八年）を参照し、資料の整理作業には岡山卓矢、乙戸崇、菊地航平、倉田祐介、瀬戸秀一、長澤伸樹、中村貴昭、七海雅人、新野一浩、福田慶二郎、星由香里、松田陽子、松本尚也、森祐一朗、吉成恵美がたった。

（七海 雅人）

2007年採集板碑一覧表

No.	種子	法量(mm)	備考	ガイド
20070408	干潮13:22	海水面8cm	作業員 七海雅人 高橋 潤 高橋周子 吉成恵美 乙戸 崇 新野一浩	
104	キリーク	591×270×40	下端欠失 願文「右意趣者為妙(欠) 修冥福莊嚴(欠) 供養矣伏願妙寿(欠) 菩提矣 治午卯(欠)」	F-18
105	—	630×220×30	上部欠失/罫線上部2本・下部2本・右1本・左2本	F-20
106	—	220×145×15	碑面に加工痕?/背面(母岩面)に横方向の擦痕多数、加工(削り)/河 原石状の石材の剥離片	F-20
107	—	340×140×20		F-19
108	—	175×165×15		F-20
109	バ	463×152×29		F-21
110	バン	228×150×20	上部片/背面に加工(削り)痕	F-21
111	—	275×190×55		F-21
112	カ	410×205×27	下端欠失/罫線種子の上下に各2本・碑左右に各1本・碑中心に1本	F-21
113	—	85×100×10		F-21
114	—	145×80×20		F-21
115	イー	212×188×29	石材を横目にして使用/種子小さい	G-21
116	—	360×210×35		F-21
117	カ	220×140×20	上部片/種子彫り浅い	G-21
118	サ	580×180×40	種子上部剥離欠失/種子縦長	G-21
119	バン	460×150×30		G-14
種子有り: 8 文字のみ: 0 破片: 8 計 8 0 8 合計16(通算56 2 61 119)				
20070421	干潮12:06	海水面-3cm	作業員 高橋 潤 新野一浩	
120	カ	395×137×20		F-21
121	不明	165×209×30	種子下部のみ残存	F-21
122	—	555×185×25		F-21
123	ラ	520×295×48	下端欠失	F-21
124	カ	495×180×40	下端欠失/種子下に蓮台(側面観)/蓮台下に年号等 「僧鏡(欠) 康永四年二月四日(欠)」	F-21
125	バン	460×170×40	石質玄昌石に近い	F-21
126	—	360×160×20	割痕ノミ幅1.1cm/石質玄昌石に近い	F-21
127	—	440×250×40		F-22
128	バン	450×125×30	両面擦痕	G-21
129	—	215×155×30	河原石状の石材/石質玄昌石に近い	F-22
130	—	275×190×40	碑面擦痕/石質玄昌石に近い	F-22
131	—	270×190×15	碑面擦痕・刺突痕/罫線1本?	F-22
132	不明	289×210×11		F-22
133	—	555×166×30	節理面に沿って、縦方向に欠損 「(欠) □□□□(欠)」	F-22
134	サ	226×183×36	上部片	F-22
135	—	290×120×20		F-22
136	ラ	255×117×20		F-22
137	—	250×120×15	石質玄昌石に近い	F-22
138	不明	221×215×16	碑面擦痕/石質玄昌石に近い	F-23
139	サ	576×180×41		F-23
140	—	390×140×15	碑面罫線2本	F-23
141	—	210×190×20	下部片?	F-23
142	—	170×110×20		F-23
143	—	135×95×5	河原石状の石材の剥離片/石質玄昌石に近い	F-23
144	—	126×134×15	石質玄昌石に近い	F-23
145	ラ?	311×172×33	種子中心部欠失/下部欠失	F-23
146	—	360×290×20	石質玄昌石に近い	F-23
147	—	350×215×25	碑面擦痕多数/石質玄昌石に近い	F-23
148	バイ	405×213×47	種子に金泥/石質玄昌石に近い	F-23
149	カ	170×175×31	下端欠失/種子小さい/背面擦痕	F-24
150	—	200×120×20	下部片?	F-24
151	—	210×105×15	石質玄昌石に近い	F-24
152	—	300×225×25		F-24
153	—	265×125×30	河原石状の石材	E-24
154	—	225×185×10	石質玄昌石に近い	E-24
155	—	290×170×30		F-24
156	—	295×225×25		F-24
157	不明	610×270×40	上部欠失/願文の上下・右側に罫線 「右志者為妙阿彌陀七分 (欠)得勝斎道色佛母折 (欠)出地乃至萬有情故也 (欠)年卯月日願主□白」	F-24

No.	種 子	法 量 (mm)	備 考	ガ イ ド
158	バン	305×167×40	上端欠失／下端欠失？／碑面擦痕	F-24
159	ナ	440×178×35	碑面擦痕	G-14
160	ー	410×165×35	石質玄昌石に近い	G-14
161	カ	483×282×38	種子キリークをカに改変／種子内部茶色に変色／頭部圭頭／種子上下左右に野線 種子下の野線から下、等間隔に縦野線3本	F-21
162	ー	515×335×25		F-21
種子有り：17 文字のみ：2 破片：24 計 25 2 32 合計59 (通算73 4 85 162)				
20070504 干潮11:01 海水面-8cm 作業員 七海雅人 高橋 勝 高橋 潤 高橋周子 吉成恵美 瀬戸秀一 山田祐介 福田慶二郎 新野一浩				
163	イー	849×200×49		H-9
164	ー	195×135×15		H-9
165	ー	230×135×20		H-9
166	ー	190×105×35		H-9
167	ー	175×120×25	石質玄昌石に近い	H-9
168	ー	210×130×10		H-10
169	ー	320×170×20		H-10
170	ー	230×140×25		H-10
171	ー	120×70×5		H-9
172	ー	75×60×10		H-9
173	ー	215×140×30		H-9
174	ー	180×100×20		H-9
175	ー	80×75×15	碑面に擦痕	H-9
176	ー	230×110×15	碑面に擦痕？	H-9
177	ー	180×125×40		H-9
178	ア	318×340×45	上部片	H-10
179	不明	255×115×17	種子一部残存	H-10
180	タ	371×170×45		F-5
181	ラ	220×150×40	種子の彫り浅く、小さい	F-5
182	カ	393×155×39		F-5
183	ー	200×150×25		F-5
184	ユン	555×213×20	碑面に擦痕／No.189と接合 「福戒禪門 文和□二四月六日施主 敬白」	F-5
185	ー	240×80×15	碑面に削り、擦痕／石質玄昌石に近い	F-5
186	ー	290×250×35	碑面に擦痕	F-5
187	ー	340×210×35	碑面に擦痕	F-5
188	カ	355×195×30	種子の彫り浅い／下部欠失	E-5
189	ー	555×213×20	碑面に擦痕／No.184と接合 「福戒禪門 文和□二四月六日施主 敬白」	F-5
190	バン	857×330×80	石材横目に使用／海底に突き刺さっていた資料	F-5
191	ー	415×160×25	碑面削り痕／石質玄昌石に近い	F-5
192	ー	125×95×20	石質玄昌石に近い	F-5
193	バン	440×175×35	種子彫り浅い／碑面に擦痕／石質玄昌石に近い	F-5
194	ー	260×120×50		F-5
195	バ	455×250×50		F-5
196	ー	230×145×20		F-5
197	ー	370×125×30		E-6
198	ー	220×50×40		F-8
199	不明	310×165×40	上端欠失／種子上部欠失／背面下部に削り痕	G-9
200	ー	190×135×20	両面擦痕多数	G-9
201	ー	690×225×25	上下部・左側辺部欠失／No.41と接合 「諸行無常 右志趣者相□逆修作普 (欠)滅法 文保二年戊午二月十五日 敬白」 41+201の法量 990×330×30	G-9
202	キリーク	720×518×40	No.206と同一個体	H-10
203	ー	620×245×35	上部欠失／上下に2本1組の横野線	H-10
204	カーン	255×115×43	上部右側欠失／河原石状の石材	H-10
205	カ	470×197×31		H-10
206	ー	934×525×50	No.202と同一個体 「(欠)性賢三十三(欠) (欠)享三年八月二十一日源政行敬白」	H-10
207	ー	85×50×10	石質玄昌石に近い	H-9
208	ー	165×65×20		H-9
209	ー	180×80×20		H-9
210	ー	140×120×45	碑面に削り・刺突痕	G-9
211	ー	245×140×20		G-9
212	ー	115×60×15		G-9
213	マ	245×170×40	上部片	G-9
214	ー	300×160×25		G-9

No.	種子	法量 (mm)	備 考	ガイ ド
215	—	110×60×35		G-9
216	カーン	170×140×26	種子の彫り浅い／上部片	G-9
217	—	195×100×30		G-9
218	—	160×70×35		G-9
219	—	210×150×15		H-10
220	—	260×130×25		H-10
221	—	295×250×30	縦罫線1本、横罫線1本	H-10
222	サ	505×210×30	上端欠失	H-10
223	パン	614×186×32	碑面背面に擦痕／種子の彫り浅い	H-10
224	ロ	362×168×17		H-10
225	—	245×145×15		H-9
226	—	180×130×40		H-9
227	ラ	150×138×23	碑面削り痕	H-10
228	—	220×155×25		H-10
229	—	180×100×15		H-10
230	キリーク	796×290×38	碑面中央に削り痕（文字を消した跡か）	H-10
231	カー	320×235×25	上部片／種子上下に罫線	H-10
232	ラ	560×250×35		H-10
233	ラ	270×100×20	頭部圭頭／下端わずかに欠失	H-10
234	—	150×70×20	碑面に削り痕	H-9
235	—	85×80×10		H-9
236	—	115×90×10		H-9
237	サ	195×155×20	石材を横目にして使用	H-9
238	—	145×110×10		H-9
239	—	80×160×10		H-9
240	—	105×80×10		H-9
241	—	90×70×15	碑面に擦痕	H-9
242	—	100×45×5		H-9
243	—	140×45×25		H-9
244	—	75×95×15		H-9
245	—	100×50×10		H-9
246	ラ?	125×140×25	種子彫り浅い／上部片	H-9
247	—	60×40×3		H-9
248	—	180×110×20		H-9
249	—	95×100×15		H-9
250	—	130×65×3	石質玄昌石に近い	H-9
251	不明	104×76×5	種子の一部残存／石質玄昌石に近い	H-9
252	—	70×65×5		H-9
253	—	55×35×3		H-9
254	—	65×40×3		H-9
種子有り: 28 文字のみ: 0 破片: 61 計 52 2 94 合計148 (通算100 4 147 251) * No.184・189、41・201は接合、No.201・206は同一個体として扱い、総数はNo数-3となる。				
20070518 干潮 10:37 海水面-8cm 作業員 乙戸 崇 新野一浩				
255	イー	360×235×49	上部片／種子下部欠失	G-14
256	—	400×160×50	安山岩／碑面上端より8cmの位置に横罫線?／碑面背面に擦痕	G-14
257	パン?	327×137×52	種子彫り浅く、不鮮明	G-14
258	サク	750×244×35	種子上半欠失／種子下、碑面下部、同右側に2本1組の罫線、碑面左側に罫線1本	G-13
259	—	255×165×20		G-13
260	バーンク?	440×290×20	上部片	G-13
261	不明	355×215×40	上部片	G-14
262	カ	400×190×21	種子彫り浅い／上端欠失	G-13
263	—	520×295×25		G-13
264	キリーク	240×140×14	種子右側残存	G-13
265	—	410×240×25	石質玄昌石に近い	G-13
266	—	240×270×25	碑面に等間隔で縦罫線4本	G-13
267	—	240×150×30		G-14
268	パン	655×170×40	上端左側欠失	G-14
269	バイ	361×169×23	種子彫り浅い／頭部圭頭	G-14
270	—	395×160×40	碑面上部に削り痕	H-14
271	—	195×105×40		H-14
272	カン	535×170×27	下部欠失	H-14
273	シャン	310×145×15	下部欠失／石質玄昌石に近い	G-14
274	—	370×305×25	下部片?	H-14
種子有り: 11 文字のみ: 0 破片: 9 計 63 2 103 合計168 (通算111 4 156 271) * No.184・189、41・201は接合、No.201・206は同一個体として扱い、総数はNo数-3となる。				

No.	種子	法量 (mm)	備考	ガイド
20070520	干潮11:55 海水面-5cm	作業員 山崎雄 高橋周子	高橋 勝 吉成恵美	瀬戸秀一 新野一浩
			福田慶二郎	乙戸 崇
275	カ	190×150×20	碑面削り痕	H-9
276	カ	129×82×20		H-9
277	—	265×100×30	碑面削り痕	G-9
278	—	230×145×20	石質玄昌石に近い	G-9
279	—	160×65×40		G-9
280	ラ	300×195×35	上部片	G-9
281	—	340×180×25		G-9
282	サ?	263×135×30	下部欠失/種子風化により不鮮明	G-9
283	—	240×120×35	碑面削り痕	G-9
284	ロ	252×115×14		H-10
285	—	210×65×20		H-10
286	ラ	285×110×30	周縁整形	H-10
287	不明	416×178×32	上部欠失/種子下端部残存	H-10
288	—	270×200×25		H-10
289	—	280×160×20	碑面背面擦痕	H-10
290	バク	225×225×30	上部片	H-10
291	—	65×125×15		H-10
292	—	360×210×15		H-10
293	ア	1022×280×77		H-10
294	カ	505×224×34	下端欠失	H-10
295	ラ	225×138×25	上部片	H-10
296	—	310×205×30		H-10
297	ラ	250×120×35	下部欠失	H-10
298	—	340×250×40	下部片	H-10
299	—	300×170×25	碑面削り痕	H-10
300	不明	285×120×20	種子一部残存	H-10
301	ア	640×320×35	頭部圭頭/下端欠失	H-10
302	ラ	690×305×34	周縁整形	H-10
303	—	215×85×35		H-10
304	—	100×115×15		H-10
305	不明	120×80×41	「(欠)月廿四日(欠)」	H-10
306	アク	1030×280×55		H-10
307	—	300×280×25	石質玄昌石に近い	H-10
308	—	240×120×25	碑面削り痕	H-10
309	—	205×130×40		H-10
310	—	200×130×30		H-10
311	カ	200×115×20	下端わずかに欠失	H-10
312	キリーク	175×70×20	種子下部残存/No524と接合	H-10
313	—	245×105×20		H-10
314	—	540×200×75	上下端欠失/両面削り痕	H-10
315	—	255×140×20		H-10
316	—	90×85×5		H-10
317	—	85×90×10		H-10
318	キリーク	810×300×50		H-10
319	—	105×50×8	石質玄昌石に近い	H-10
320	—	80×40×8		H-10
321	—	155×125×15		H-11
322	—	270×130×30	碑面削り痕	H-11
323	—	215×100×35	削り痕/横罫線1本	H-11
324	不明	310×149×16	上端碑面剥離欠失/種子下部残存/石質玄昌石に近い	H-11
325	—	185×115×15		H-11
326	不明	325×130×40	上端欠失/種子上端欠失	H-11
327	不明	460×185×25	種子彫り浅い/種子はカにイー点が付くように見える。涅槃点らしきものが一つ見られるので、キリークの異字体とも思えるが、種子下の斜線部が無い/種子上下、碑面下部に横罫線各1本、種子下横罫線と碑面下部間に縦罫線3本	H-11
328	—	140×140×15	碑面削り痕	H-10
329	—	270×75×20	下部周縁整形	H-10
330	マン	550×250×30	種子上下に横罫線各1本、碑面左上部に縦罫線1本/周辺整形	H-10
331	—	130×60×15		H-10
331	—	130×60×15		H-10
332	—	135×95×15		H-10
333	不明	86×95×15	「(欠)貞治五(欠)」	H-10
334	—	165×165×25		H-10
335	—	170×80×20	周縁整形/碑面擦り痕/被熱?	H-10
336	—	95×165×20		H-10
337	—	140×130×15		H-10
338	—	170×80×20	碑面擦痕/周縁整形/被熱	H-10

No.	種子	法量(mm)	備 考	ガイド
339	不明	105×130×24	種子一部残存	H-10
340	—	230×140×25		H-10
341	—	170×70×15		H-10
342	—	235×100×10		H-10
343	バ	265×160×27	上部片	H-10
344	アク?	165×155×22	種子右側残存	H-10
345	—	135×95×10		H-10
346	—	155×150×25		H-10
347	—	125×70×10	碑面削り痕	H-10
348	—	155×125×25		H-10
349	不明	120×80×15	種子の一部残存/石質玄昌石に近い	H-10
350	不明	110×97×11	剥離片/種子一部残存	H-10
351	—	205×145×35		H-10
352	キリーク	653×306×33	横罫線2本、縦罫線2本	F-9
353	—	240×160×15	碑面擦り痕/周縁整形	F-9
354	バ	510×190×26	碑面風化	F-9
355	不明	114×85×9	上部片/種子一部残存	F-8
356	—	195×215×10		F-8
357	—	110×95×15		H-11
358	—	145×150×35		H-11
359	—	135×135×20		H-11
360	—	145×130×15	碑面背面削り・擦痕	H-11
361	—	135×130×20		H-11
362	ラ?	206×196×21	上部片/種子上部残存	H-11
363	—	130×75×30		H-11
364	—	185×120×15		H-11
365	カ	332×240×30	上部片	H-11
366	—	110×100×15		H-11
367	—	150×90×25		H-11
368	—	130×30×20		H-11
369	—	240×100×20		H-11
370	カ	215×88×25	下部欠失	H-11
371	ラ	260×153×20	下部欠失	H-11
372	不明	170×103×21	種子と思われる一部が残存	H-11
373	バク	630×197×50		H-11
374	—	240×120×30	下端に横罫線1本?	H-11
375	マ	270×142×38	種子左削り整形	H-11
376	—	145×110×40		H-11
377	ラン	480×140×30	頭部圭頭/碑面削り痕/下端欠失	H-11
378	—	220×120×40		H-11
379	—	235×150×20	石質玄昌石に近い	H-10
380	—	115×115×20		H-10
381	—	145×150×20	碑面擦痕	H-10
382	—	290×105×30		H-10
383	—	230×120×25		H-10
384	—	80×120×10		H-10
385	—	100×40×10		H-10
386	—	190×55×25		H-10
387	—	70×100×10	石質玄昌石に近い/No.395と接合	H-10
388	不明	95×100×20	上部片/種子上部欠失	H-10
389	—	165×110×25		H-10
390	ラ	365×167×40	種子下に横罫線2本	H-10
391	—	145×80×15		H-10
392	—	160×85×15		H-10
393	—	105×80×5	石質玄昌石に近い	H-10
394	—	140×75×10	石質玄昌石に近い	H-10
395	—	90×80×3	No.387と接合	H-10
396	—	110×45×15		H-10
397	—	200×65×15		H-10
398	—	80×105×8		H-10
399	—	125×60×25		H-10
400	—	90×80×5		H-10
401	カ	203×118×18	上部片/種子上下に横罫線/背面擦痕	H-10
402	—	85×85×10	碑面削り痕	H-10
403	—	80×25×5		H-10
404	—	60×90×20		H-10
405	—	120×110×20	石質玄昌石に近い	H-10
406	—	180×75×20		H-10
407	—	90×105×15		H-10
408	—	210×115×25		G-9

No.	種子	法量(mm)	備考	ガイド
409	バク	120×100×20	右上部片／碑面風化	G-9
410	—	120×95×20		G-9
411	—	265×180×20		G-9
412	ラ	380×201×21	下部欠失	G-9
413	バン	365×170×40	頭部圭頭／種子彫り浅い／下部欠失	G-9
414	不明	253×92×30	種子・文字の一部残存／碑面削り・擦り痕多数	G-9
415	—	180×140×20		G-9
416	—	160×110×25		G-9
417	—	205×95×20		G-9
418	—	220×115×20	碑面削り痕／刺突による剥離痕？	G-9
419	不明	210×180×25	上部片／種子一部残存	G-9
420	—	140×90×20		G-9
421	—	210×40×15	石質玄昌石に近い	G-9
422	バン	415×160×40	種子周囲刺突痕多数 「正和五年 奉為忌女 三大月十八日」	G-9
423	—	215×60×35		G-9
424	—	120×50×15		G-9
425	—	200×130×25		G-9
426	—	180×135×25		G-9
427	カ	230×115×14	上部片／背面削り痕	G-9
428	—	205×120×20		G-9
429	—	65×80×15		G-9
430	—	210×50×5	石質玄昌石に近い	G-9
431	—	110×130×15		G-9
432	—	170×80×25		G-9
433	—	120×125×10		G-9
434	—	95×40×10		G-9
435	—	105×150×20		G-9
436	—	195×85×25		G-9
437	—	140×125×15		G-9
438	—	110×105×5	碑面擦り痕	G-9
439	—	170×60×15		G-9
440	—	60×75×10		G-9
441	イー	260×150×30	上部片	G-9
442	—	75×35×8	碑面削り痕	G-9
種子有り：52 文字のみ：2 破片：113 計 115 4 216 合計335 (通算163 6 269 438) * No184・189・41・201・387・395は接合、No201・206は同一個体として扱い、総数はNo数-4となる。				
20070603 干潮11:31 海水面-6cm 作業員 畠山篤雄 福田慶二郎 乙戸 崇 高橋周子 吉成恵美 新野一浩				
443	—	190×100×28		F-16
444	—	270×140×18		F-16
445	—	250×90×20	石質玄昌石に近い	F-15
446	—	265×125×20	石質玄昌石に近い	F-15
447	—	325×145×40	碑面擦り痕	G-15
448	タラ	707×175×26	頭部圭頭	G-15
449	—	340×145×30	碑面削り痕	G-15
450	—		(欠番)	
451	バン	370×170×31	周縁整形	G-14
452	—	200×125×10	石質玄昌石に近い	G-14
453	—	220×130×20	石質玄昌石に近い	G-14
454	—	125×75×17	碑面削り痕	H-14
455	—	300×180×30	剥離しやすい	G-13
456	サク	617×193×44		G-13
457	ラ	633×221×48		G-13
458	—	190×135×20		G-12
459	マン	195×183×14	上部片／全体波に洗われている	F-4
460	シャ	330×115×28	碑面上端剥離欠失	D-6
461	イー	615×320×32	種子上に2本、下に1本横線／下部欠失 偽「諸行無常 是生滅(欠) 生滅々為 寂滅為(欠)」	D-7
462	サク	925×240×40	碑面削り痕／下端欠失	G-4
463	ラン	450×170×35	全体風化？／河原石状の石材	G-4
464	—	98×107×15	石質玄昌石に近い	G-4
種子有り：9 文字のみ：0 破片：13 計 124 4 229 合計357 (通算172 6 282 460) * No184・189・41・201・387・395は接合、No201・206は同一個体として扱い、総数はNo数-4となる。				
20070617 干潮11:08 海水面-3cm 作業員 七海雅人 高橋 勝 高橋 潤 福田慶二郎 高橋周子 吉成恵美 新野一浩				
465	—	375×175×35	碑面擦り痕	H-3

No.	種子	法量 (mm)	備考	ガイド
466	ラ	220×110×20	上部片	H-3
467	—	260×165×30	碑面削り・擦痕／背面擦痕	H-2
468	—	290×220×35	下部片／横野線 2 本	H-2
469	—	330×210×25	碑面削り痕	G-3
470	—	430×195×30	表背面擦痕	H-3
471	—	260×235×28	刻線？ 1 本	G-3
472	—	830×400×70	石質玄昌石に近い	I-2
473	バ	513×310×24	下部欠失／碑面削り・擦痕	I-2
474	—	315×135×20	完形と思われるが種子無し／碑面擦痕	I-2
475	—	170×45×38	角棒状片／碑面擦痕	I-2
476	—	320×180×60	碑面擦痕	I-2
477	—	180×100×15		I-2
478	—	130×100×13		I-2
479	—	190×150×30		I-2
480	—	160×95×13	碑面削り・擦痕／石質玄昌石に近い	I-2
481	不明	200×188×38	上部片／種子右・下部欠失	I-2
482	バ	445×107×25	種子右側に別の種子の一部が残存？ 再利用か？	G-2
483	—	440×235×38	下部片／横野線 2 本、縦野線 4 本	G-3
484	—	260×180×17		G-2
485	—	175×77×12		G-2
486	—	120×40×15		G-2
487	—	270×140×30		G-2
488	ラ	290×150×33	下端欠失／背面削り・擦痕	G-2
489	—	200×90×10		G-2
490	—	240×130×20		G-2
491	—	113×100×10		G-2
492	—	380×210×35	碑面擦痕？	G-3
493	ラ	490×140×30	頭部圭頭	G-3
494	—	155×100×10	石質玄昌石に近い	G-3
495	—	150×75×20		G-3
496	—	265×100×15		G-2
497	バン	505×135×40		G-3
498	—	180×155×20	表背面削り・擦痕	G-3
499	—	175×135×20	碑面擦痕	H-1
500	—	130×140×10	上部に横野線 1 本	H-2
501	ロ	460×235×23	中央やや左に刺突痕	G-2
502	—	215×150×15		G-2
503	カ	390×165×35	種子彫り浅い／下端欠失	G-2
504	イー	413×155×18	碑面擦痕／上端欠失	I-2
505	ラ	193×135×35	上部片／種子彫り浅い／碑面擦痕	I-2
506	—	130×110×33		G-2
507	—	210×220×25		G-10
508	—	190×85×13		G-10
509	ラン	273×121×18	種子彫り浅い	G-10
510	—	265×140×23	横野線 1 本	G-10
511	—	210×120×28	碑面削り痕	G-10
512	—	260×75×25	碑面擦痕	G-10
513	—	180×170×15		G-10
514	—	190×145×13		G-10
515	—	210×100×15		F-9
516	—	140×125×18		F-9
517	バン	180×140×20	上部片／種子右側残存／種子削り・擦りにより不鮮明。	F-9
518	バン	215×134×43		F-9
519	—	150×120×18		F-9
520	—	120×125×8	碑面擦痕／石質玄昌石に近い	F-9
521	ラン	235×95×30	上部片／種子彫り浅い／頭部圭頭	F-9
522	不明	290×135×25	上部欠失／種子下半残存／碑面擦痕	H-9
523	—	230×110×18		H-10
524	キリーク	230×113×35	上部片／№312と接合	H-10
525	—	230×105×35		H-11
526	—	160×70×20	石質玄昌石に近い	G-10
527	—	190×125×15	碑面擦痕	G-10
528	—	100×50×13		G-10
529	—	260×210×25	碑面擦痕	G-10
530	不明	200×145×40	上部片	G-10
531	—	290×150×23		G-10
532	—	170×65×40	碑面擦痕	G-10
533	—	285×115×20		G-10
534	—	215×95×25		G-10
535	—	160×145×18	右上に刻線？ 2 本、文字の一部？	G-10

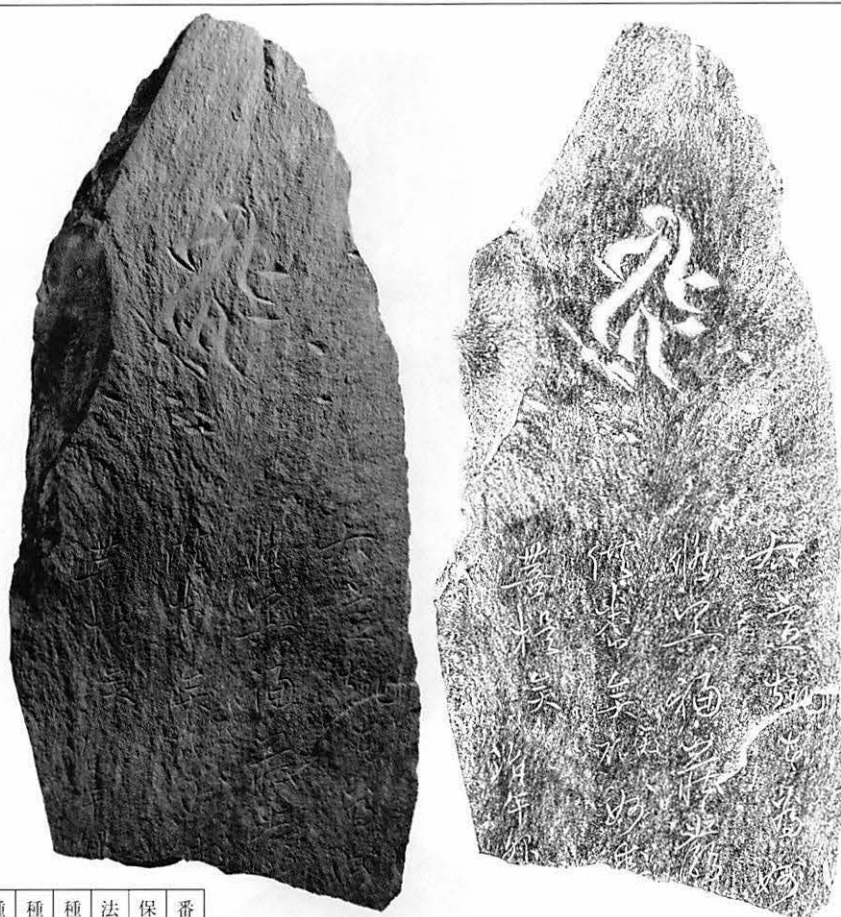
No.	種 子	法 量 (mm)	備 考	ガイ ド
536	—	170×125×13		G-10
537	—	305×83×20	碑面擦痕	G-10
538	—	330×145×30		G-10
539	—	185×85×15		G-10
540	—	150×100×20		G-10
541	—	160×40×15	上部に横罫線1本、中心に縦罫線1本/右側面下部・左側面上部に擦痕	G-10
542	—	230×90×18	碑面擦痕	G-10
543	不明	210×160×40	種子の一部残存	G-10
544	—	120×90×18	碑面擦痕	G-10
545	—	160×130×13		G-10
546	—	186×113×14	横罫線3本、縦罫線2本、種子位置取り用丸形罫線2本/石質玄昌石に近い 偽「(前行欠失)如露亦如電/応作如是観」(金剛般若波羅蜜經)	G-10
547	パン	242×140×15	下端欠失/種子赤色系顔料/碑面削り痕/石質玄昌石に近い	G-10
種子有り: 20-1 文字のみ: 1 破片: 62 計 143 5 291 合計440 (通算191 7 344 542) * Na184・189、41・201、312・524、387・395は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-5となる。				
20070701	干潮10:44	海水面±0cm	作業員 畠山篤雄 高橋 勝 洪谷悠子 高橋 潤 福田慶二郎 乙戸 崇 高橋周子 吉成恵美 新野一浩	
548	—	267×185×37	碑面削り痕/石質砂質強い	G-9
549	パン?	330×170×30	種子右上部欠失/碑面下部中央に深い削り痕多数(既存の種子・銘文を消した可能性?)	G-9
550	—	74×45×4	石質玄昌石に近い	G-9
551	—	250×145×25	碑面削り痕/横罫線2本/下部片	G-9
552	—	390×167×36	両面削り痕	G-9
553	—	148×100×14		G-9
554	—	70×47×26		G-9
555	—	280×133×40	下部片?/横罫線2本	H-9
556	—	165×70×23		H-9
557	—	100×86×20		H-9
558	バク	240×112×40	上部片	H-9
559	—	215×116×24	下部片/横罫線2本、縦罫線1本	H-9
560	—	190×95×22		H-9
561	—	140×100×15		H-9
562	—	210×140×13		H-9
563	—	170×140×30		H-9
564	—	180×107×12	碑面擦痕	H-9
565	—	178×83×26		H-9
566	—	192×110×15	碑面擦痕/下部(基部?)片	H-9
567	—	120×105×7	碑面擦痕/石質玄昌石に近い	H-9
568	—	125×110×7	石質砂質強い	H-9
569	—	115×73×13		H-9
570	—	72×42×3		H-9
571	—	156×123×22	上部片?/削り痕(既存の種子・銘文を消した可能性?)	H-9
572	—	193×148×14	碑面下端に擦痕	H-9
573	—	245×103×30	碑面擦痕	H-9
574	—	183×140×17		H-9
575	—	108×63×12	被熱	H-9
576	—	190×125×15		H-9
577	不明	170×90×15	種子一部残存	H-9
578	—	50×35×2		H-9
579	—	140×133×10		H-9
580	—	100×58×9	被熱?	H-9
581	—	88×65×25		H-9
582	—	115×78×9	被熱/石質玄昌石に近い	H-9
583	—	67×73×10		H-9
584	—	65×87×6		H-9
585	—	100×75×13		H-9
586	—	135×100×13	石質玄昌石に近い	H-9
587	—	72×44×5		H-9
588	—	175×145×13	碑面擦痕/石質玄昌石に近い	H-9
589	—	120×105×22		H-9
590	—	187×94×25		H-9
591	—	160×105×23		H-9
592	—	122×73×6	石質玄昌石に近い/Na607と接合	H-9
593	ラ	145×100×20	上部片	H-9
594	—	133×100×7	石質玄昌石に近い	H-9
595	—	69×60×7	石質玄昌石に近い	H-9
596	—	145×100×22		H-9
597	不明	193×160×20	上部片/種子上下端欠失	H-9
598	—	218×112×25		H-9

No.	種子	法量(mm)	備 考	ガイド
599	—	160×130×12	背面の削りは新しい痕跡	H-9
600	—	124×140×18	碑面擦痕／石質玄昌石に近い／河原石状の石材	H-9
601	—	160×50×17		H-9
602	—	50×57×8		H-9
603	—	75×55×7		H-9
604	—	130×105×10	横罫線 2 本／碑面擦痕／下部片？	H-9
605	—	160×43×24		H-9
606	—	103×80×25	碑面削り・擦痕	H-9
607	—	90×100×5	石質玄昌石に近い／Na592と接合	H-9
608	—	85×67×12	碑面擦痕	H-9
609	—	100×42×4	石質玄昌石に近い	H-9
610	—	357×258×55	破断面に破砕痕	G-8
611	—	245×160×28		G-8
612	—	142×80×16		G-8
613	キリーク	165×125×25	種子彫り浅い／種子上下に横罫線	G-8
614	ラ	370×125×22	種子彫り浅く、不明瞭	G-8
615	—	237×160×40		G-8
616	—	85×70×16	碑面擦痕／石質玄昌石に近い	G-8
617	—	92×55×6	石質玄昌石に近い	G-8
618	—	77×25×8	石質玄昌石に近い	G-8
619	—	290×100×23		F-6
620	パン	360×130×45	種子彫り浅い／頭部圭頭／碑面擦痕	F-6
621	—	540×305×40	上部・下部欠失／両面風化？ 「智道禪門 延文六年三月十二日」	L-3
622	不明	143×135×30	種子上端欠失／碑面擦痕	L-3
623	—	360×200×63	碑面擦痕／石質玄昌石に近い	L-3
624	カ	305×260×25	頭部圭頭／五角形／両面擦痕	K-3
625	—	445×295×55	安山岩／片面を平滑になるように割り、周縁を欠いて楕円形に整形	K-3
626	パン	410×160×40	波に洗われ、全体丸みを帯びている／種子薄く残る	K-2
627	サ	775×175×70	碑面下部に深い削り痕	K-2
628	—	175×110×30		K-2
629	—	220×175×15	波に洗われ、全体丸みを帯びている	J-2
630	キリーク	365×140×30	種子彫り浅い	J-2
631	—	430×280×23		J-2
632	ロ	450×190×40	両面擦痕	J-2
633	ラン	310×150×27	下部欠失／碑面擦痕	I-2
634	—	320×142×23	完形だが種子・銘文等なし／碑面擦痕	I-2
635	—	137×66×10	碑面擦痕	H-1
636	ロ	449×198×45	頭部圭頭／碑面削り・擦痕	H-1
637	サ	380×175×33	種子下に横罫線 2 本／下部欠失	H-1
638	—	195×137×17		H-2
639	—	188×90×15	碑面擦痕？	H-2
640	—	225×100×27		H-2
641	パン	282×123×17	下端欠失／両面擦痕	H-2
642	ラ	205×87×30	碑面擦痕	H-2
643	—	102×67×10		H-2
644	—	55×148×17	波に洗われ、全体丸みを帯びている	H-2
645	—	71×85×10	石質玄昌石に近い	H-2
646	カ	460×265×32	頭部圭頭	G-2
647	—	267×103×28	両面擦痕／破断面に破砕痕	G-2
648	イー	450×180×35	種子彫り浅い／右方向からの削り痕／下部欠失	G-2
649	パン	275×115×23	種子彫り荒い	G-2
650	—	158×96×8	石質玄昌石に近い	G-2
651	—	150×185×15	石質玄昌石に近い	G-2
652	—	142×160×15		G-2
653	ラ？	160×162×16	種子上部残存	G-2
654	ラ？	290×125×25	全体波に洗われ、丸みを帯びている／種子は薄く残る	F-5
655	—	135×85×13		E-6
656	—	137×87×20		E-6
657	—	130×81×16		E-6
658	—	250×212×21		E-6
659	—	315×235×40	碑面擦痕	E-6
660	ラ	411×110×40	頭部圭頭／碑面擦痕	E-6
種子有り： 25 文字のみ： 1 破片： 86 計 168 6 377 合計552（通算216 8 430 654） * Na184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数－6となる。				
20070729 干潮 9 : 56 海水面+13cm 作業員 渋谷悠子 吉成恵美 乙戸 崇 新野一浩				
661	—	160×180×13		G-22
662	—	113×130×20	石質玄昌石に近い	G-22

No.	種子	法量(mm)		備考	ガイド
663	-	220×135×22			G-22
664	ラン	294×145×32	種子彫り浅い		F-22
665	-	105×90×32	全体被熱		F-22
666	-	112×115×7	石質玄昌石に近い		F-22
667	-	295×170×22			F-23
668	-	243×110×30	安山岩／削り痕		F-23
669	-	118×98×36	碑面削り痕？／コンクリート付着		F-23
670	-	252×130×26			F-23
671	-	215×132×17			F-23
672	-	250×130×20			F-23
673	カ	343×157×22	碑面擦痕		F-23
674	不明	322×208×55	全体被熱、背面炭化物付着		F-23
675	-	400×190×27			F-23
676	-	330×175×48	表背面削り・擦痕／下部片？		F-25
677	-	225×117×15	石質玄昌石に近い		E-25
678	カン	618×226×35			E-25
679	ラン	329×163×53			E-25
680	-	170×90×18	石質玄昌石に近い		E-25
681	-	208×60×20			G-21
682	-	130×92×34			G-21
683	-	130×110×22	表背面擦痕／全体被熱		F-23
684	ラ	180×135×22	石質玄昌石に近い		F-23
685	-	135×167×30			F-23
686	-	105×125×18			F-23
687	-	175×124×32			F-23
種子有り：6 文字のみ：0 破片：21 計 174 6 398 合計578（通算222 8 451 681） * Na184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる。					
20070812 干潮9：56 海水面13cm 作業員 畠山篤雄 七海雅人 渋谷悠子 高橋潤 瀬戸秀一 山田祐介 福田慶二郎 乙戸崇 高橋周子 吉成恵美 吉川美樹 新野一浩					
688	-	143×90×12			E-26
689	-	114×93×14	石質玄昌石に近い		E-26
690	-	233×95×23	基部か		E-26
691	-	165×205×21			E-25
692	-	215×97×23	被熱？		E-25
693	-	191×123×30	完形だが種子・銘文等見えない／扁平な円礫で河原石状の石材／碑面背面擦痕		D-26
694	カ	174×150×20	上部片		D-26
695	-	137×123×13	石質玄昌石に近い		D-26
696	-	345×177×55	被熱？		D-26
697	-	287×153×27	碑面上部に削り痕		D-26
698	-	284×115×38			D-26
699	イー	395×160×41			D-26
700	-	360×90×65	角棒状		D-26
701	-	165×106×15			D-26
702	-	327×130×12	石質玄昌石に近い		D-26
703	カ	245×140×30	頭部非頭／背面削り痕		D-26
種子有り：3 文字のみ：0 破片：13 計 177 6 411 合計594（通算225 8 464 697） * Na184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる。					

* 備考欄が空欄の資料には加工痕・罫線などは認められない。

* とくに石材を注記していない資料は粘板岩（井内石）。



番 号	一〇四	年代	不明	石材	粘板岩（井内石）
	保存状況	一部破損			
法 量	高 五九・一	幅 二七・〇	厚 四・〇		
種 子	キリク（阿弥陀如来）				
種子法量	縦 一二・一	横 八・五	彫幅 一・三	彫深 〇・〇八	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。				
形 状	・頭部整形。・左右側面敲打。左側面下部節理面。 ・左側面、下部欠損。・種子の周囲に鑿痕。				
備 考	・年号について二字目が「治」で午年は貞治五年（一三六六）が該当する。				

（キリク）

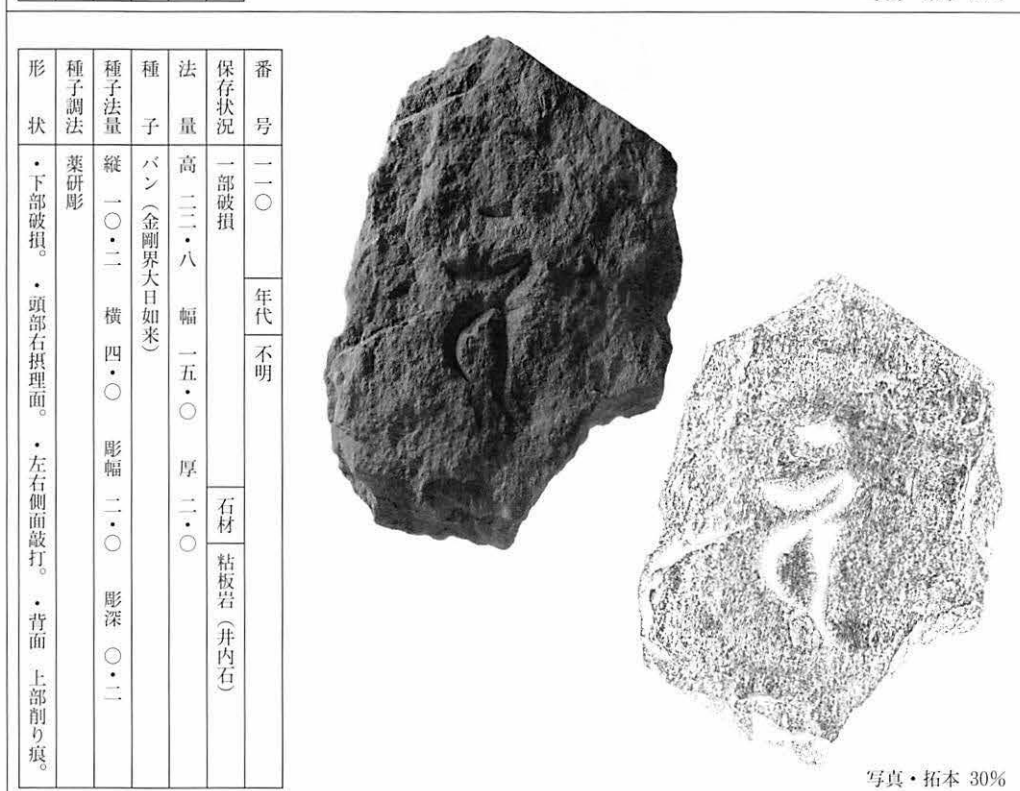
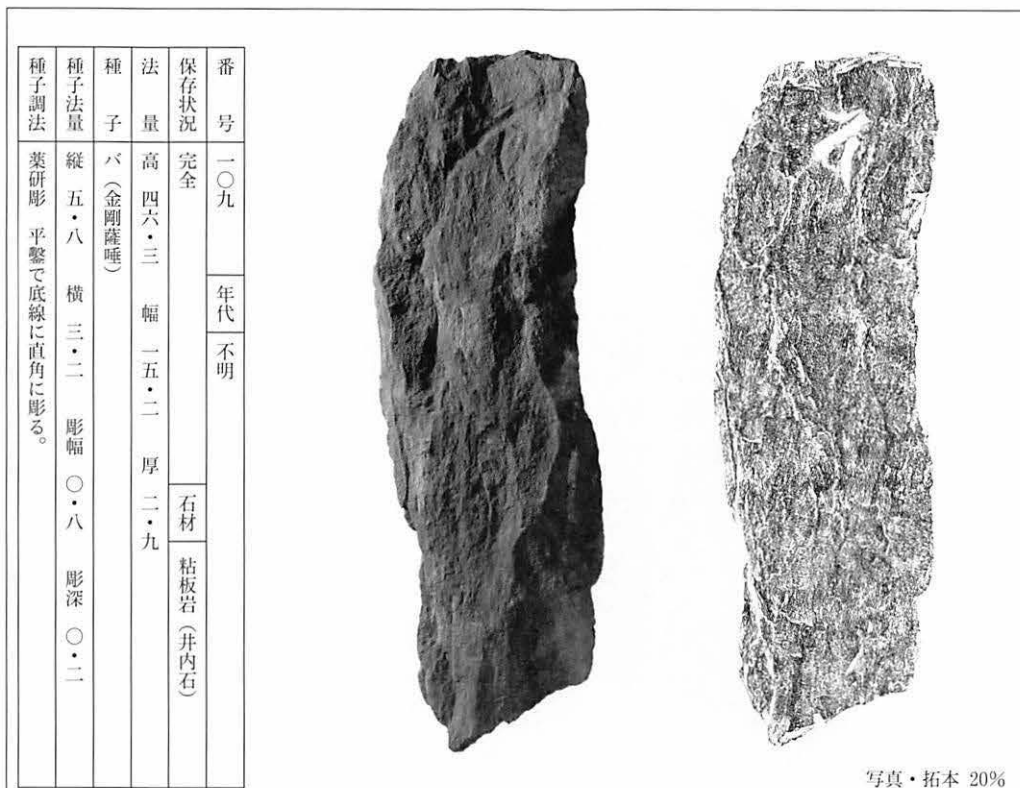
右意趣者为妙□

修冥福莊嚴□

供養矣 願伏 妙寿□

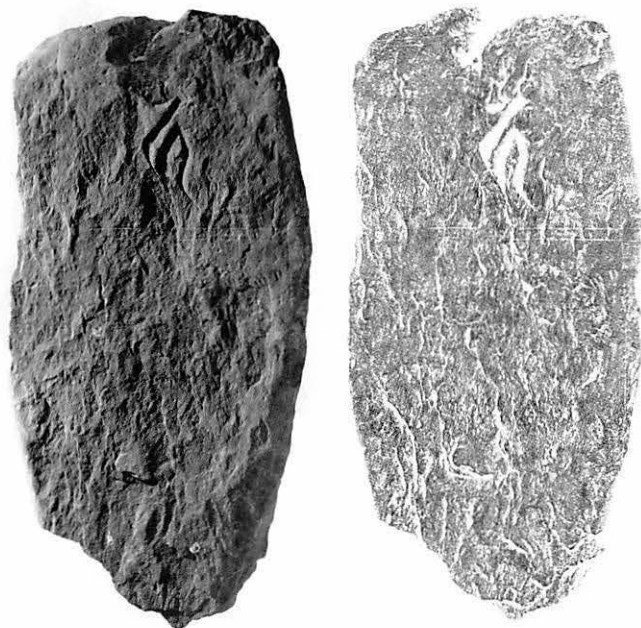
菩提矣

治午卯□





番 号	一二二	年代	不明	石材	粘板岩（井内石）
	保存状況				
法 量	高 四一・〇 幅 二〇・五 厚 二・七				
種 子	力（釈迦如来）				
種子法量	縦 七・五 横 三・五 彫幅 〇・八 彫深 〇・二				
種子調法	葉研彫 尖り鑿で彫り込み、さらに平鑿で底線に直角に彫る。				
形 状	・上端部、下部破損。				
備 考	・種子の上下に二本の横罫線、碑面中央部と左右に縦罫線。				

写真・拓本 20%



写真・拓本 20%

番号	一一五	年代	不明	石材	粘板岩（井内石）
保存状況	完全				
法量	高二・二	幅一八・八	厚二・九		
種子	イー（護讃地藏）				
種子法量	縦四・〇	横三・〇	彫幅〇・七八	彫深〇・一	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。				
備考	・井内石特有の縞状層理を横にして板碑を製作。				

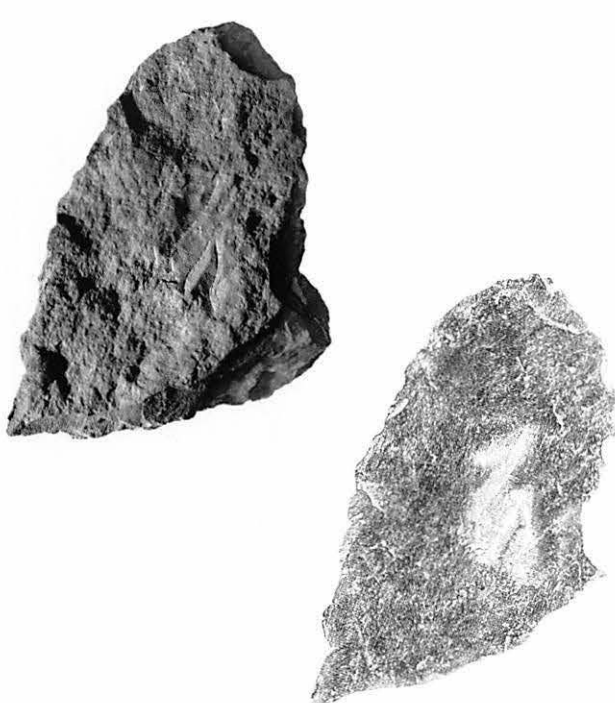


写真・拓本 25%




写真・拓本 25%

番号	一一七	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高 二・一〇	幅 一四・〇	厚 二・〇		
種子	力(釈迦如来)				
種子法量	縦 七・〇	横 四・〇	彫幅 一・〇	彫深 〇・一	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。彫りは浅い。				
形状	・下部欠損。・頭部から右側面にかけて敲打。・左側面割り矧ぎ。				

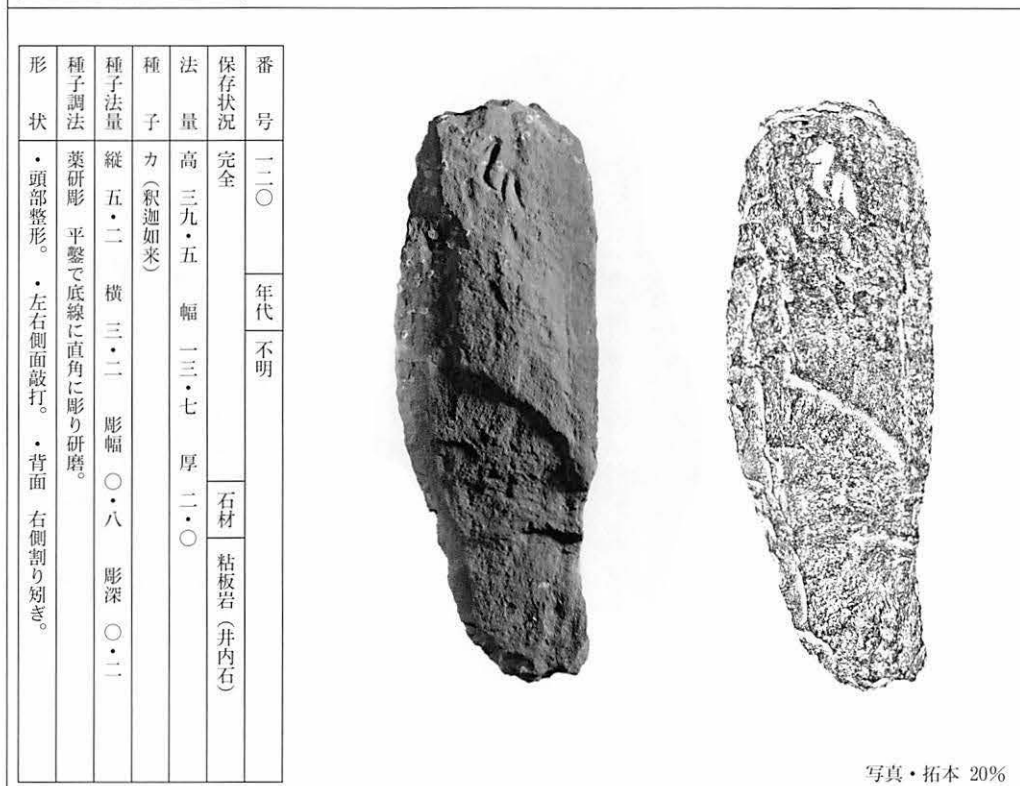
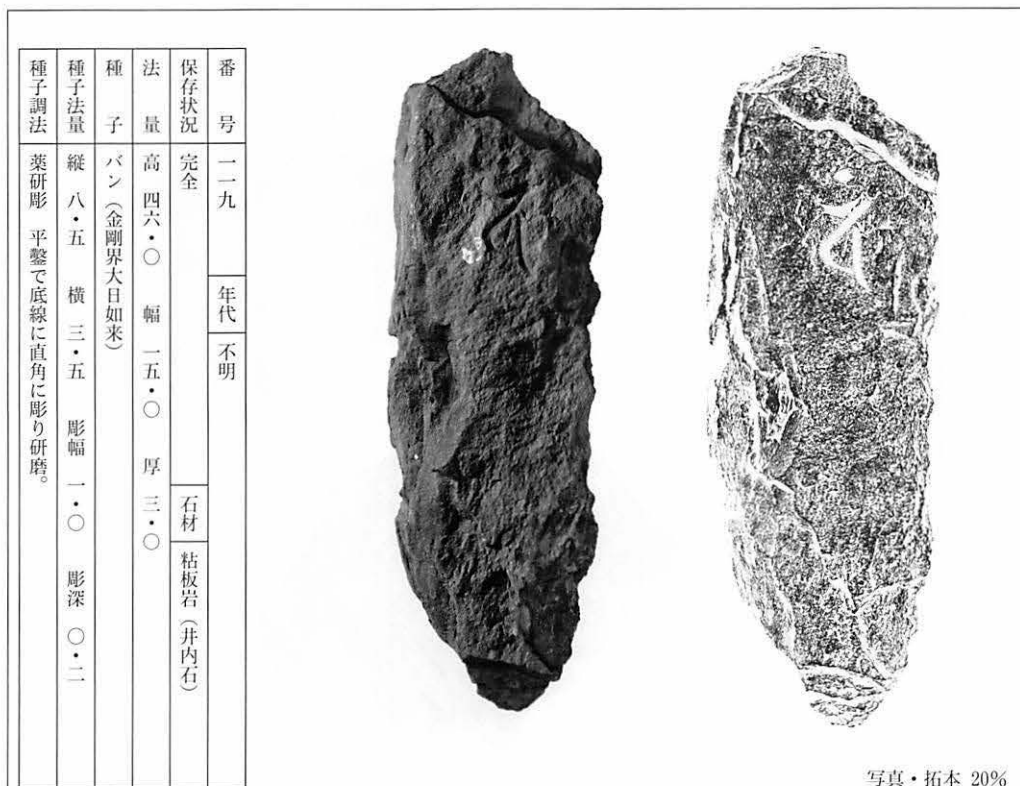


写真・拓本 30%

番号	一一八	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高 五八・〇	幅 一八・〇	厚 四・〇		
種子	サ(聖観音菩薩)				
種子法量	縦 一一・〇	横 四・〇	彫幅 〇・六	彫深 〇・二五	
種子調法	葉研彫				
形状	・上部欠損、種子上部が剥離。・下部に削り痕。				



写真・拓本 15%

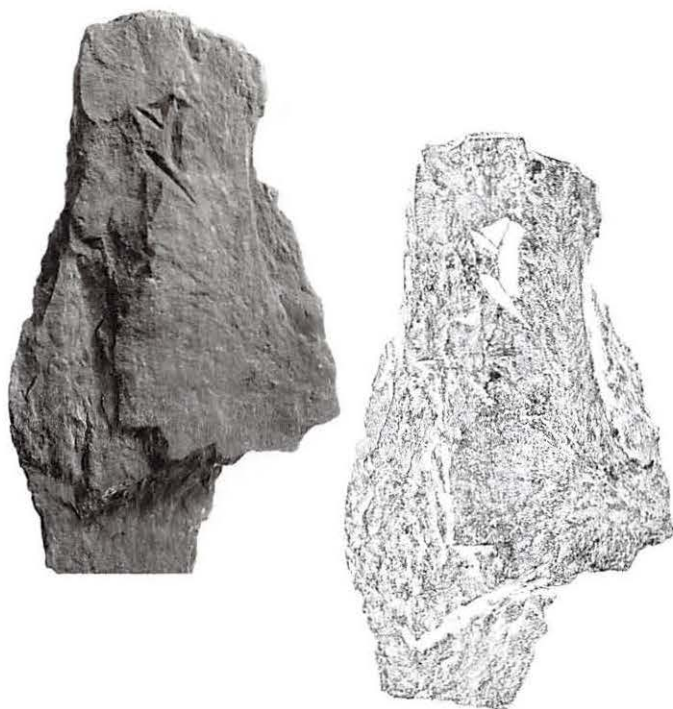


番号	一二一
年代	不明
保存状況	一部破損
法 量	高 一六・五 幅 二〇・九 厚 三・〇
種 子	不明 ※残画からカ（釈迦如来）またはカーン（不動明王）の可能性。
種子法量	縦 七・〇 横 三・〇 彫幅 一・〇 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。
形 状	・種子の一部が残る破片。

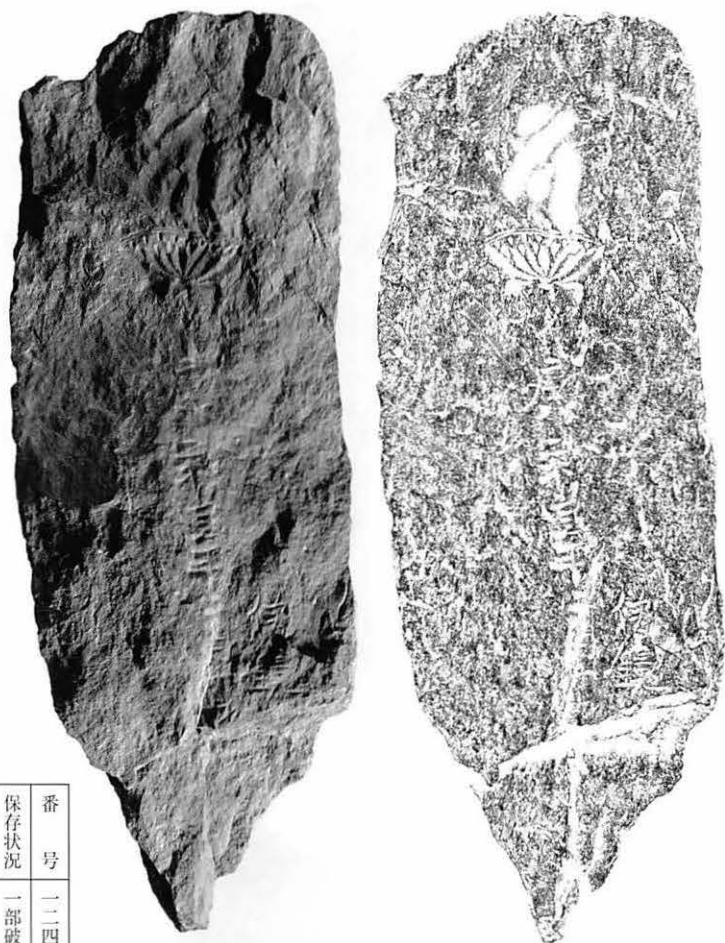


写真・拓本 25%

番号	一二三
年代	不明
保存状況	一部破損
法 量	高 五二・〇 幅 二九・五 厚 四・八
種 子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）
種子法量	縦 一〇・二 横 五・〇 彫幅 二・二 彫深 〇・一七
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。
形 状	・右側、下部欠損。・左側面敲打。・種子の下に削り痕。



写真・拓本 15%



番号	年代	保存状況	法量	種子	種子法量	種子調法	形状	備考
一二四	康永四年(二三四五)	一部破損	高 四九・五 幅 一八・〇 厚 四・〇	力 (釈迦如来)	縦 一七・五 横 四・〇 彫幅 一・一 彫深 〇・〇七	葉研彫	・下部欠損。 ・背面 頭部、左側割り筋き。 ・左右側面敲打。 ・碑面に平鑿痕。	・莊嚴蓮座 ・種子の磨滅が甚だしい。

(カ) W

康永四年二月四日

僧鏡

写真・拓本 25%

番号	一二五
年代	不明
保存状況	完全
法量	高 四六・〇 幅 一七・〇 厚 四・〇
種子	パン(金剛界大日如来)
種子法量	縦 五・七五 横 三・一 彫幅 〇・六 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫

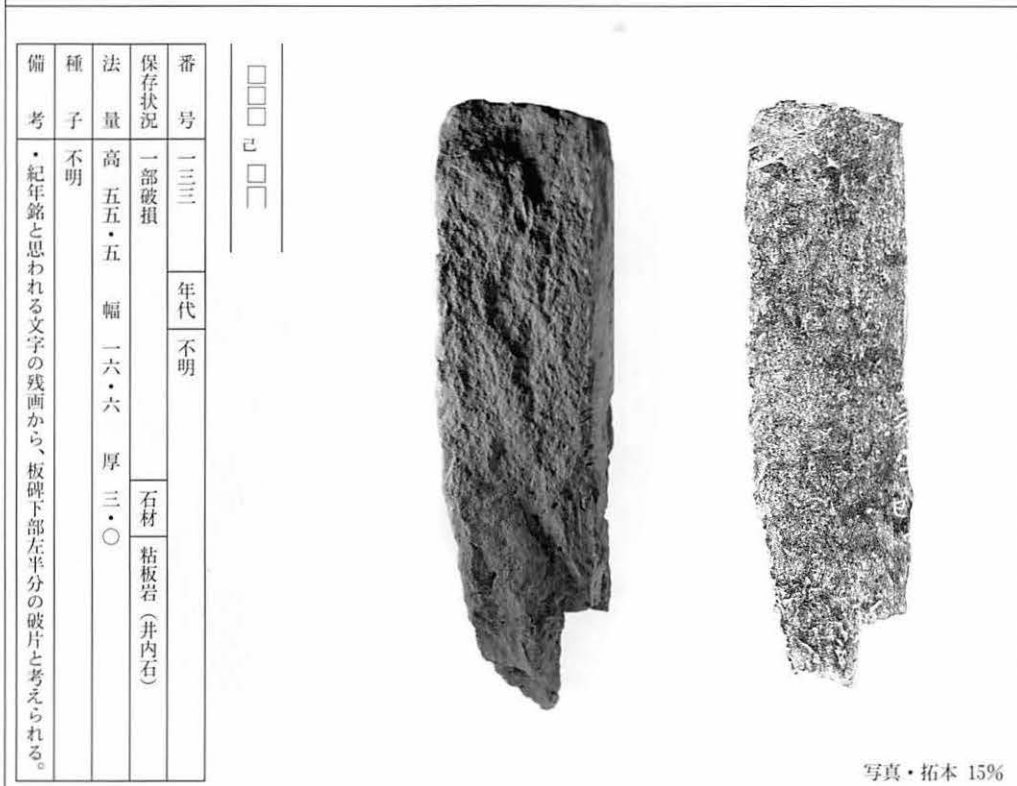
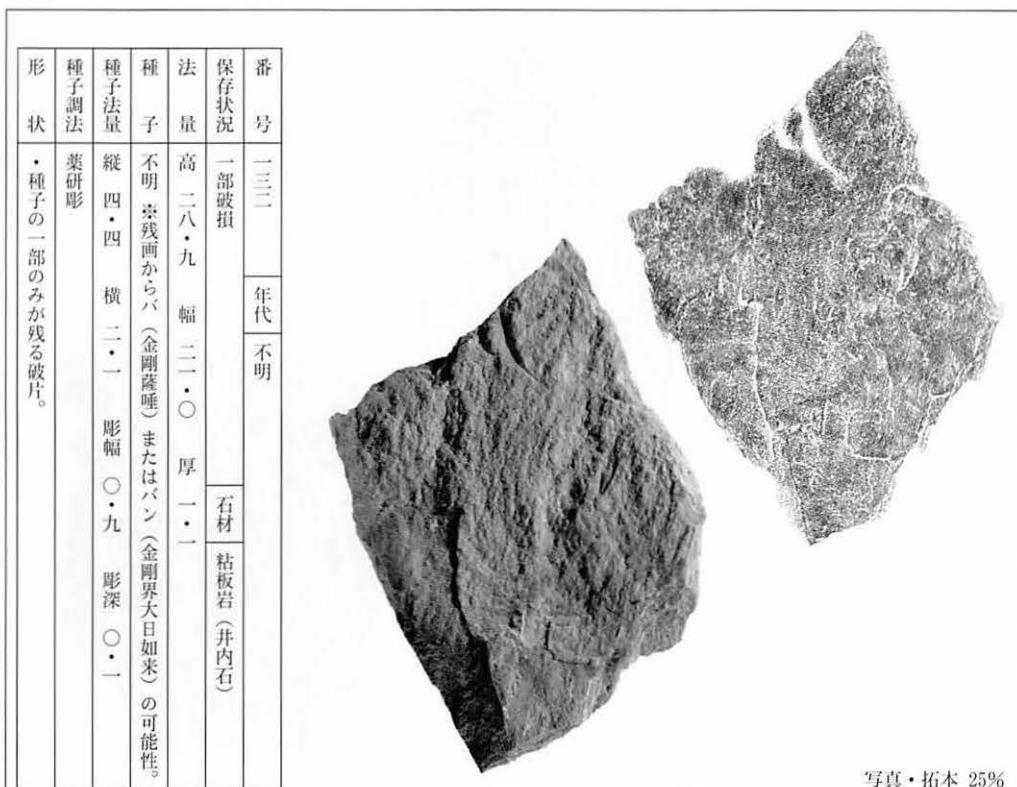


写真・拓本 20%

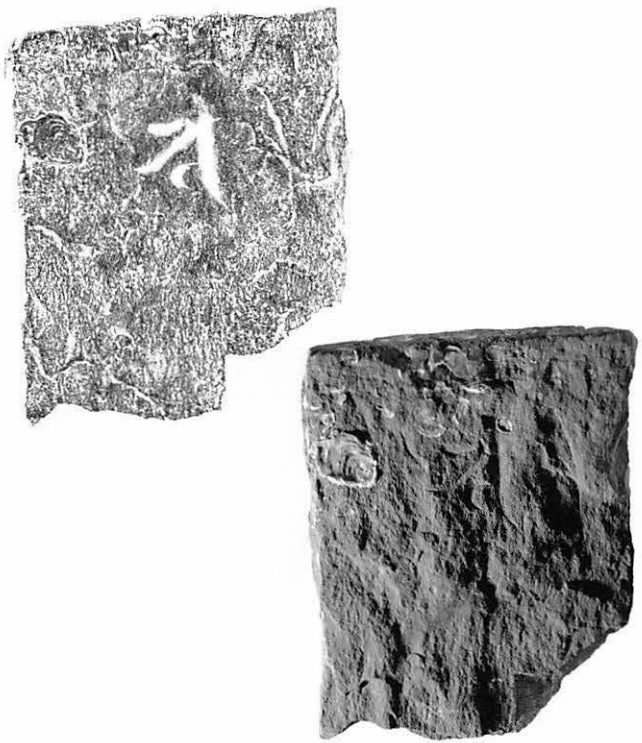
番号	一二八
年代	不明
保存状況	完全
法量	高 四五・〇 幅 一三・〇 厚 四・〇
種子	パン(金剛界大日如来)
種子法量	縦 五・〇 横 四・〇 彫幅 〇・五 彫深 〇・一七
種子調法	葉研彫 研磨。
形状	・左右側面敲打。・碑面、背面に擦痕。



写真・拓本 20%

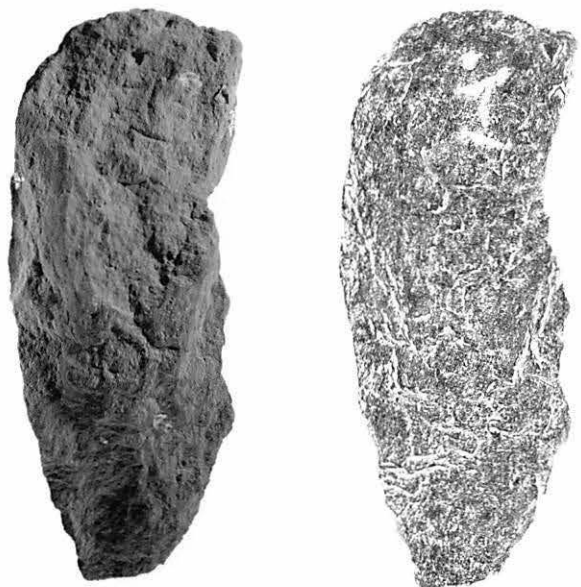


番 号	一三四	年代	不明	石材	粘板岩
保存状況	一部破損				
法 量	高 二二・六	幅	一八・三	厚	三・六
種 子	サ (聖観音菩薩)				
種子法量	縦 三・七	横	四・〇	彫幅	〇・七
種子調法	薬研彫			彫深	〇・二
形 状	・頭部は節理面。				



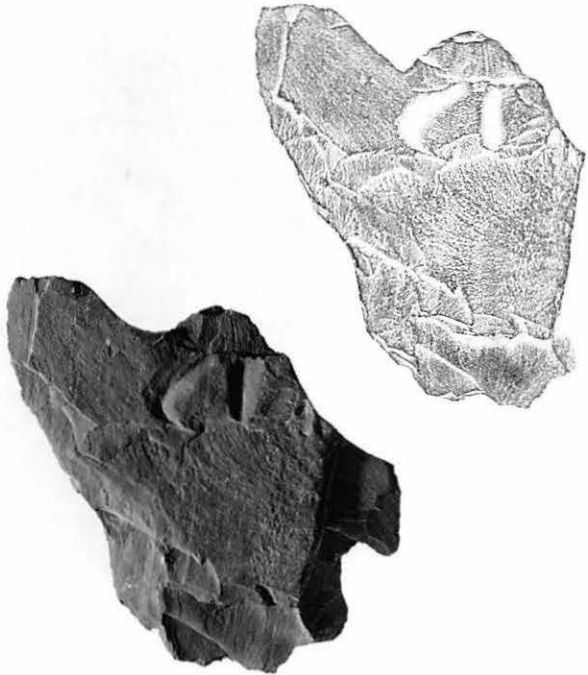
写真・拓本 25%

番 号	一三六	年代	不明	石材	粘板岩
保存状況	完全				
法 量	高 二五・五	幅	一一・七	厚	二・〇
種 子	ラ (金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)				
種子法量	縦 三・〇	横	二・〇	彫幅	〇・三
種子調法	薬研彫			彫深	〇・一



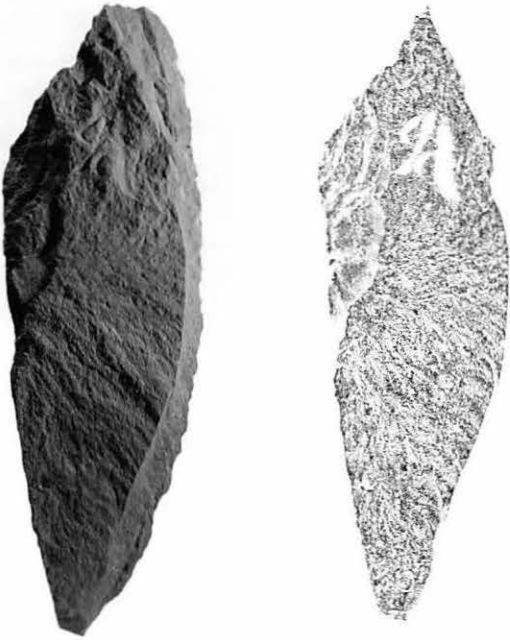
写真・拓本 30%

番号	一三八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(玄昌石系)
法量	高 二・一 幅 二・五 厚 一・六		
種子	不明 奈残画からバ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)の可能性。		
種子法量	縦 四・〇 横 六・四 彫幅 一・八 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・種子の一部が残る破片。		



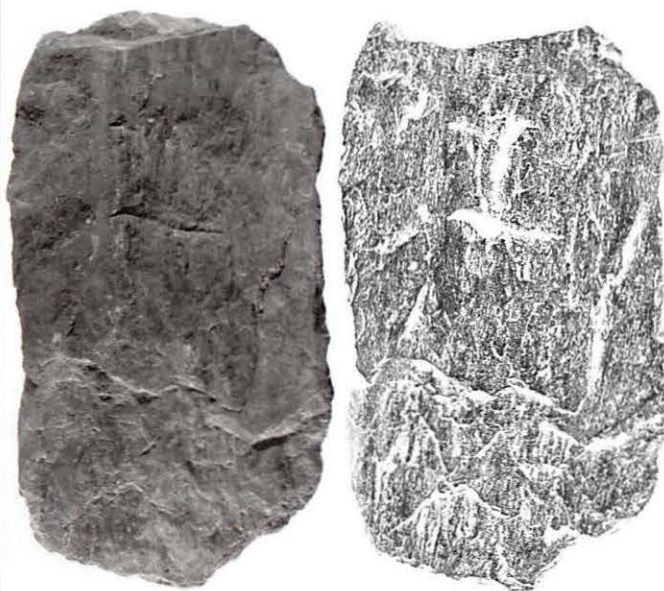
写真・拓本 25%

番号	一三九	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 五・七・六 幅 一八・〇 厚 四・一		
種子	サ(聖観音菩薩)		
種子法量	縦 八・三 横 六・三 彫幅 一・〇 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部敲打。・左側面節理面。 ・背面 段差を平滑に調整。左側面剝離を利用し調整、敲打。		



写真・拓本 15%

番号	一四五	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三・一	幅一七・二	厚三・三
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)?		
種子法量	縦六・〇	横六・〇	彫幅一・一 彫深〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・下部欠損。・種子の中心部欠損。・頭部から右側面敲打。 ・碑面を平滑に調整。		
備考	・種子はラン(金剛語菩薩)の可能性もある。		



写真・拓本 25%

番号	一四八	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高四〇・五	幅二一・三	厚四・七
種子	バイ(葉師如来、毘沙門天)		
種子法量	縦五・八	横五・〇	彫幅一・一 彫深〇・一五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・上部欠損。		
備考	・種子に金泥が残る。		




種子に残る金泥




写真・拓本 20%

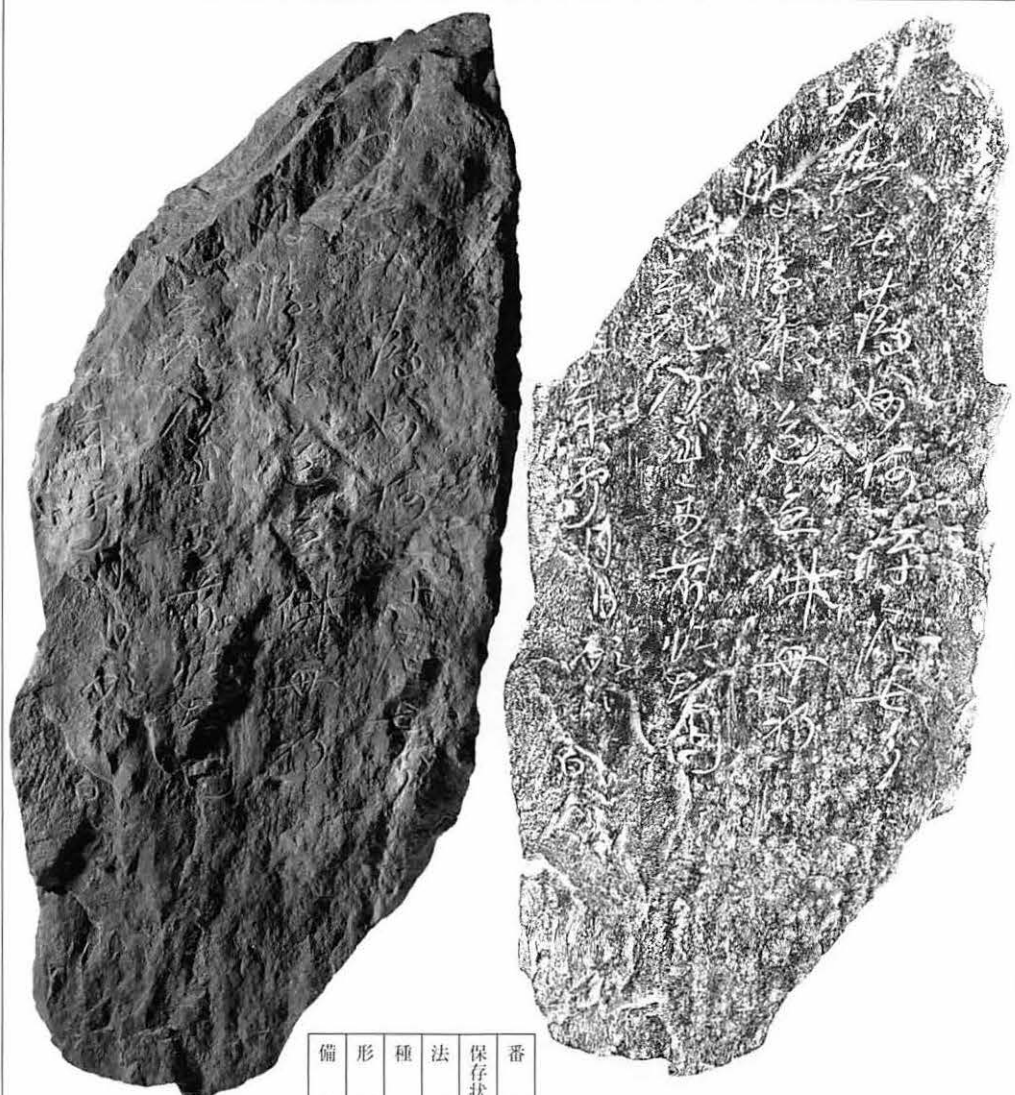
番号	一四九	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（井内石）
法量	高 一七・〇 幅 一七・五 厚 三・一		
種子	カ（釈迦如来）		
種子法量	縦 三・八 横 二・八 彫幅 〇・五 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。		
形状	・上部欠損。・種子の下、碑面中央に削り痕か。・背面 擦痕。		



写真・拓本 30%



作業風景 雄島南端部西側





番号	一五七
保存状況	一部破損
法量	高 六一・〇 幅 二七・〇 厚 四・〇
種子	不明
形状	・上部欠損。・碑面に鑿痕。
備考	・銘文の上下に罫線。

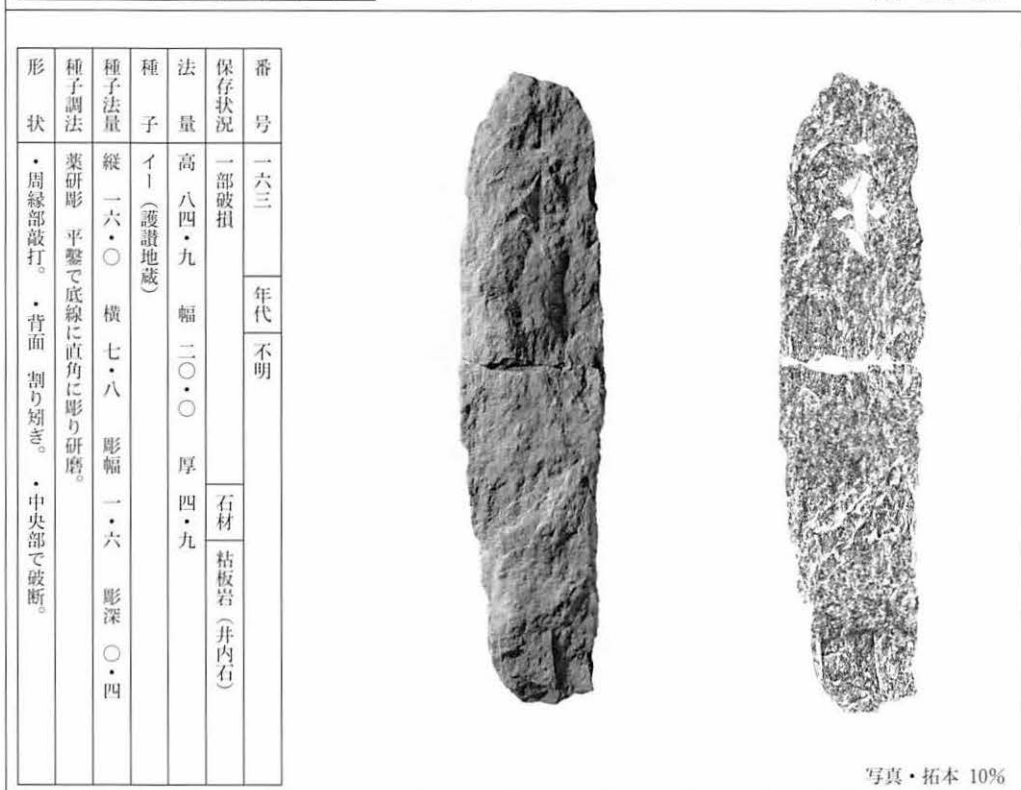
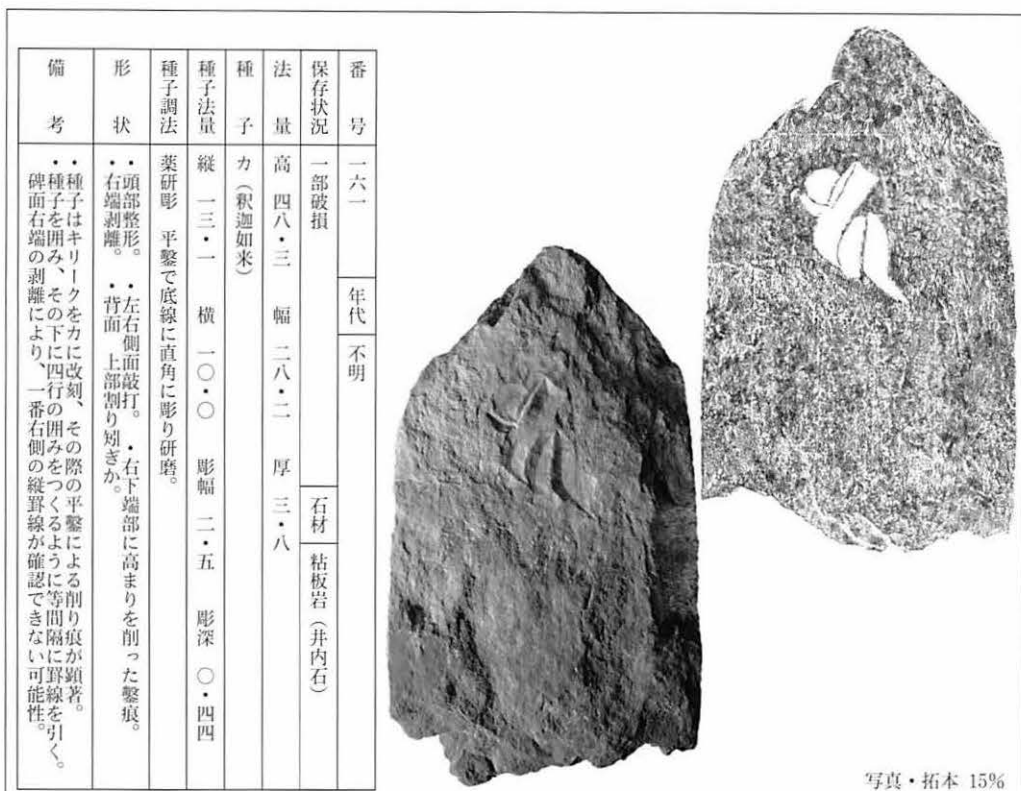
右志者為妙阿禪尼七分
(全カ)
☐得勝齋道色佛母祈
 出地乃至萬有情故也
 年卯月日願主 (敬カ)
 白

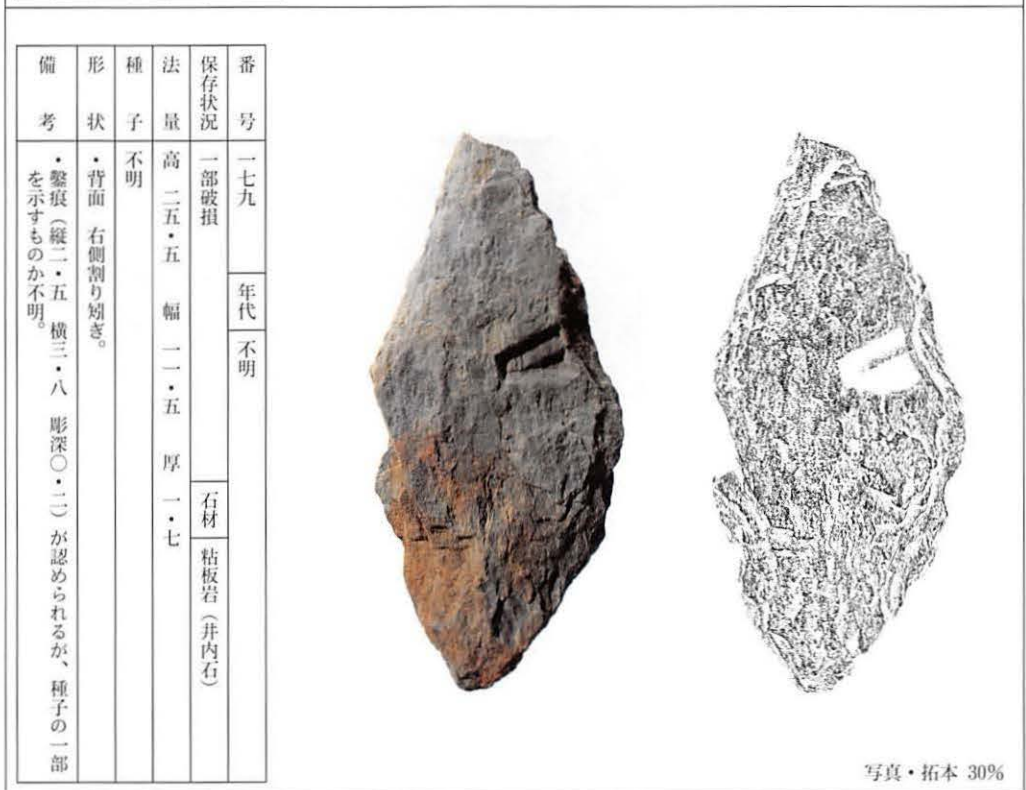
写真・拓本 25%

番 号	一五八	年 代	不明	石 材	粘板岩(井内石)
保 存 状 況	一部破損				
法 量	高 三〇・五	幅 一六・七	厚 四・〇		
種 子	パン(金剛界大日如來)				
種子法量	縦 五・〇	横 二・三	彫幅 〇・六	彫深 〇・一	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。				
形 状	・上部下部欠損。・左側面敲打。・種子右側に削り痕。				



写真・拓本 25%

番 号	一五九	年代	不明	保存状況	一部破損	法 量	高 四四・〇 幅 一七・八 厚 三・五	種 子	ナ (龍樹菩薩)	種子法量	縦 七・七 横 六・四 彫幅 一・五 彫深 〇・一五	種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り一部研磨。	形 状	・頭部、下部整形。 ・右側上部剥離、右側中央欠損。 ・背面 割り短き。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>															
写真・拓本 20%															







番号	一八〇	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三七・一	幅一七・〇	厚四・五		
種子	タ(梵天)				
種子法量	縦七・五	横三・五	彫幅一・〇	彫深〇・一五	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行、直角に彫る。				
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・中央部に削り痕。 ・背面 右側上部削り短き。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・種子は空点らしき痕跡も認められる。これを利用すれば、種子はタン(多羅観音菩薩)となるが確定できない。 				

写真・拓本 20%

番 号	一八一	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法 量	高 二二・〇	幅 一五・〇	厚 四・〇		
種 子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)				
種子法量	縦 五・五	横 三・〇	彫幅 〇・五	彫深 〇・二一	
種子調法	葉研彫				
形 状	・左右側面敲打。・上下端部欠損。				

写真・拓本 25%

番号	一八二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三・九 幅一五・五 厚三・九		
種子	力(釈迦如来)		
種子法量	縦五・五 横三・六 彫幅〇・八 彫深〇・〇九		
種子調法	葉研彫		
形状	・種子部分より下部、ならびに背面割り短き。		
備考	・種子の磨滅が甚だしい。		

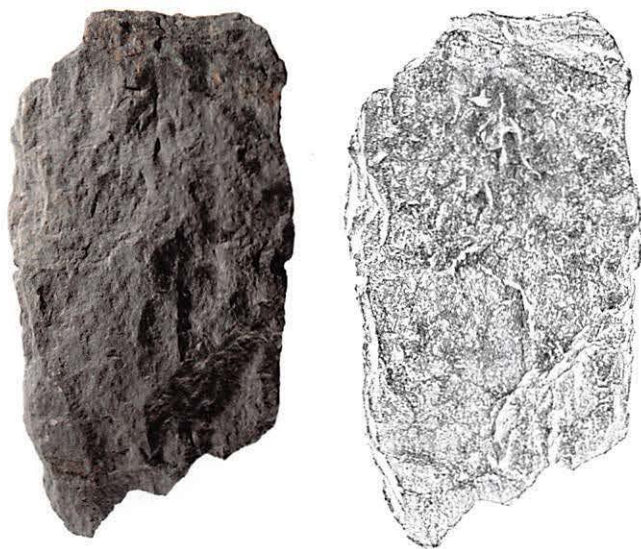
写真・拓本 20%

番号	一八四・二八九	年代	文和(一)四年(三三三)五五) 南北朝時代(北朝)
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高五・五 幅二・三 厚二・〇		
種子	ユン(娑摩天)		
種子法量	縦九・三 横五・八 彫幅一・五 彫深〇・一一		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・上端部左右側面敲打。・背面 左側割り短き。・中央部で破断。		
備考	・上部と下部は別個に海中から発見し、接合することができた。 ・年号は「文和(二)」の可能性も考えられる。		

(ユン)
智戒禪門
文和□二四月六日 施主 敬白

写真・拓本 15%

番号	一八八	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三・五	幅	一九・五	厚	三・〇
種子	力(釈迦如米)				
種子法量	縦 五・〇	横	四・五	彫幅	〇・三
種子調法	葉研彫			彫深	〇・二
形状	・下部欠損。				



写真・拓本 20%



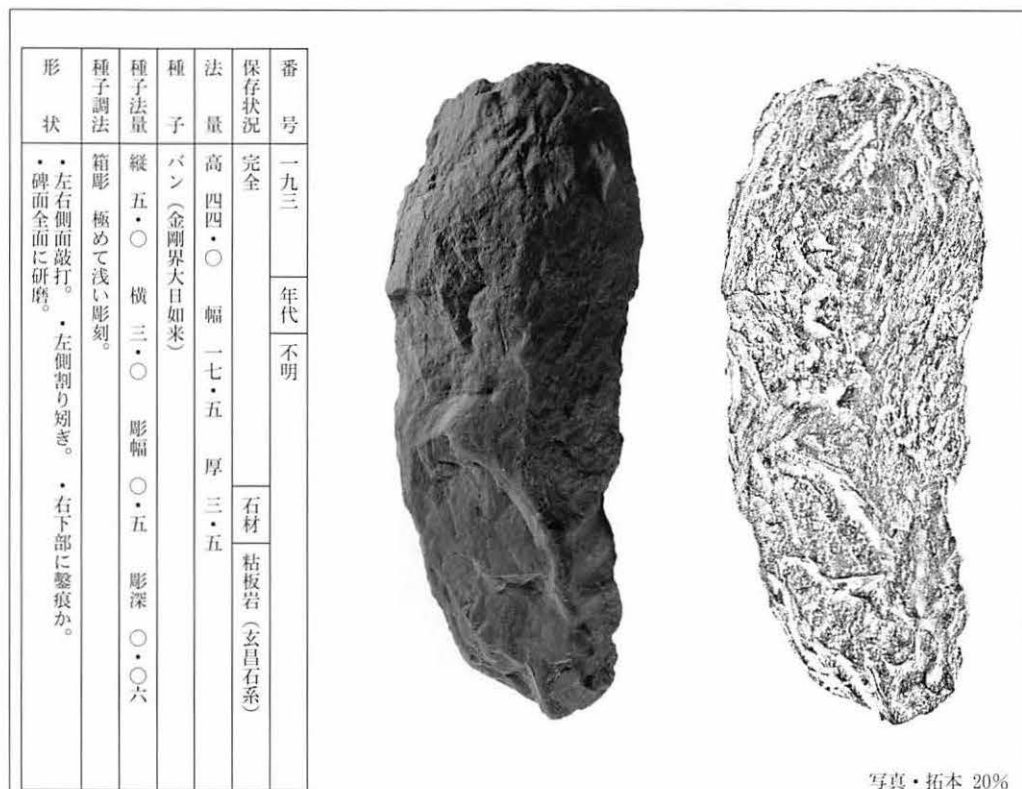
作業風景 干潮で現れた小砂浜の調査



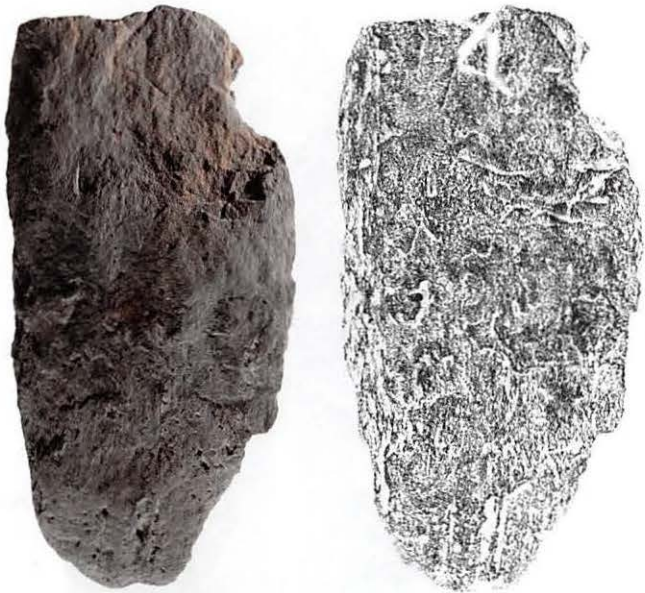
松本源吉「陸前宮城郡の古碑」掲載図

写真・拓本 10%

備考	形状	種子調法	種子法量	種子	法量	保存状況	番号
						完全	一九〇
・井内石特有の縞状層理を横にして板碑を製作。 ・基部が海底に突き刺さった状態で発見され、上部に多くの貝殻を付着。 ・松本源吉「陸前宮城郡の古碑」『考古学評論』第三輯、一九四一年に記録図が収録。	・種子周辺を鑿により調整。 ・上端、右側面節理面。 ・背面 中央部に高まり残すも割り短きにより調整。	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。	縦 一五・五 横 九・二 彫幅 二・〇 彫深 〇・三五	バン（金剛界大日如来）	高 八五・七 幅 三三・〇 厚 八・〇	年代 不明	石材 粘板岩（井内石）



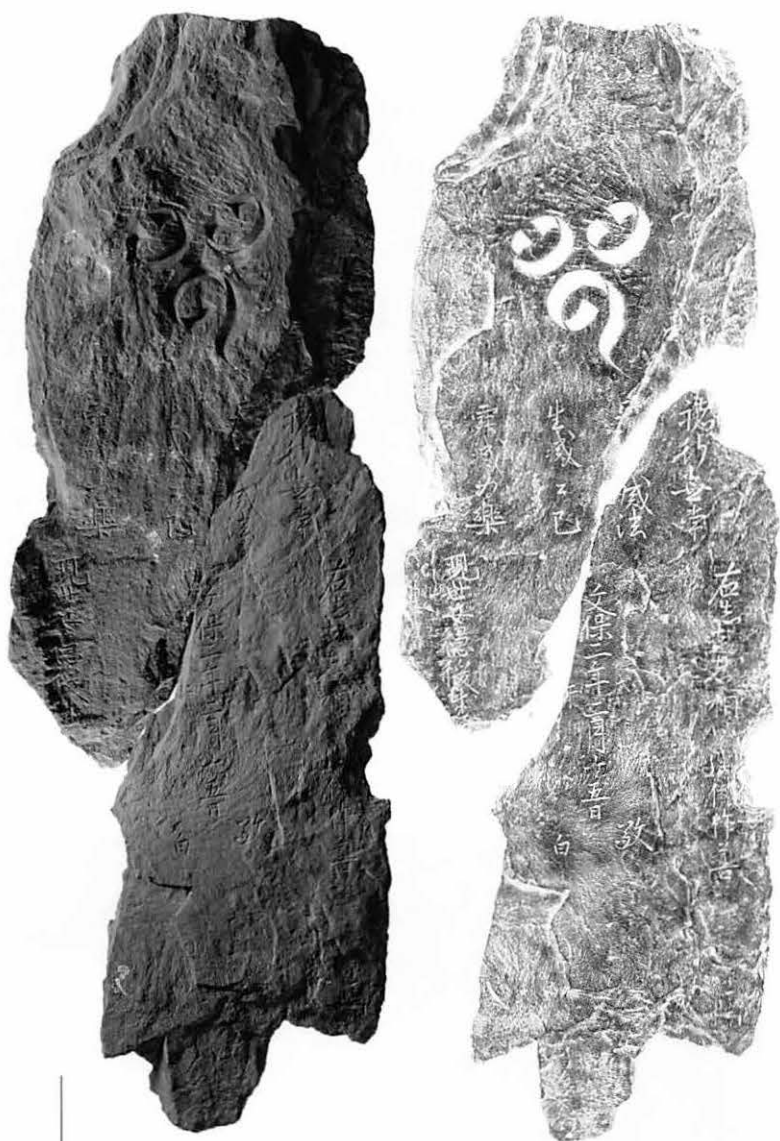
番号	一九九	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三一・〇	幅一六・五	厚四・〇
種子	不明 ※残画からバ（金剛薩埵）またはバン（金剛界大日如米）の可能性。		
種子法量	縦五・〇	横二・五	彫幅〇・七 彫深〇・二
種子調法	業研彫		
形状	・上部欠損。 ・左右側面、下端部を整形、敲打。		



写真・拓本 25%



作業風景 ピンボールで泥の中の板碑を探す



写真・拓本 15% (41・201接合)

番号	二〇一	年代	文保二年(一二三・一八)	南北朝時代(北朝)
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)	
法量	高 六九・〇 幅 二二・五 厚 一五・〇			
形状	・下部左側欠損。 ・下端部台石もしくは地面に差し込むような形状に整形。			
備考	・偶(涅槃経) ・四一と接合(接合した場合、全体の高さ九九・〇 幅三三・〇)。			

※データ表は四一号も参照のこと。

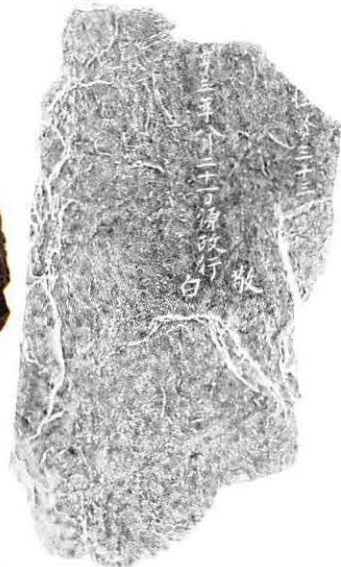
(イ)

諸行無常
☐ 足生
☐ 滅法
 生滅々已
 宛滅為樂

文保二年 戊午二月十五日 敬白

現世安穩後生

右志趣者相 ☐ 逆修作善



〔101〕

〔106〕

□性賢三十三

(キリク)

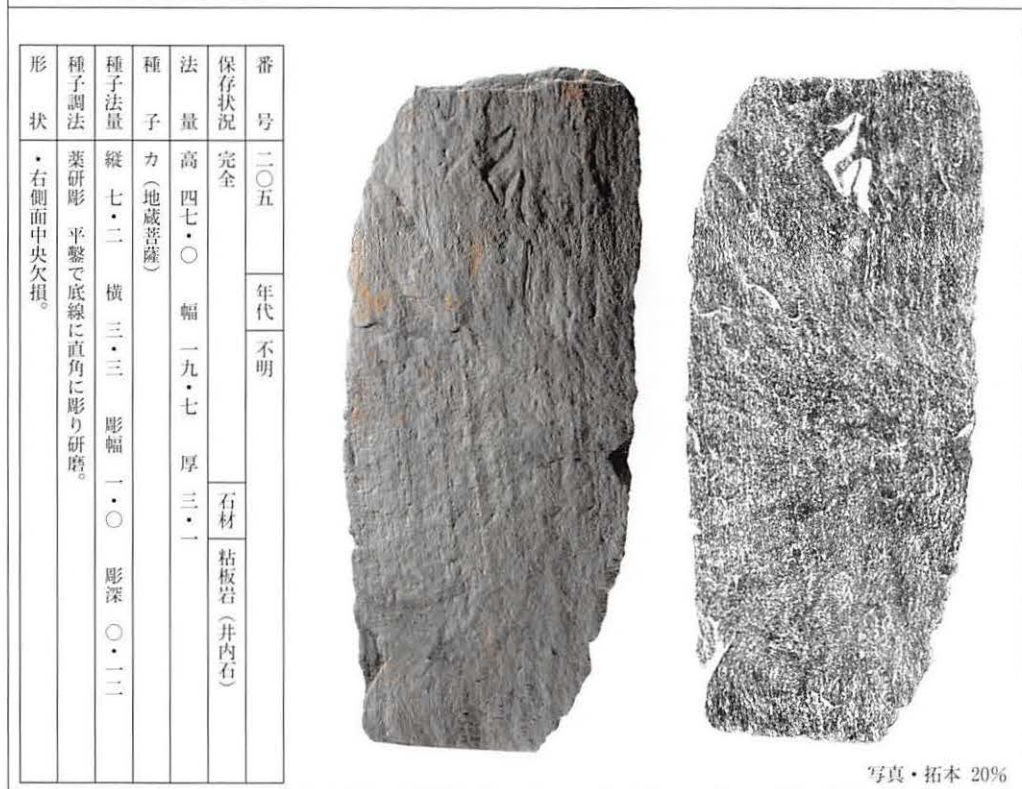
□元

亨三年八月二十一日源政行 敬白

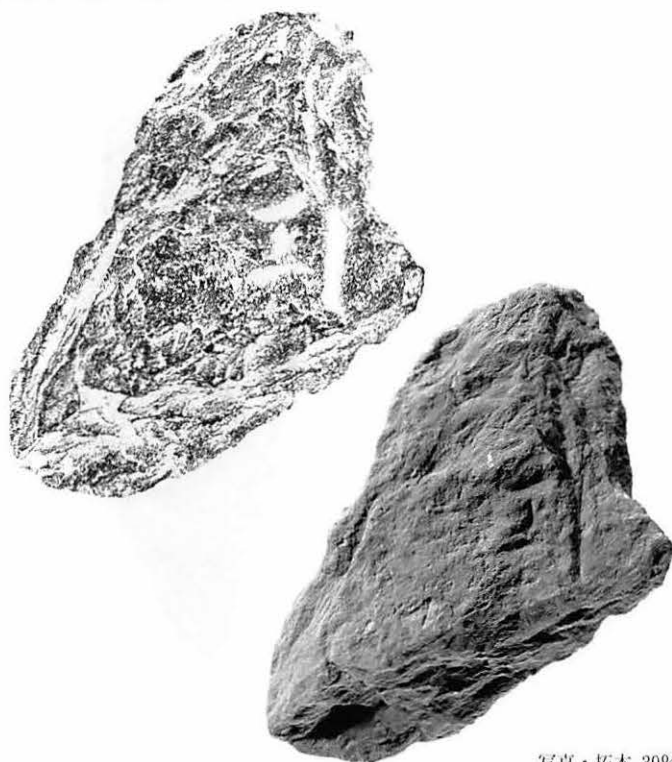
写真・拓本 8%

番号	年代	鎌倉時代
二〇一	元亨三年(一三三三)	
保存状況	一部破損	石材 粘板岩(井内石)
法量	高 七二・〇 幅 五一・八 厚 四・〇	
種子	キリク(阿弥陀如来)	
種子法量	縦 二九・二 横 二四・七 彫幅 四・二 彫深 〇・四三	
種子調法	薬研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。	
形状	・上端部欠損。・中央部で破断。・左右側面敲打。 ・背面 中央部割り短き。	
備考	・二〇六がこの板碑の下部となる。 ・種子の直下に二条の横罫線。この横罫線に接続するように碑面中央下部に縦罫線(二〇六碑面上の三本の縦罫線のうちの中央罫線に繋がる)。	

番号	年代	鎌倉時代
二〇六	元亨三年(一三三三)	
保存状況	一部破損	石材 粘板岩(井内石)
法量	高 九三・四 幅 五二・五 厚 五・〇	
形状	・中央部で破断。・右側面敲打。 ・中央部割り短きにより平面をつくり出す。 ・左側面と下端部の一部節理面。 ・背面 上部割り短き。貝殻付着。	
備考	・二〇二がこの板碑の上部となる。 ・碑面に三本の縦罫線を引き銘文を配置。 ・銘文彫法 薬研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。	

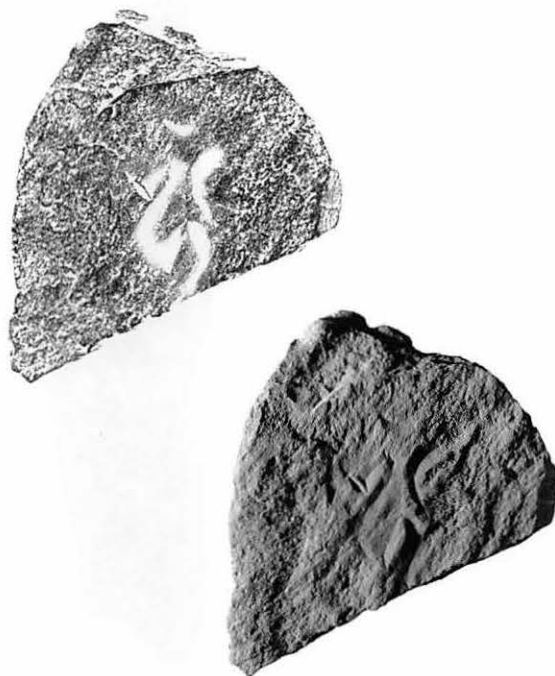


番号	二二三
年代	不明
保存状況	一部破損
石材	粘板岩(井内石)
法量	高二四・五 幅一七・〇 厚四・〇
種子	マ(大黒天、孔雀明王)
種子法量	縦五・五 横四・〇 彫幅一・〇 彫深〇・二三
種子調法	葉研彫
形状	・頭部右側から下部欠損。・左側面敲打。・碑面に削り痕。



写真・拓本 30%

番号	二二六
年代	不明
保存状況	一部破損
石材	粘板岩(井内石)
法量	高一七・〇 幅一四・〇 厚二・六
種子	カーン(不動明王)
種子法量	縦八・〇 横六・〇 彫幅一・〇 彫深〇・〇九
種子調法	葉研彫 研磨。
形状	・周縁部敲打。・背面 鑿痕。



写真・拓本 30%

番号	二二二
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高 五〇・五 幅 二一・〇 厚 三・〇
種子	サ (聖観音菩薩)
種子法量	縦 七・〇 横 五・〇 彫幅 〇・九 彫深 〇・二
種子調法	葉研彫
形状	・頭部欠損。



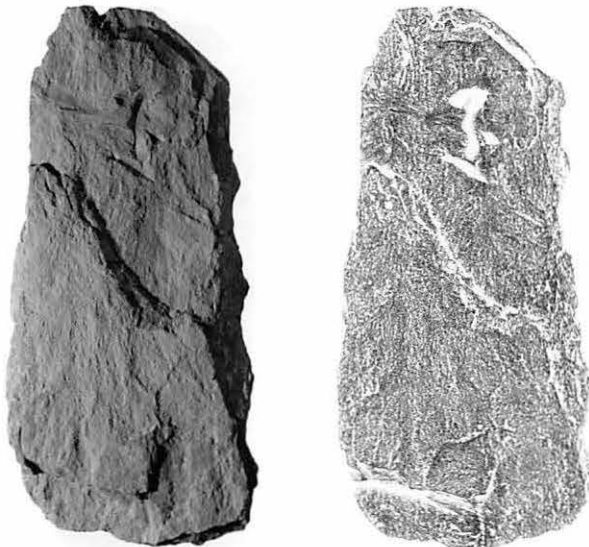
写真・拓本 15%

番号	二二三
年代	不明
保存状況	完全
法量	高 六一・四 幅 一六・八 厚 三・二
種子	パン (金剛界大日如來)
種子法量	縦 六・四 横 三・三 彫幅 〇・五 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。
形状	・左側割り削ぎ。・背面 左右両側から割り削ぎ。 ・下端部に研磨による縦方向の擦痕。




写真・拓本 15%

番号	二二四	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三六・二	幅	一六・八
種子	口(北斗星、他化自在天)	厚	一・七
種子法量	縦 六・四	横	三・八
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	彫幅	一・一
形状	・周縁部整形。・基部中央縦に鑿痕が並ぶ。	彫深	〇・二



写真・拓本 20%

番号	二二七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一五・〇	幅	一三・八
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)	厚	二・三
種子法量	縦 七・五	横	三・〇
種子調法	葉研彫	彫幅	一・一
形状	・種子の直下に削り痕。	彫深	〇・一





写真・拓本 30%

番号	二三〇	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 七九・六 幅 二九・〇 厚 三・八		
種子	キリク(阿弥陀如来)		
種子法量	縦 一七・四 横 一〇・四 彫幅 一・八 彫深 〇・五		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。		
形状	・頭部右側欠損。 ・背面 左右側面削り筋。 ・碑面中央部削り痕(銘文を擦り消した可能性)。		





写真・拓本 10%

番号	二三一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三三・〇 幅 二三・五 厚 二・五		
種子	カ(降三世明王)		
種子法量	縦 九・〇 横 六・五 彫幅 一・〇 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫		
形状	・下部欠損。		
備考	・種子の上・下・左に種子を開むように罫線を引く。		


写真・拓本 20%

番号	二三二	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 五・六・〇 幅 二・五・〇 厚 三・五		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦 八・五 横 四・五 彫幅 一・三 彫深 〇・四		
種子調法	葉研彫		
形状	・左側下部に横溝状の鑿痕。		



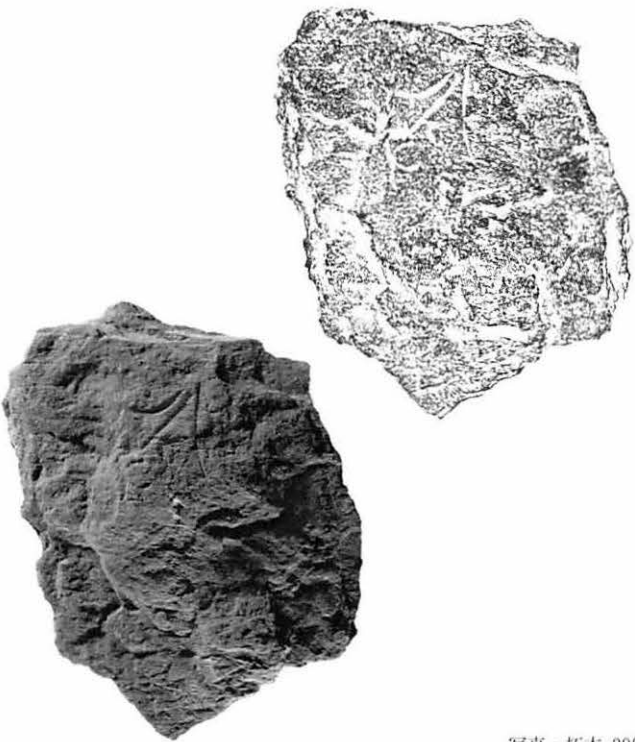
写真・拓本 15%

番号	二三三	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二・七・〇 幅 一・〇・〇 厚 二・〇		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦 三・九 横 一・九 彫幅 〇・三 彫深 〇・〇・八		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・頭部整形。・左側面節理面。・下部欠損。・背面 頭部割り短き。		



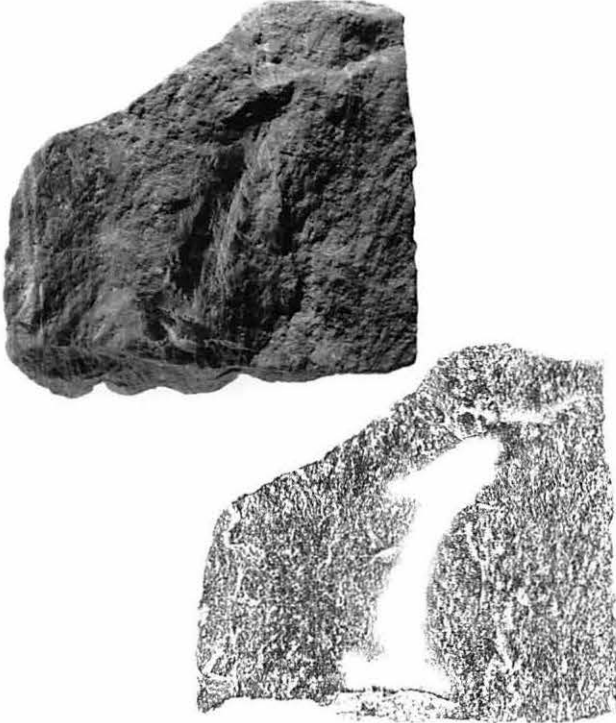
写真・拓本 30%

番号	二二七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一九・五 幅一五・五 厚二・〇		
種子	サ(聖観音菩薩)		
種子法量	縦四・五 横三・五 彫幅〇・五 彫深〇・九		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・下部欠損か。・右側面敲打。・背面 左側割り刳ぎ。		
備考	・井内石特有の縞状層理を横にして板碑を製作。		



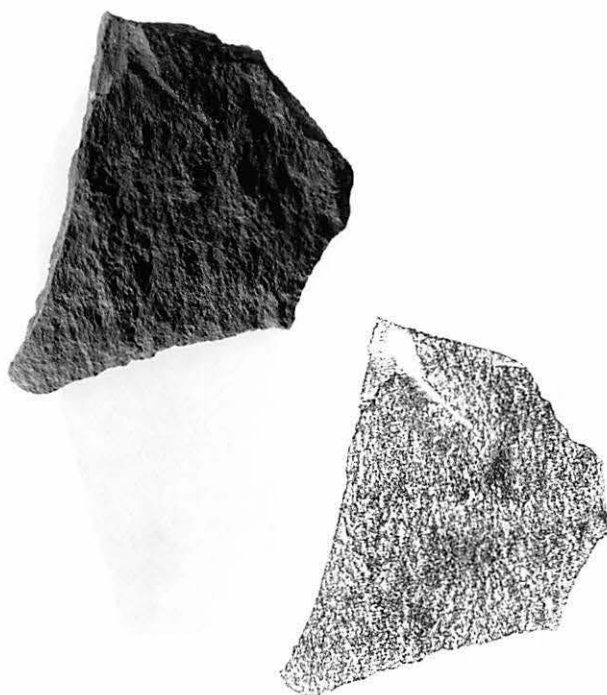
写真・拓本 30%

番号	二四六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一二・五 幅一四・〇 厚二・五		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)?		
種子法量	縦—— 横二・五 彫幅〇・一 彫深〇・一		
種子調法	葉研		
形状	・下部欠損。		
備考	・彫刻は、形状から悉曇ラの一部と考えられる。		



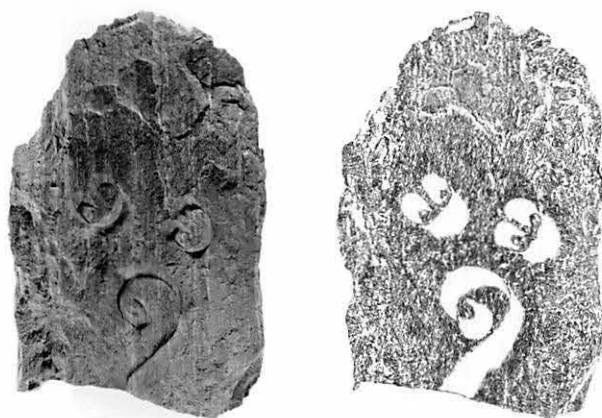
写真・拓本 40%

番号	二五一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(玄昌石系)
法量	高 一〇・四 幅 七・六 厚 〇・五		
種子	不明		
種子法量	縦 — 横 — 彫幅 〇・五 彫深 〇・〇五		
種子調法	葉研 研磨。		
形状	・種子の一部のみの破片。		




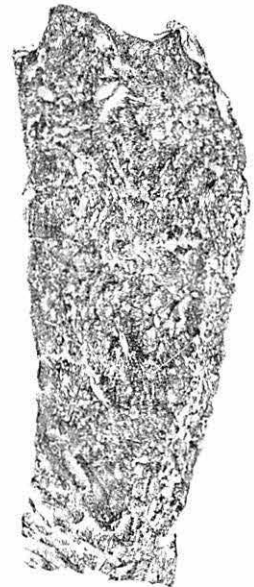
写真・拓本 50%

番号	二五五	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三六・〇 幅 二三・五 厚 四・九		
種子	イー(護讃地蔵)		
種子法量	縦 二一・二 横 一五・〇 彫幅 三・二 彫深 〇・四		
種子調法	葉研		
形状	・頭部整形。・左右側面敲打。・下部欠損。		




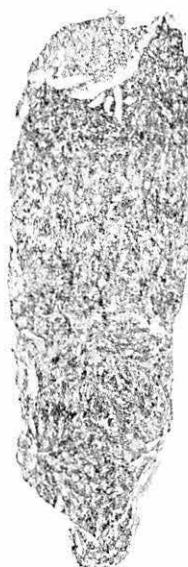
写真・拓本 15%

番号	二五七	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三・七	幅	一三・七
種子	パン(金剛界大日如来)?	厚	五・二
種子法量	縦 四・四	横	二・四五
種子調法	葉研	彫幅	〇・七五
備考	・種子は彫刻が極めて浅く判読が難しい。カの可能性もある。		

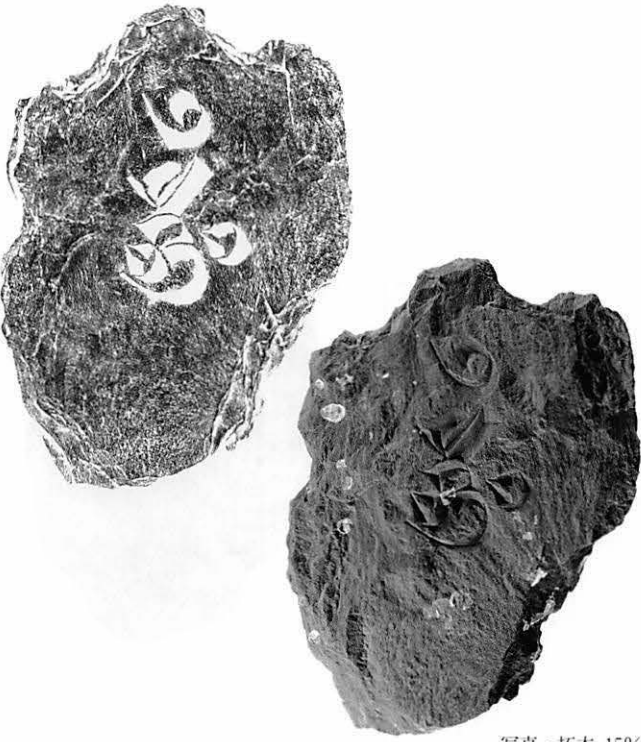
写真・拓本 25%

番号	二五八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 七五・〇	幅	二四・四
種子	サク(勢至菩薩)	厚	三・五
種子法量	縦 五・七	横	六・五
種子調法	葉研 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	彫幅	一・二
形状	・上部左側剥離(種子上部剥離)。 ・下端左側欠損。 ・周縁部敲打。	彫深	〇・二
備考	・上端より一七センチ、五三センチの位置に二本一組の横罫線。		

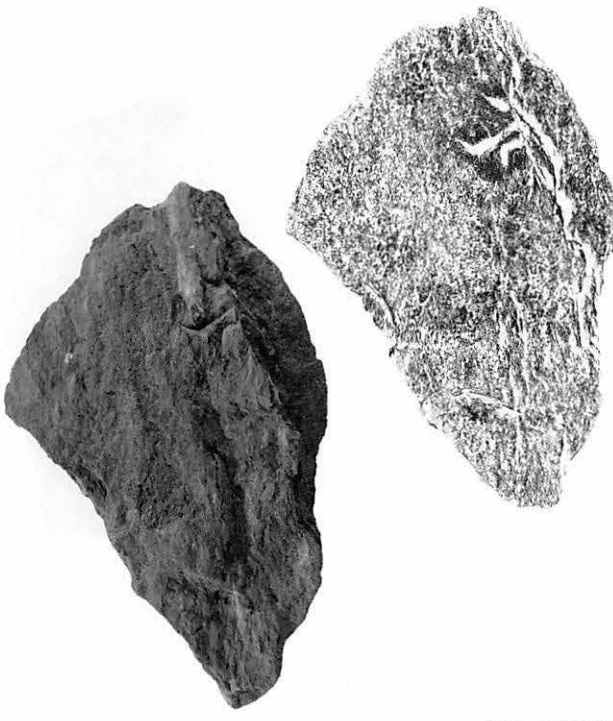
写真・拓本 10%

番号	二六〇	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四四・〇 幅 二九・〇 厚 二・〇		
種子	バーンク(金剛界大日如来)?		
種子法量	縦 一八・〇 横 一一・〇 彫幅 一・九 彫深 〇・二		
種子調法	薬研 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・上端部敲打。・下部欠損。		
備考	・種子は複雑な形状、バーンクの異体か。		



写真・拓本 15%

番号	二六一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三五・五 幅 二一・五 厚 四・〇		
種子	サ(聖観音菩薩)またはサク(勢至菩薩)		
種子法量	縦 五・〇 横 五・七 彫幅 〇・八 彫深 〇・三		
種子調法	薬研 平鑿で底線に直角に彫る。		
形状	・頭部整形。・右側、下部左側欠損。		
備考	・種子の右側が欠けているためサクかサクか判断できない。		



写真・拓本 20%

番号	二六二	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 四〇・〇	幅 一九・〇	厚 二・一
種子	力(地蔵菩薩)		
種子法量	縦 四・〇	横 二・〇	彫幅 〇・三 彫深 〇・一
種子調法	葉研 平鑿で底線に平行に彫る。		
形状	・上端部、下端部欠損。		




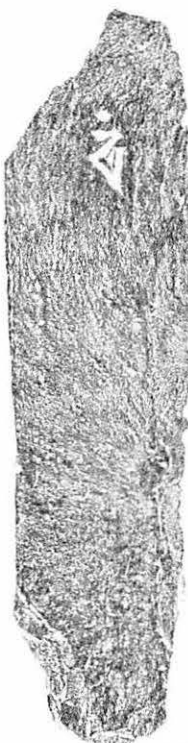
写真・拓本 20%

番号	二六四	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 二四・〇	幅 一四・〇	厚 一・四
種子	キリク(阿弥陀如来)		
種子法量	縦 四・五	横 二・〇	彫幅 〇・五 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫		
形状	・上端部から上部右側面敲打。・左側、右側下部、下部欠損。 ・背面 右下端部に鑿痕。		




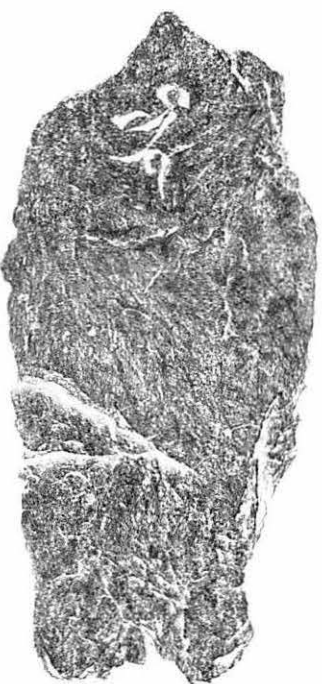
写真・拓本 25%

番号	二六八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 六五・五 幅 一七・〇 厚 四・〇		
種子	パン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 八・一 横 三・一 彫幅 一・五 彫深 〇・二三		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部左側欠損。・左側面節理面。 ・背面 鑿痕。左側下部から右側に懸けて割り矧ぎ。		



写真・拓本 15%

番号	二六九	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三六・一 幅 一六・九 厚 二・三		
種子	バイ(葉師如来、毘沙門天)		
種子法量	縦 六・九 横 四・二 彫幅 〇・二 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫		
形状	・頭部整形。		


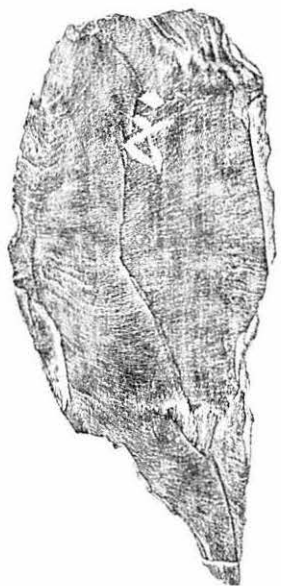
写真・拓本 25%

番号	二七二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 五三・五 幅 一七・〇 厚 二・七	種子	カン(馬頭観音)
種子法量	縦 九・五 横 三・〇 彫幅 〇・八 彫深 〇・二	種子調法	葉研彫 尖り鑿で彫り込む。
形状	・頭部左側面、下部欠損。		

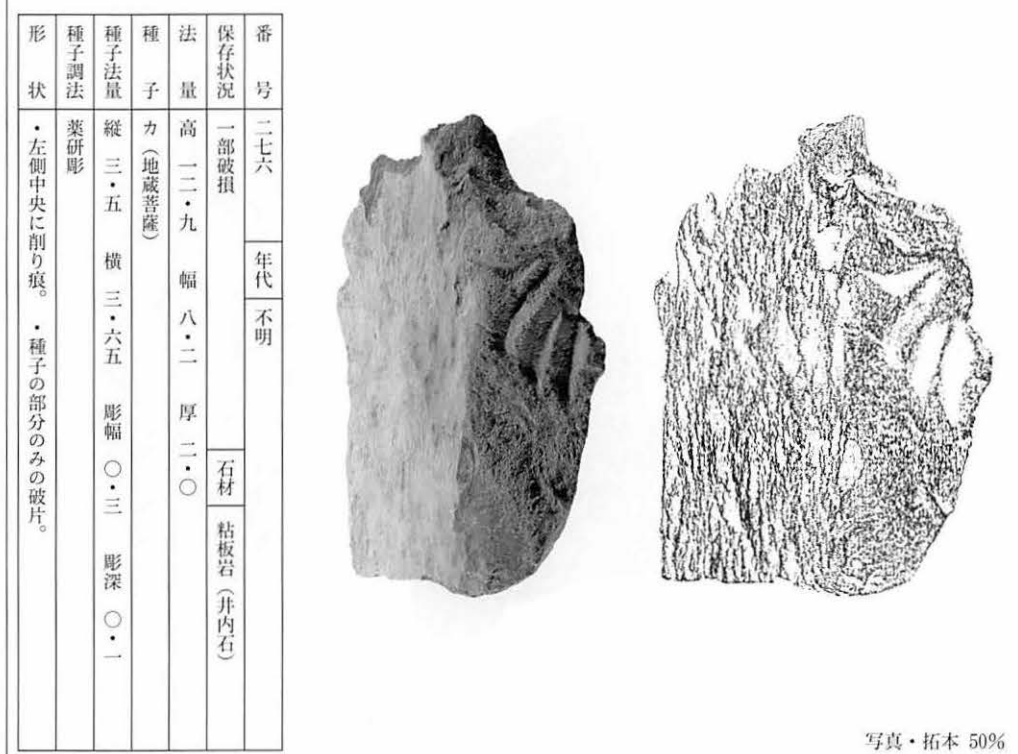
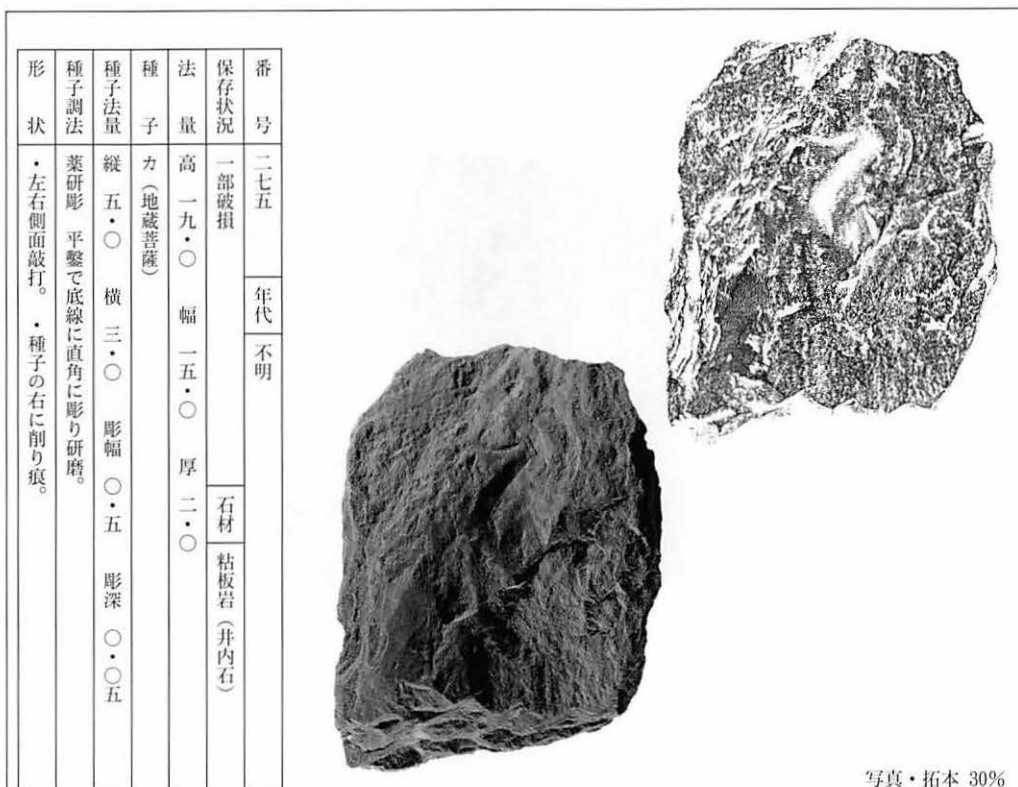



写真・拓本 15%



番号	二七三	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(玄昌石系)
法量	高 三一・〇 幅 一四・五 厚 一・五	種子	シャン(月天、月光菩薩)
種子法量	縦 四・五 横 三・四 彫幅 〇・九五 彫深 〇・一	種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。
形状	・下部欠損。・背面 中央部に鑿痕。		

写真・拓本 25%





番号	二八〇	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三〇・〇	幅	一九・五	厚	三・五
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉様大明菩薩)				
種子法量	縦 八・七	横	五・三	彫幅	二・〇
種子調法	葉研彫 研磨。				
形状	・下部欠損。・種子の周囲を矢り鑿で調整。				


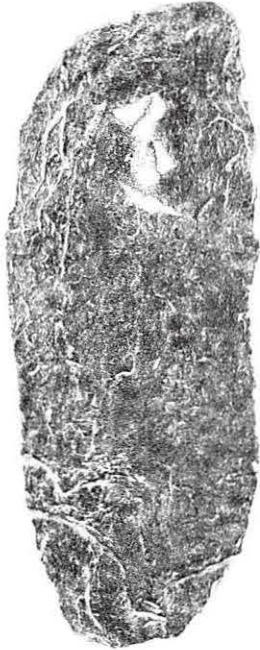
写真・拓本 20%

番号	二八二	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高二六・三	幅	一三・五	厚	三・〇
種子	サ(聖観音菩薩)?				
種子法量	縦 五・二	横	三・五	彫幅	一・〇
種子調法	葉研彫				
形状	・下部欠損。				

写真・拓本 25%

番号	二八四	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二・五・二 幅 一〇・五 厚 一・四	種子	口(北斗星、他化自在天)
種子法量	縦 五・四 横 三・五 彫幅 一・〇 彫深 〇・三	種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形状	・上部左側面敲打。・背面 上部割り矧ぎ、研磨。		

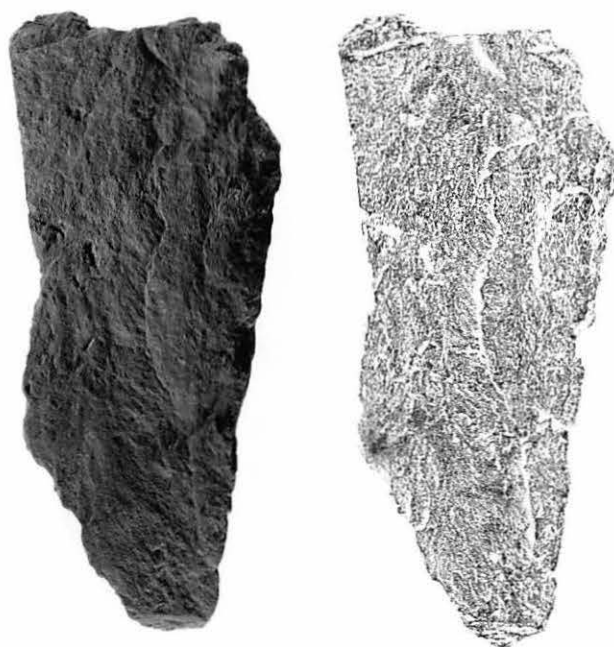
写真・拓本 30%

番号	二八六	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二・八・五 幅 一・〇 厚 三・〇	種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)
種子法量	縦 三・二 横 二・三 彫幅 〇・二 彫深 〇・〇五	種子調法	葉研彫
形状	・周縁部敲打。・背面 左右側面から割り矧ぎ。		



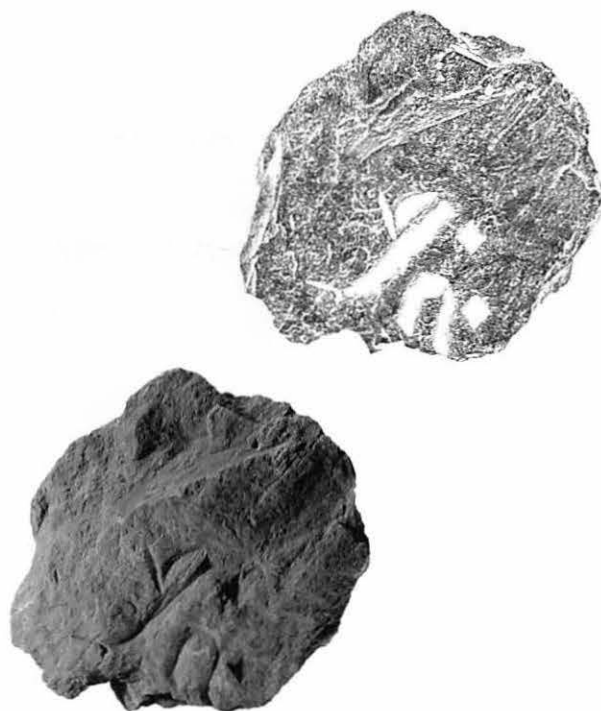

写真・拓本 30%

番号	二八七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四一・六 幅 一七・八 厚 三・二	種子	不明
種子法量	縦 三・〇 横 二・〇 彫幅 〇・七 彫深 〇・二	種子調法	葉研彫
形状	・上部欠損。・右側面敲打。		

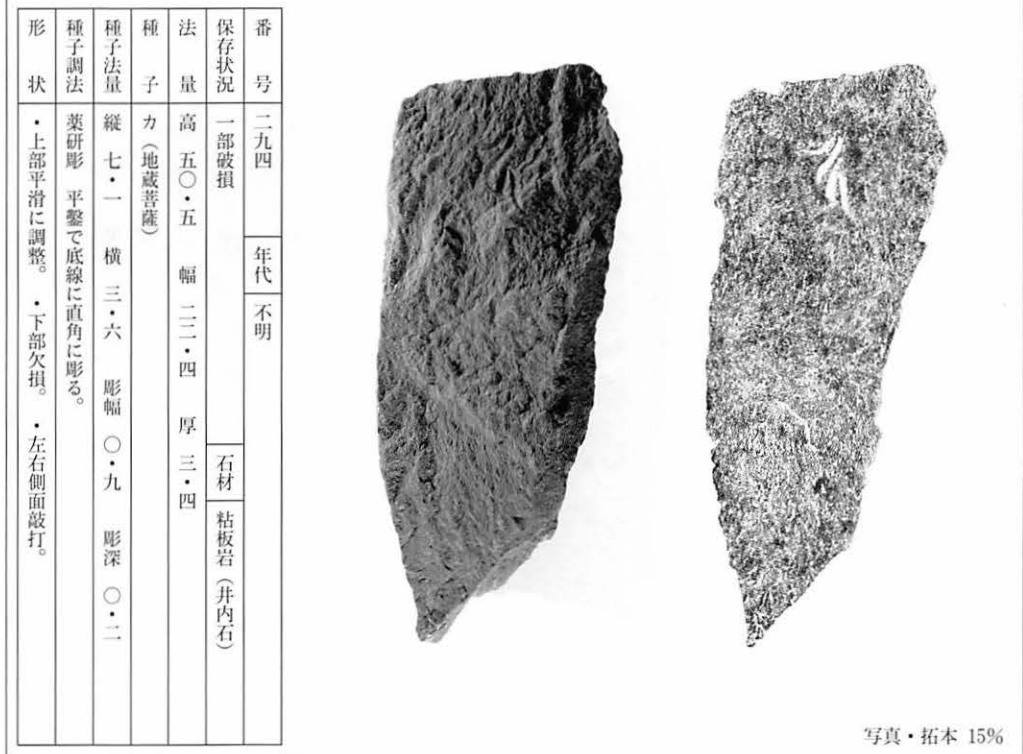
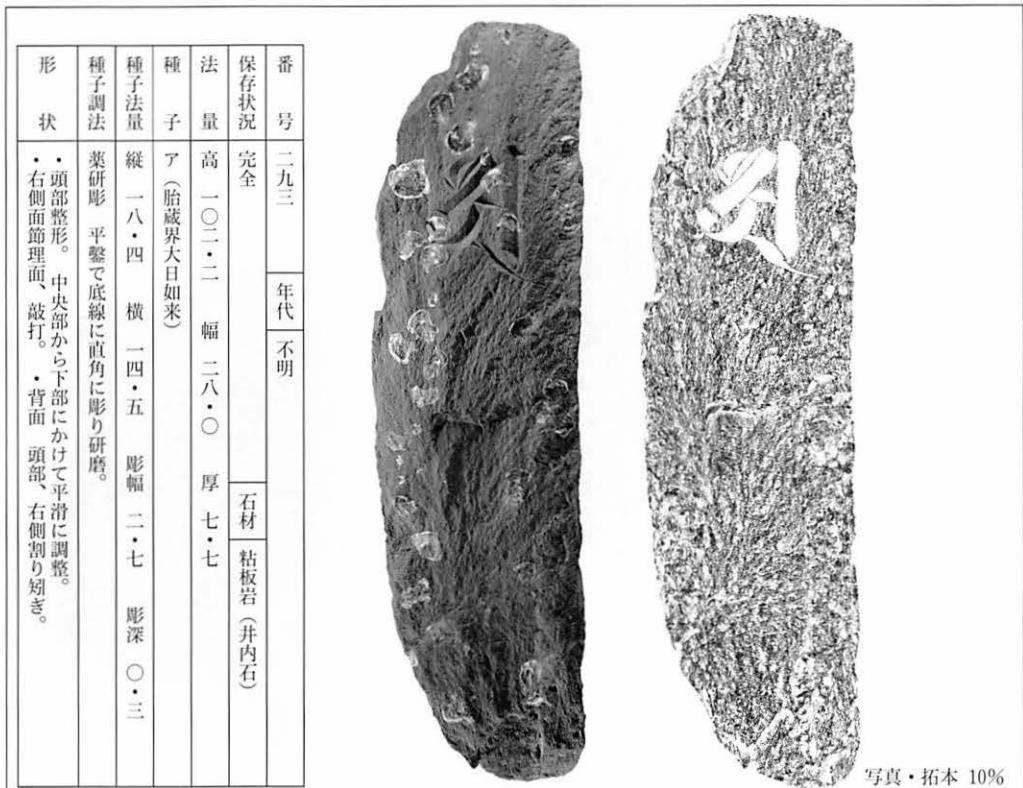


写真・拓本 20%

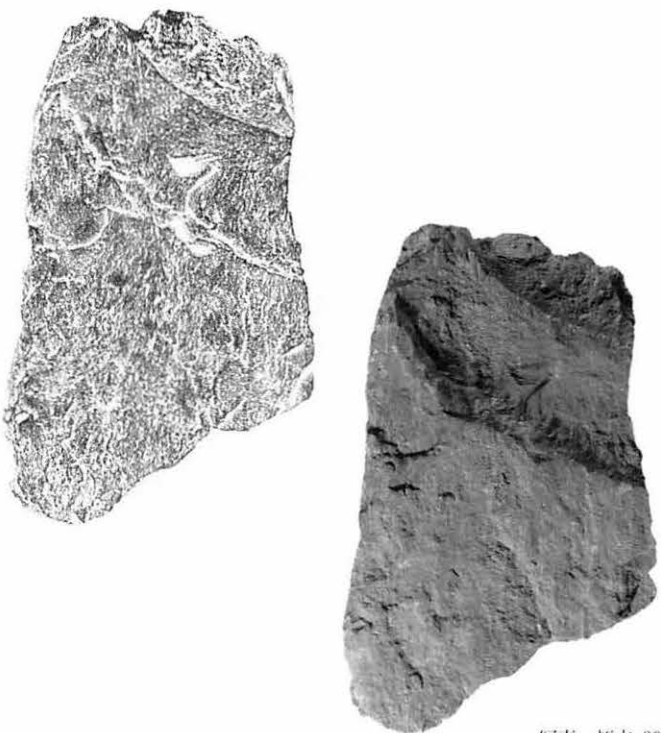
番号	二九〇	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二二・五 幅 二二・五 厚 三・〇	種子	バク(釈迦如来)
種子法量	縦 一一・〇 横 一二・五 彫幅 一・〇 彫深 〇・四	種子調法	葉研彫
形状	・下部欠損。		



写真・拓本 20%

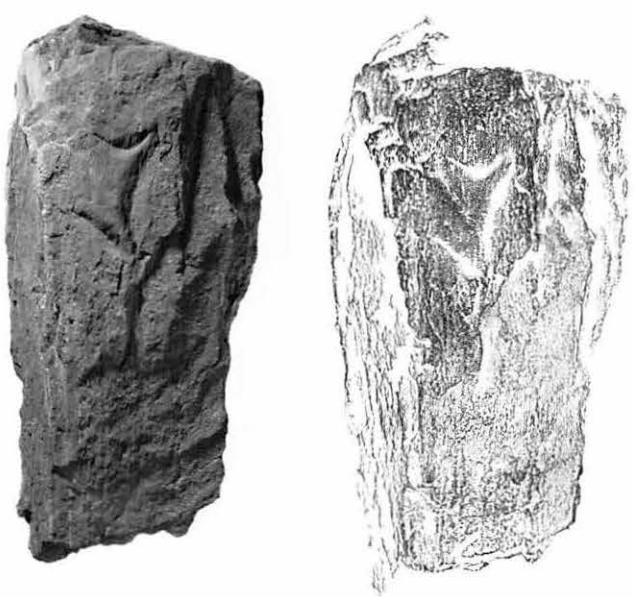


番号	二九五	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二二・五 幅 一三・八 厚 二・五		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦 三・六 横 二・二 彫幅 〇・四 彫深 〇・〇五		
種子調法	葉研彫 研磨		
形状	・下部欠損。・背面 左右側面割り崩ぎ。		



写真・拓本 30%

番号	二九七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二五・〇 幅 一二・〇 厚 三・五		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦 五・六 横 三・九 彫幅 〇・一五 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫		
形状	・下部欠損。・下端部右側に溝状の鑿痕。		



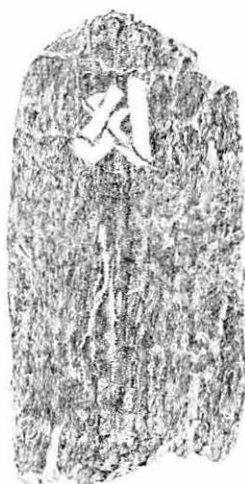
写真・拓本 30%

番号	三〇〇
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高 二八・五 幅 一二・〇 厚 二・〇
形状	・種子の一部と思われる残画が認められる破片。
	石材 粘板岩(井内石)



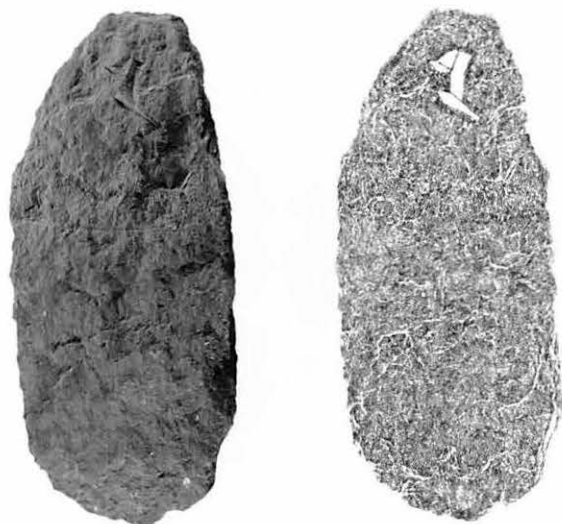
写真・拓本 30%

番号	三〇一
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高 六四・〇 幅 三二・〇 厚 三・五
種子	ア(胎藏界大日如来)
種子法量	縦 一四・五 横 一二・〇 彫幅 二・一 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫
形状	・頭部整形。・下部欠損。・右側面敲打。・背面 左右側面割り堀ぎ。
	石材 粘板岩(井内石)



写真・拓本 10%

番号	三〇二	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩（井内石）
法量	高 六九・〇 幅 三〇・五 厚 三・四		
種子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）		
種子法量	縦 一〇・五 横 七・八 彫幅 一・八 彫深 〇・三		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・ 頭部、基部整形。 ・ 左右側面敲打。 ・ 背面 頭部、基部割り崩き。		



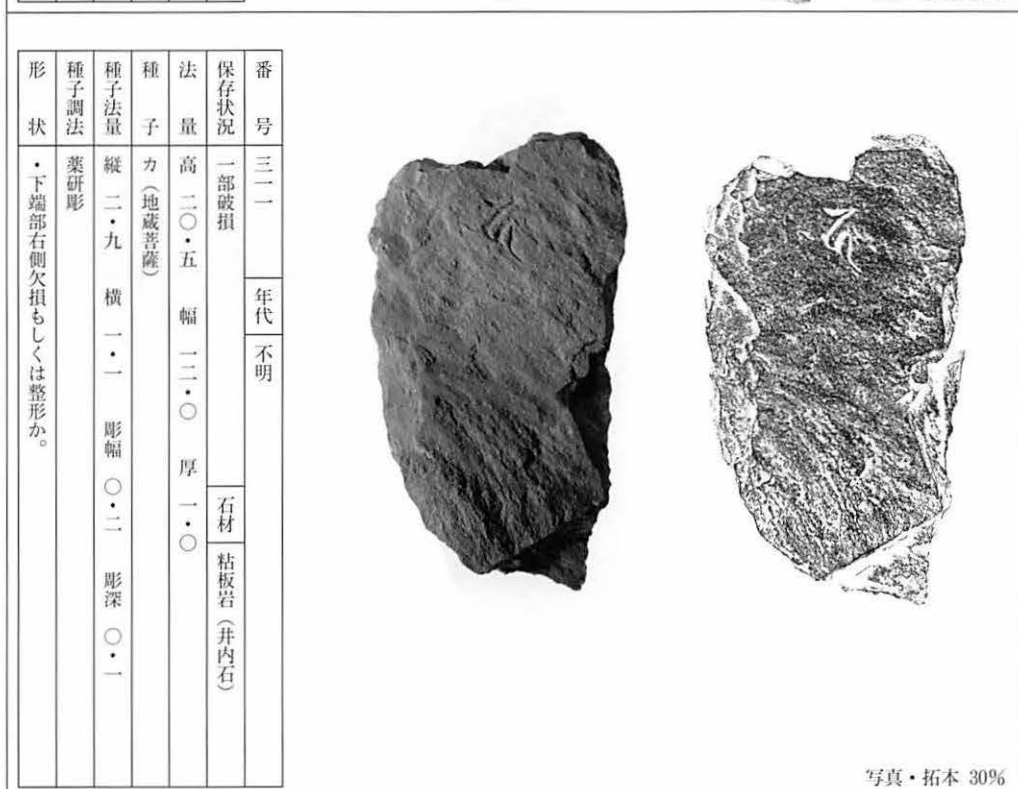
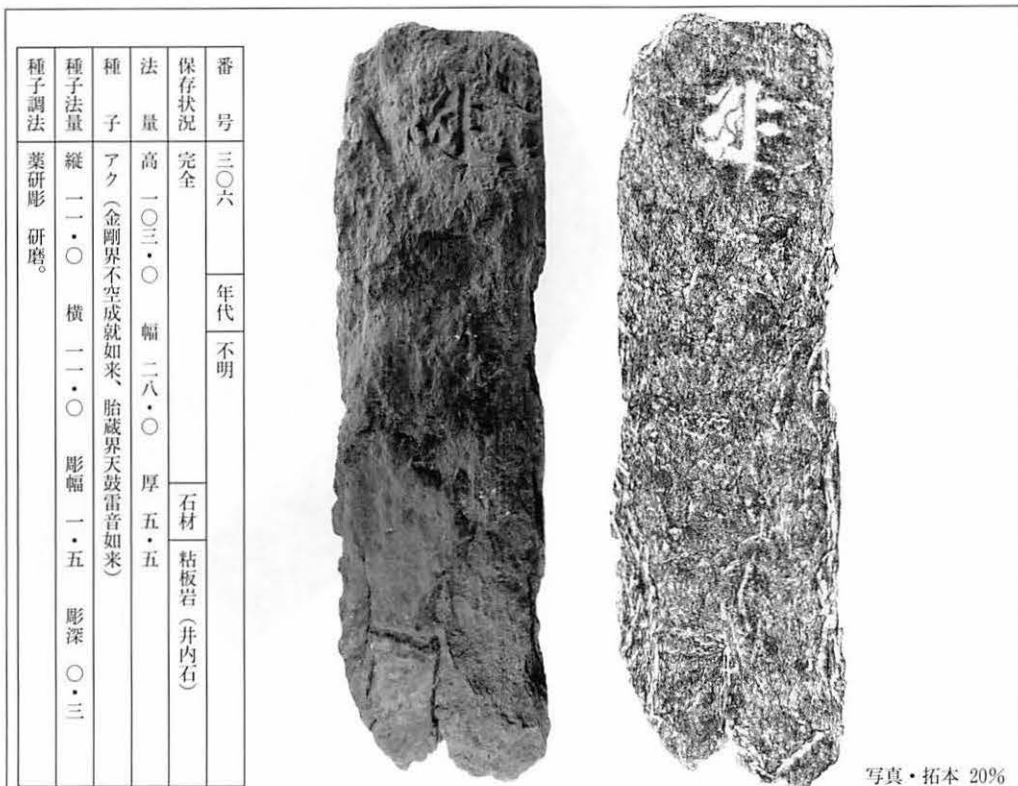
写真・拓本 10%

番号	三〇五	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（井内石）
法量	高 一二・〇 幅 八・〇 厚 四・一		
形状	・ 紀年銘の一部が認められる破片。		

「月廿四日」



写真・拓本 50%

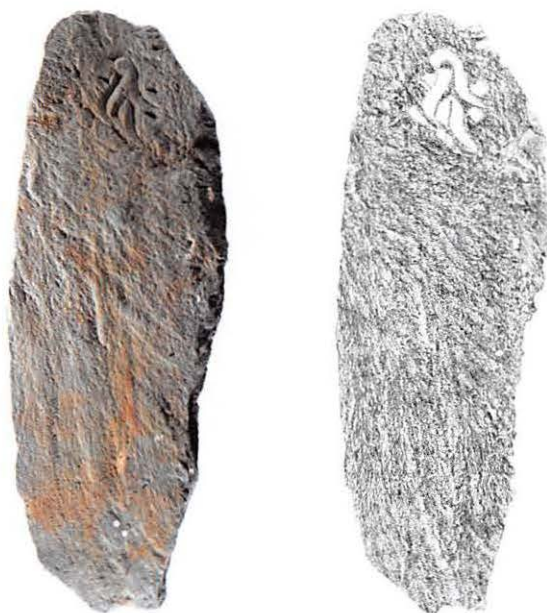


番号	保存状況	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
三二二	一部破損	高 一七・五	幅 七・〇	厚 二・五	
法 量	キリク(阿弥陀如来)				
種子法量	縦 三・八	横 三・三	彫幅 〇・九	彫深 〇・一	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。				
形状	・種子の一部のみの破片。				
備考	・五二四と接続。				
番号	保存状況	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
五二四	一部破損	高 二三・〇	幅 一一・三	厚 三・五	
法 量	キリク(阿弥陀如来)				
種子法量	縦 一〇・五	横 八・〇	彫幅 一・七	彫深 〇・一	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。				
形状	・種子の一部のみの破片。				
備考	・三二二と接続。				

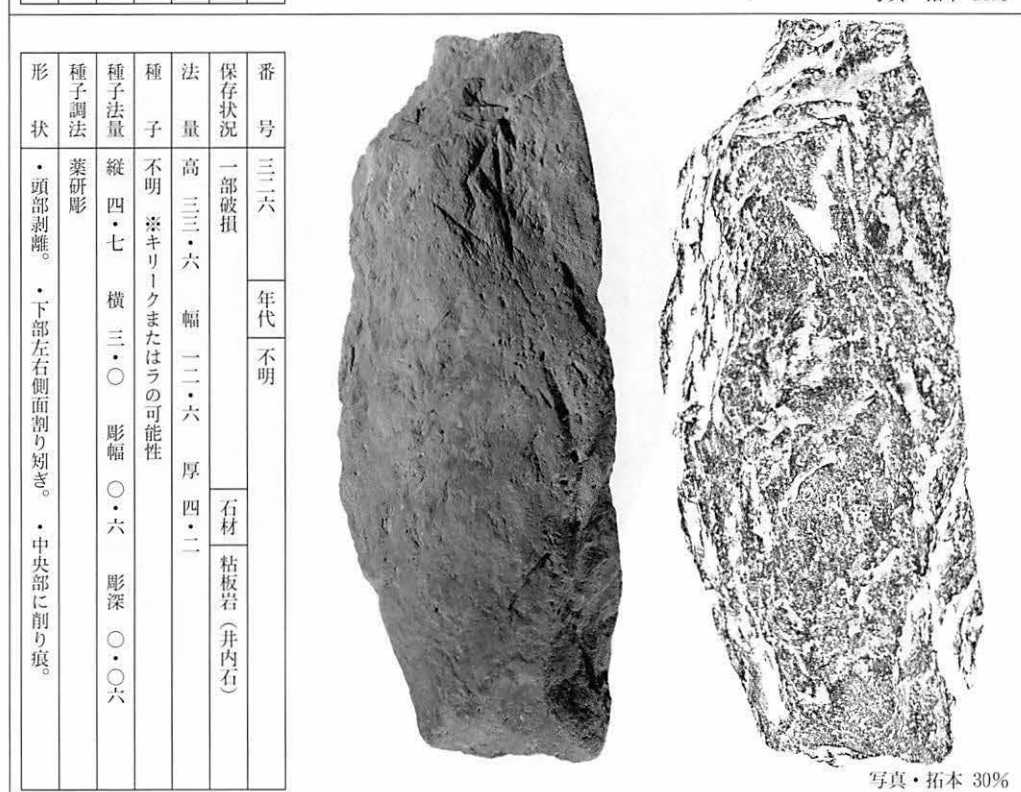
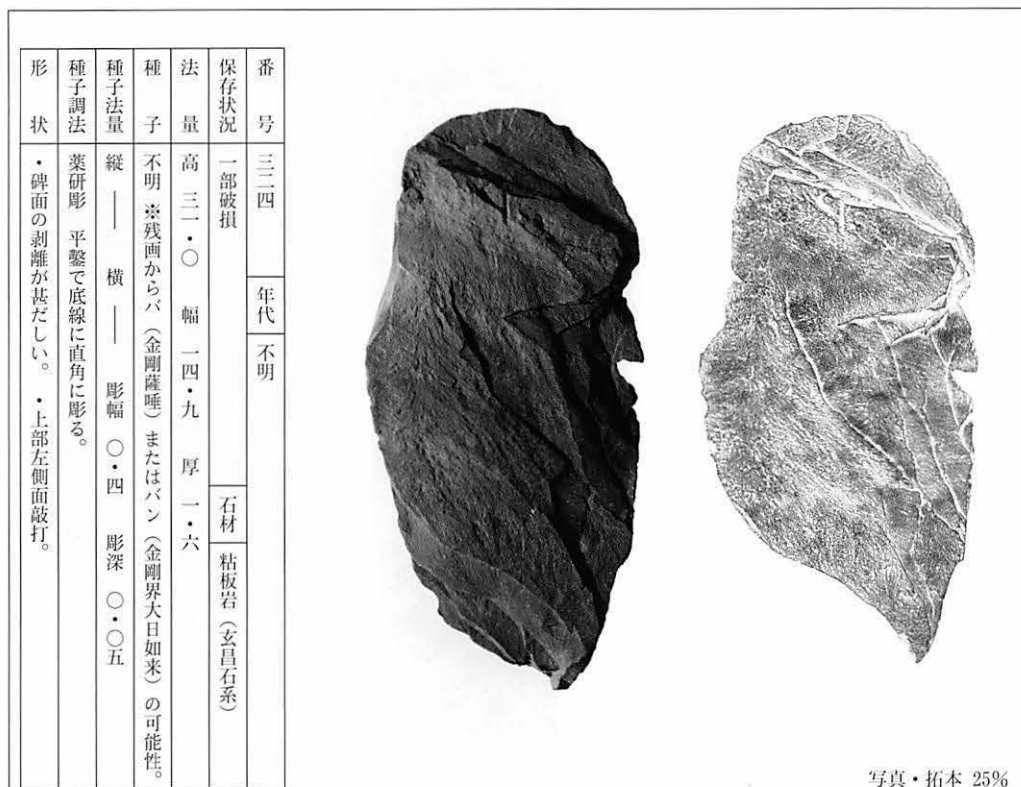


写真・拓本 25%



番号	保存状況	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
三二八	完全	高 八一・〇	幅 三〇・〇	厚 五・〇	
法 量	キリク(阿弥陀如来)				
種子法量	縦 一三・五	横 一一・五	彫幅 一・六	彫深 〇・一	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。				
形状	・上部右側剥離。・左側面敲打。・背面 右側面割り剥ぎ。				



写真・拓本 10%





番号	三二七	年代	不明
	保存状況		
法量	高三八・〇 幅一八・六 厚三・〇	石材	粘板岩(井内石)
種子	不明 ※カイン(不動明王)またはキリクの可能性。		
種子法量	縦 八・五 横 四・八 彫幅 一・六 彫深 〇・二五		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。		
形状	・頭部左側欠損。・右側面敲打。・下部割り削ぎ。		
備考	・上端より四センチ、一五センチ、三七・五センチの位置に横罫線。二本目と三本目の横罫線の間に三本の縦罫線。		

写真・拓本 20%

番号	三三〇	年代	不明
	保存状況		
法量	高 五五・〇 幅 二五・〇 厚 三・〇	石材	粘板岩(井内石)
種子	マン(文殊菩薩)		
種子法量	縦 七・〇 横 五・〇 彫幅 〇・九 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
備考	・種子の上下に横罫線、頭部左側に縦罫線。		

写真・拓本 15%

貞治五

番号	三三三	年代	貞治五年（一三六六）	南北朝時代（北朝）
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（井内石）	
法量	高 八・六 幅 九・五 厚 一・五			
形状	・年号部分のみの破片。			



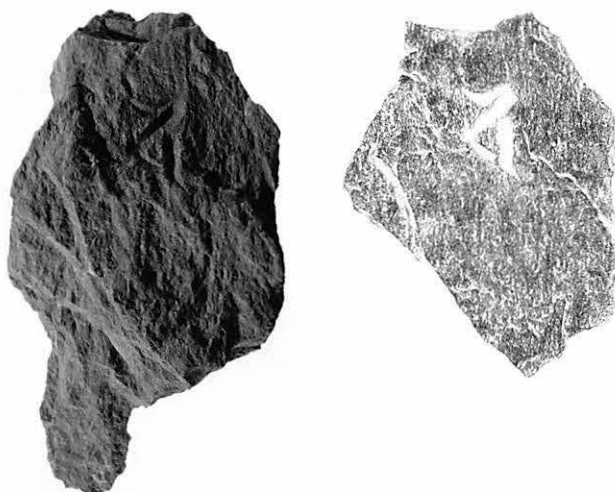
写真・拓本 50%

番号	三三九	年代	不明	石材	粘板岩（井内石）
保存状況	一部破損	種子	不明	法量	高 一〇・五 幅 一三・〇 厚 二・四
種子調法	縦 — 横 — 彫幅 一・三五 彫深 〇・二五	形状	・種子の一部のみの破片。		



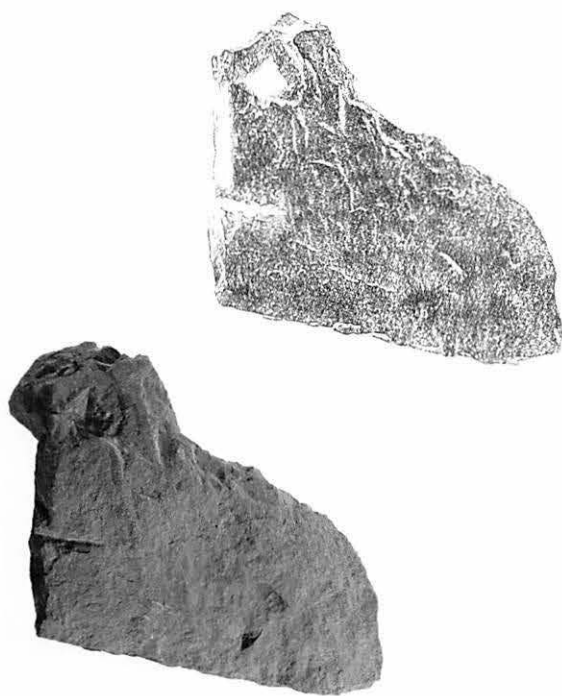
写真・拓本 50%

番号	三四三
年代	不明
保存状況	一部破損
法 量	高 二六・五 幅 一六・〇 厚 二・七
種 子	バ(金剛薩唾)
種子法量	縦 五・〇 横 三・〇 彫幅 一・〇 彫深 〇・二
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形 状	・左右側面割り削ぎ。・下部欠損。



写真・拓本 25%

番号	三四四
年代	不明
保存状況	一部破損
法 量	高 一六・五 幅 一五・五 厚 二・二
種 子	アク(金剛界不空成就如来、胎藏界天鼓雷音如来)?
種子法量	縦 — 横 — 彫幅 一・六五 彫深 〇・二五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。
形 状	・種子の一部のみの破片。



写真・拓本 30%



番 号	三四九	年代	不明
	保存状況		
法 量	高 一・二・〇 幅 八・〇 厚 一・五	石材	
種 子	不明	粘板岩（玄昌石系）	
種子法量	縦 一・〇 横 〇・五 彫幅 〇・一 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形 状	・中央部に溝状の鑿痕。		

写真・拓本 50%

番 号	三五〇	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
	保存状況				
法 量	高 一・一・〇 幅 九・七 厚 一・一				
種 子	不明				
種子法量	縦 三・五 横 三・七 彫幅 〇・七 彫深 〇・〇六				
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。				
形 状	・上端部研磨。・種子の一部のみの破片。				



写真・拓本 50%

番号	三五二	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 六五・三 幅 三〇・六 厚 三・三		
種子	キリク(阿弥陀如来)		
種子法量	縦 一〇・四 横 七・四 彫幅 一・四五 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・碑面左右側面、背面左右側面削り筋き。 ・周縁部敲打。		
備考	・種子下端から四・五センチ、二四・四センチの位置に横罫線。二本目の横罫線の位置で右側面から七・三センチ、左側面から四・三センチの位置に縦罫線。		


写真・拓本 10%

番号	三五四	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 五一・〇 幅 一九・〇 厚 二・六		
種子	バ(金剛薩埵)		
種子法量	縦 六・〇 横 三・〇 彫幅 〇・八 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫		
形状	・碑面風化。		

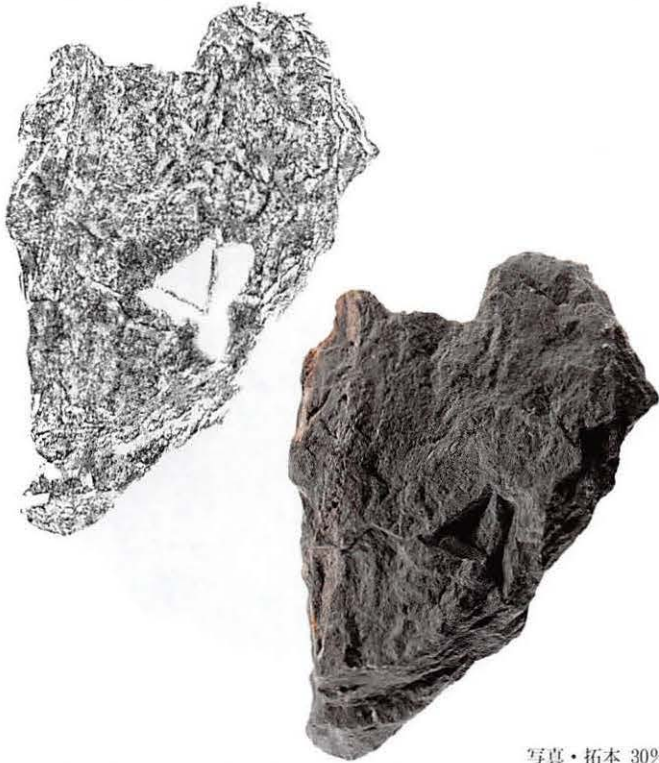
写真・拓本 15%

番 号	三五五	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩（井内石）
法 量	高 一一・四 幅 八・五 厚 〇・九		
種 子	不明		
種子法量	縦 二・七 横 一・一 彫幅 一・一 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫		
形 状	・種子の一部のみの破片。		

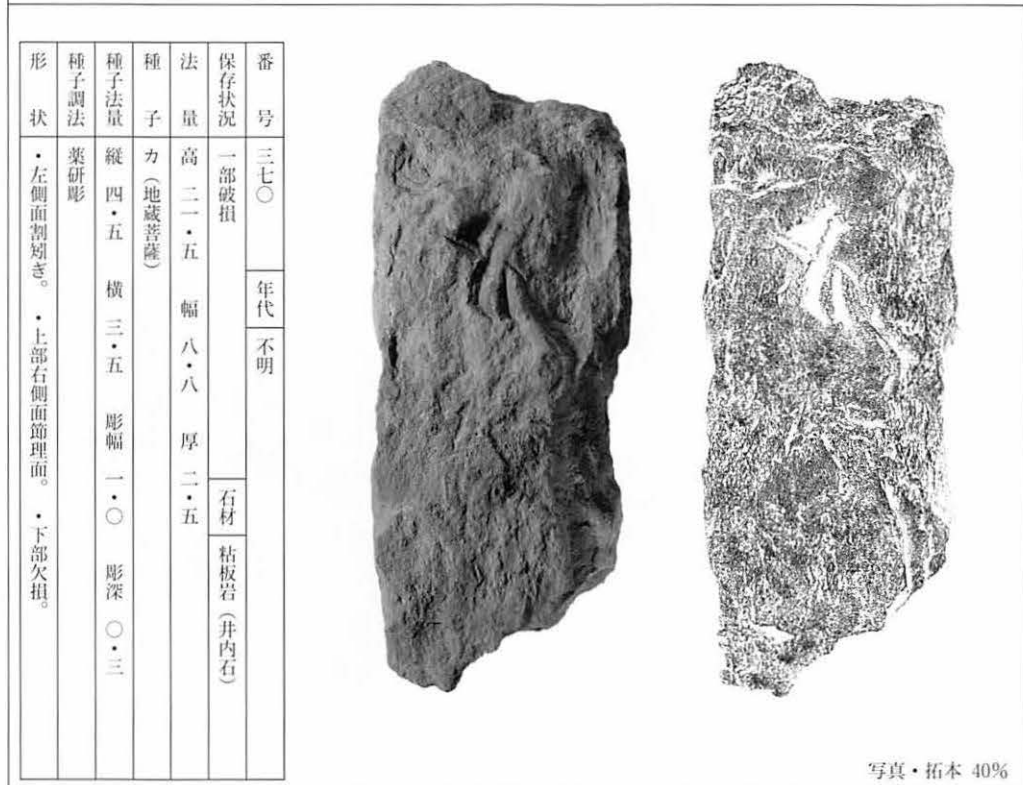
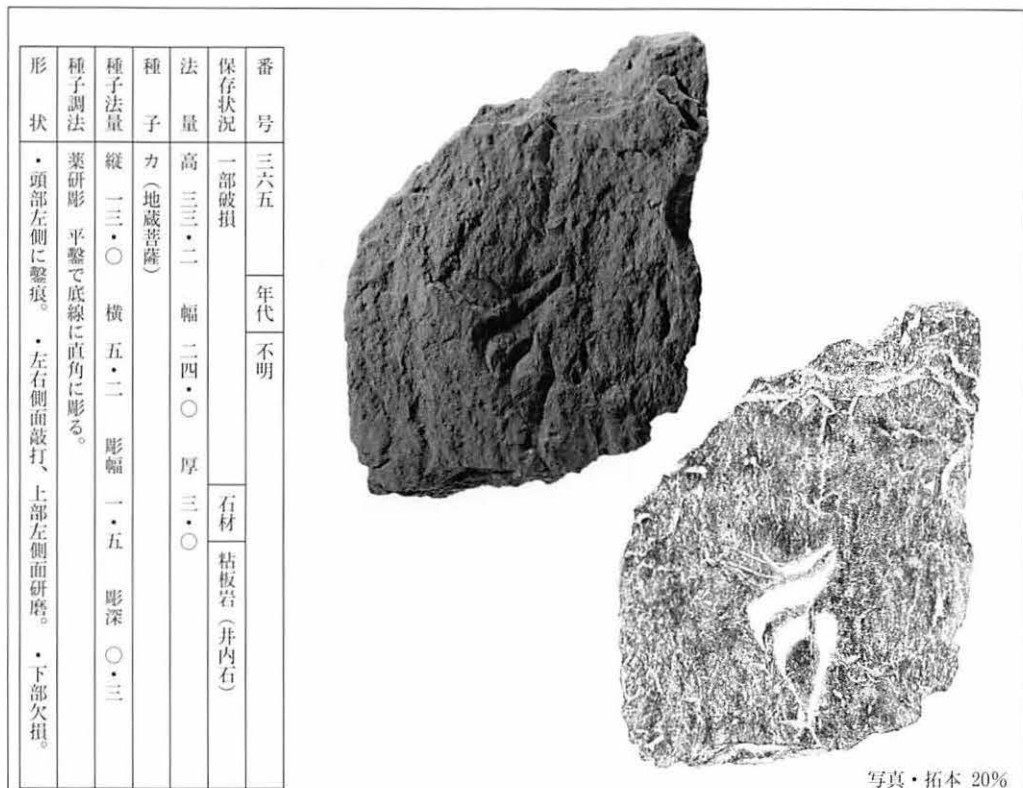


写真・拓本 50%



番 号	三六二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（井内石）
法 量	高 二〇・六 幅 一九・六 厚 二・一五		
種 子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）？		
種子法量	縦 — 横 — 彫幅 二・二五 彫深 〇・四五		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。		
形 状	・下部欠損。		



写真・拓本 30%


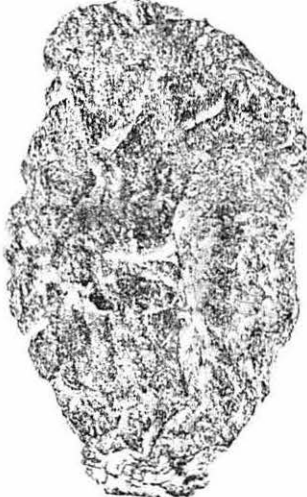


番号	三七一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内右)
法量	高二六・〇 幅一五・三 厚二・〇		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦二・〇 横一・八 彫幅〇・二 彫深〇・一五		
種子調法	溝状に彫り込む。		
形状	・下部欠損。		

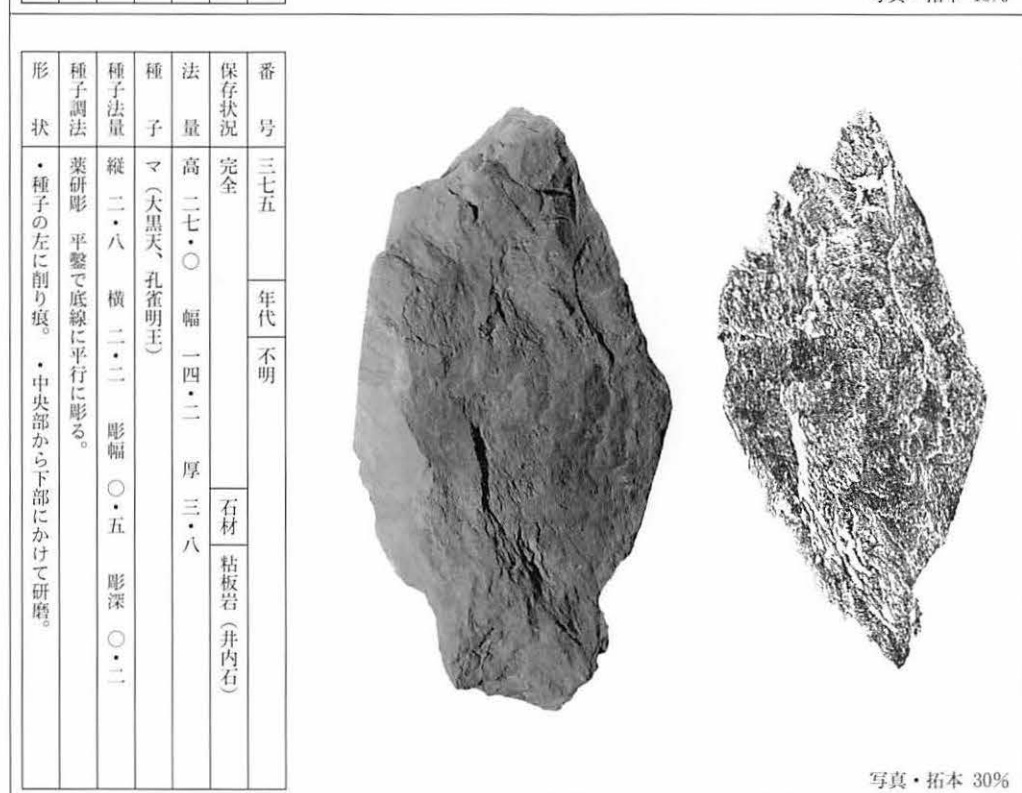
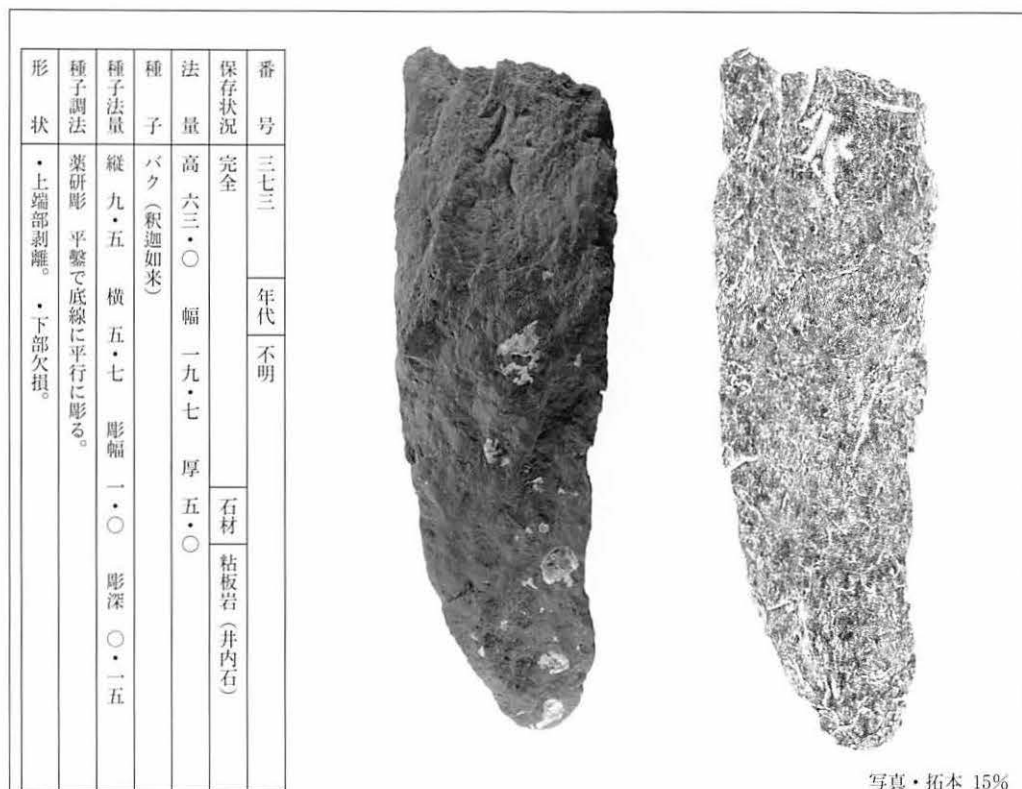



写真・拓本 25%

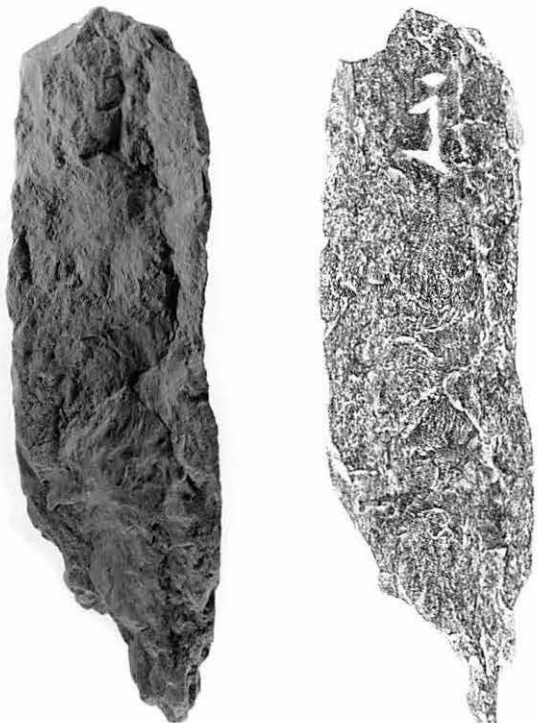
番号	三七二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内右)
法量	高一七・〇 幅一〇・三 厚二・一五		
種子	不明		
種子法量	縦—— 横—— 彫幅〇・四 彫深〇・〇五		
種子調法	莢研彫 平鑿で底線に平行に彫る。		
形状	・残画は種子の一部と考えられる。		

写真・拓本 40%




番号	三七七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四八・〇 幅 一四・〇 厚 三・〇		
種子	ラン(金剛語菩薩)		
種子法量	縦 六・五 横 三・〇 彫幅 一・〇 彫深 〇・〇七		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。		
形状	・頭部整形。 ・下部欠損。 ・中央部に鑿痕。 ・左右側面割り矧ぎ、敲打。		




写真・拓本 20%

番号	三八八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 九・五 幅 一〇・〇 厚 二・〇		
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。		
種子法量	縦 五・二 横 二・九 彫幅 〇・九 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・種子の一部の破片。		



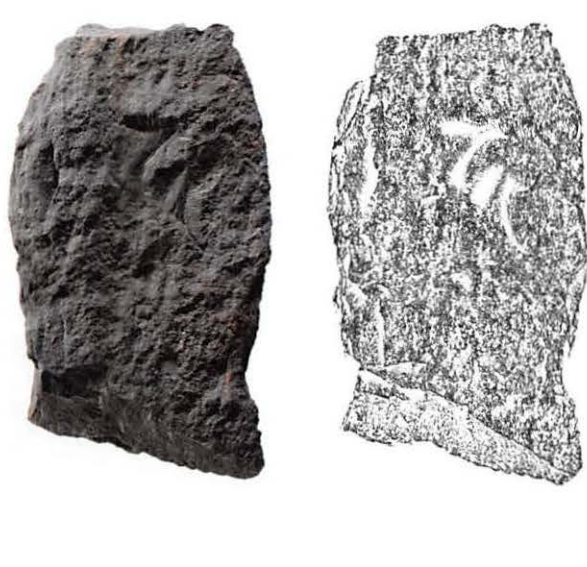
写真・拓本 50%

番号	三九〇	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三六・五	幅	一六・七
厚	四・〇	種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)
種子法量	縦 五・八	横	二・五
彫幅	〇・八	彫深	〇・一
種子調法	薬研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	形状	・下部右側面割り刎ぎ。
備考	・種子の下に二本の横罫線。種子の上にも横罫線の可能性。		





写真・拓本 20%

番号	四〇一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二〇・三	幅	一一・八
厚	一・八	種子	力(地藏菩薩)
種子法量	縦 五・三	横	三・五
彫幅	一・〇	彫深	〇・一
種子調法	薬研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	形状	・頭部整形、上端部敲打。・下部欠損。・背面 研磨。
備考	・種子の上下に横罫線。		




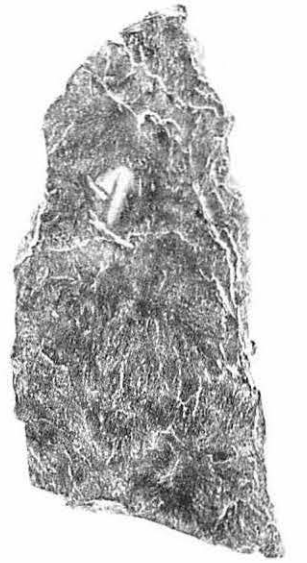
写真・拓本 30%

番号	四〇九	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 一・二・〇	幅 一・〇・〇	厚 二・〇
種子	バク（釈迦如来）		
種子法量	縦 四・〇	横 三・五	彫幅 〇・三
種子調法	葉研彫	彫深 〇・〇五	
形状	・種子の右に縦筋状の鑿痕。 ・上部右側のみの破片。		

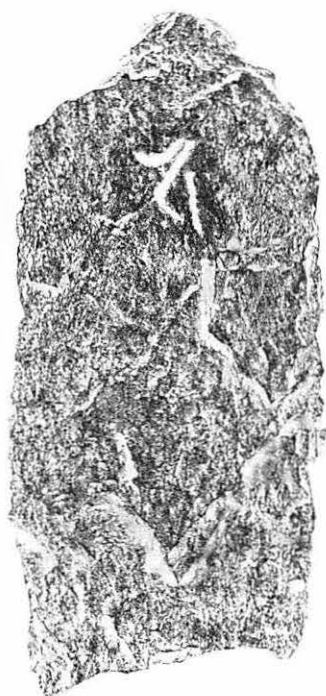
写真・拓本 40%

番号	四一二	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 三・八・〇	幅 二・〇・一	厚 二・一
種子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）		
種子法量	縦 五・五	横 三・三	彫幅 一・二五
種子調法	葉研彫	彫深 〇・二	
形状	・左側、下部欠損。		

写真・拓本 20%

番号	四一三	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三・六・五	幅	一七・〇
厚	四・〇	石材	粘板岩(井内石)
種子	バ(金剛薩唾)		
種子法量	縦 四・〇	横	五・〇
種子調法	葉研彫	彫幅	〇・六
彫深	〇・二	彫深	〇・二
形状	・頭部整形、上端部敲打。 ・背面 左右側面割り削ぎ、敲打。		



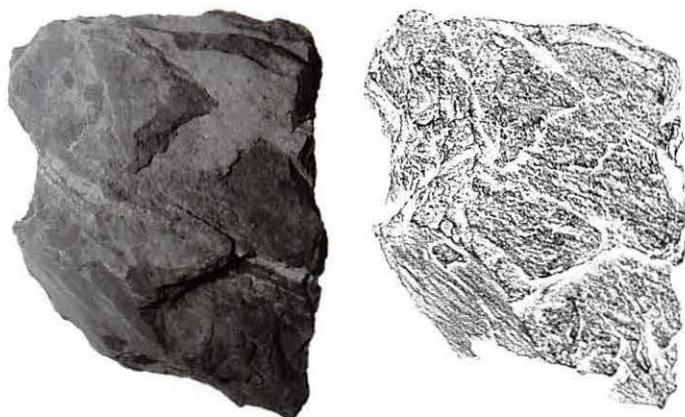
写真・拓本 25%

番号	四一四	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二・五・三	幅	九・二
厚	三・〇	石材	粘板岩(井内石)
種子	不明		
種子法量	縦 —	横	—
種子調法	葉研彫	彫幅	一・八
彫深	〇・二	彫深	〇・二
形状	・頭部右側部分の破片。 ・碑面平滑に調整し研磨。		
備考	・下端部に銘文の残画が認められる。		



写真・拓本 40%

番号	四一九	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（井内石）
法量	高二・〇	幅	一八・〇
種子	不明	厚	二・五
種子調法	葉研彫		
備考	・残画は種子の一部と考えられる。		



写真・拓本 30%



作業風景 出土位置記録作業



(パン)
奉為息女

正和五年
三日月十八日

番号	四三二	年代	正和五年(一二一六)	鎌倉時代
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)	
法量	高 四一・五 幅 一六・〇 厚 四・〇			
種子	パン(金剛界大日如来)			
種子法量	縦 一〇・一 横 五・七 彫幅 一・五 彫深 〇・一五			
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。			
形状	・頭部整形。・頭部右側欠損。・左側面敲打。 ・種子の周囲を矢り鑿で調整。			
備考	・紀年銘「三日月」は大の月を示すものか。			

写真・拓本 30%

番号	四二七
保存状況	一部破損
法量	高 二三・〇 幅 一一・五 厚 一・四
種子	力 (地藏菩薩)
種子法量	縦 八・二 横 三・七 彫幅 〇・九 彫深 〇・三
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。
形状	・上端部、左側面整形。 ・背面 削り痕。 ・右側面節理面。 ・下部欠損。 ・碑面研磨。
備考	・石材 井内石よりも側密な粘板岩。





写真・拓本 30%

番号	四四一
保存状況	一部破損
法量	高 二六・〇 幅 一五・〇 厚 三・〇
種子	イ (護国地蔵)
種子法量	縦 四・五 横 四・五 彫幅 〇・五 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫
形状	・周縁部敲打。 ・下部欠損。 ・背面 左右側面削り削ぎ。




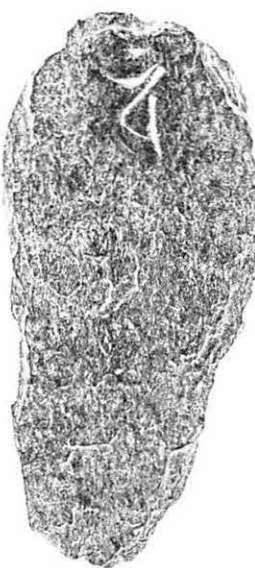
写真・拓本 25%

番号	四四八	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 七〇・七 幅 一七・五 厚 二・六		
種子	タラ(多羅菩薩、宝蔵大女、杢迦羅童子)?		
種子法量	縦 八・八 横 四・九 彫幅 一・二 彫深 〇・一二		
種子調法	葉研彫 平盤で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・上部右側面敲打。・左側面節理面。・背面 鑿痕。		

写真・拓本 10%

番号	四五一	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三七・〇 幅 一七・〇 厚 三・一		
種子	バン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 七・五 横 四・〇 彫幅 〇・七五 彫深 〇・一五		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・周縁部敲打。・背面 割り剥ぎ。		

写真・拓本 20%


番号	四五六		年代	不明	石材	粘板岩
	保存状況					
法量	高 六一・七	幅 一九・三	厚 四・四			
種子	サク（勢至菩薩）					
種子法量	縦 八・二	横 七・九	彫幅 一・二	彫深 〇・三		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。					
形状	・頭部整形。・左右側面割り削ぎ。・背面 割り削ぎ。					
備考	・石材 井内石よりも稠密な粘板岩。					

写真・拓本 15%

番号	四五七		年代	不明		石材	粘板岩（井内石）
保存状況	完全						
法 量	高	六・三・三	幅	二二・一	厚	四・八	
種子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）						
種子法量	縦	八・〇	横	四・五	彫幅	一・五三	彫深 〇・五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。						
形状	・左側面割り削ぎ。・右側面節理面。・背面 上部右側割り削ぎ。						


写真・拓本 15%

番号	四五九	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高一九・五	幅	一八・三
種子	マン(文殊菩薩)		
種子法量	縦 一〇・〇	横	四・四
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・下部欠損。		



写真・拓本 25%

番号	四六〇	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三三・〇	幅	一一・五
種子	シャ(月天、月光菩薩)		
種子法量	縦 三・四	横	二・一
種子調法	葉研彫 尖り鑿で彫り込み、さらに平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・上端部剥離。・中央部左側に削り痕。		



写真・拓本 30%

備考	形状	種子調法	種子法量	種子	法量	保存状況	番号
・偽頰 涅槃偽「諸行無常」是生滅法 生滅滅已 寂滅為樂。	・頭部整形。・周縁部敲打。・下部欠損。	葉研彫 研磨。	縦 二・一・〇 横 二・一・〇 彫幅 二・五 彫深 〇・二	イー(護讃地藏)	高 六一・五 幅 三二・〇 厚 三・二	一部破損	四六一
							年代 不明
						石材 粘板岩(井内石)	

(イー)

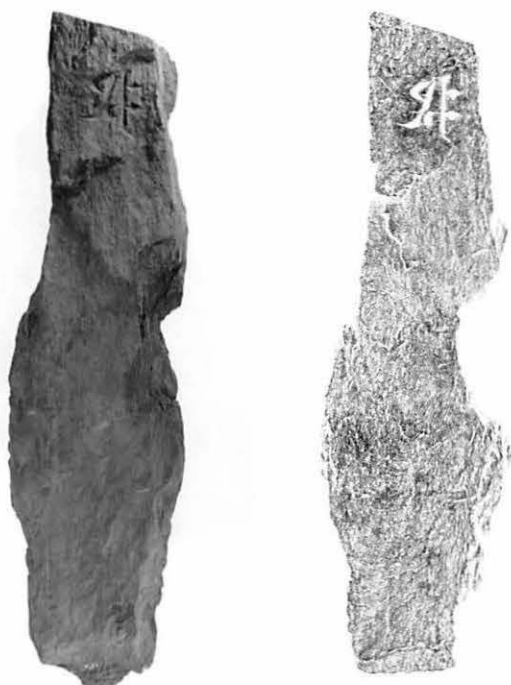
諸行無常 是生滅□^(法)

生滅々々 宛滅為□^(樂)

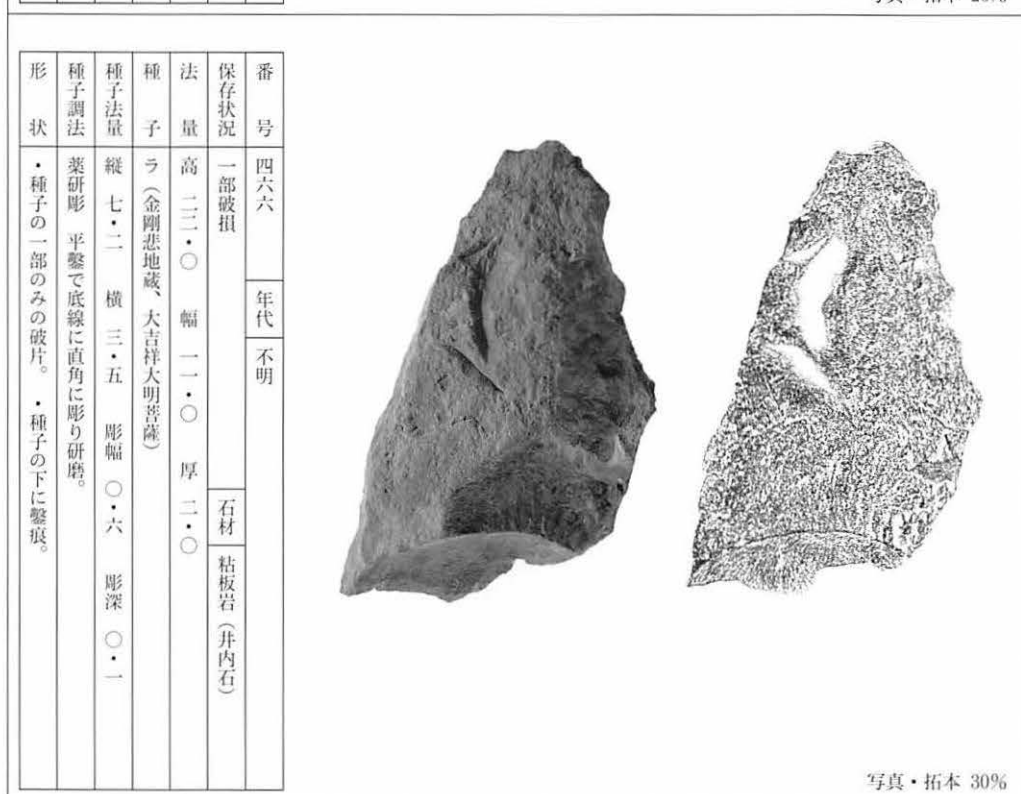
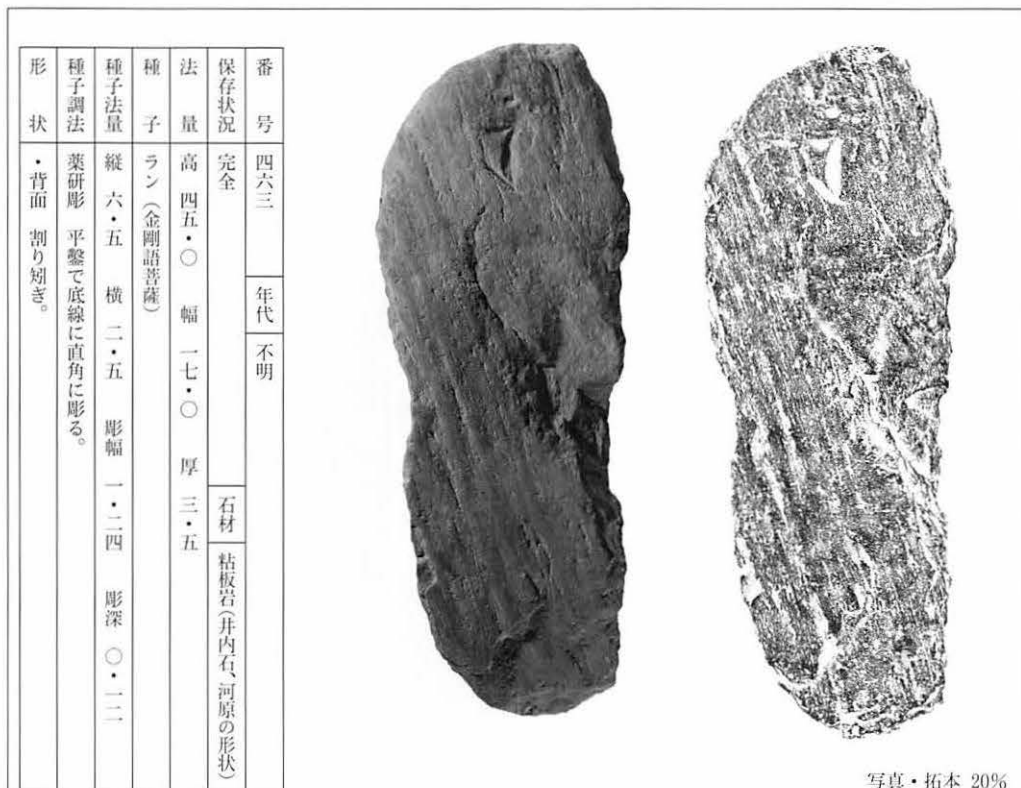


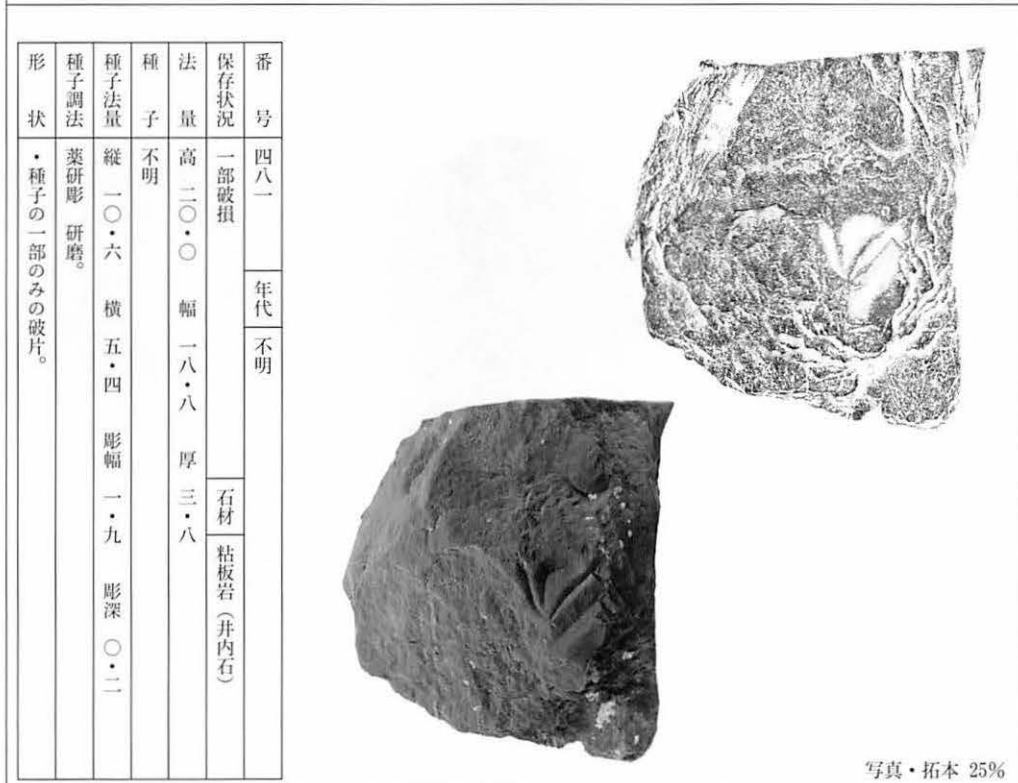
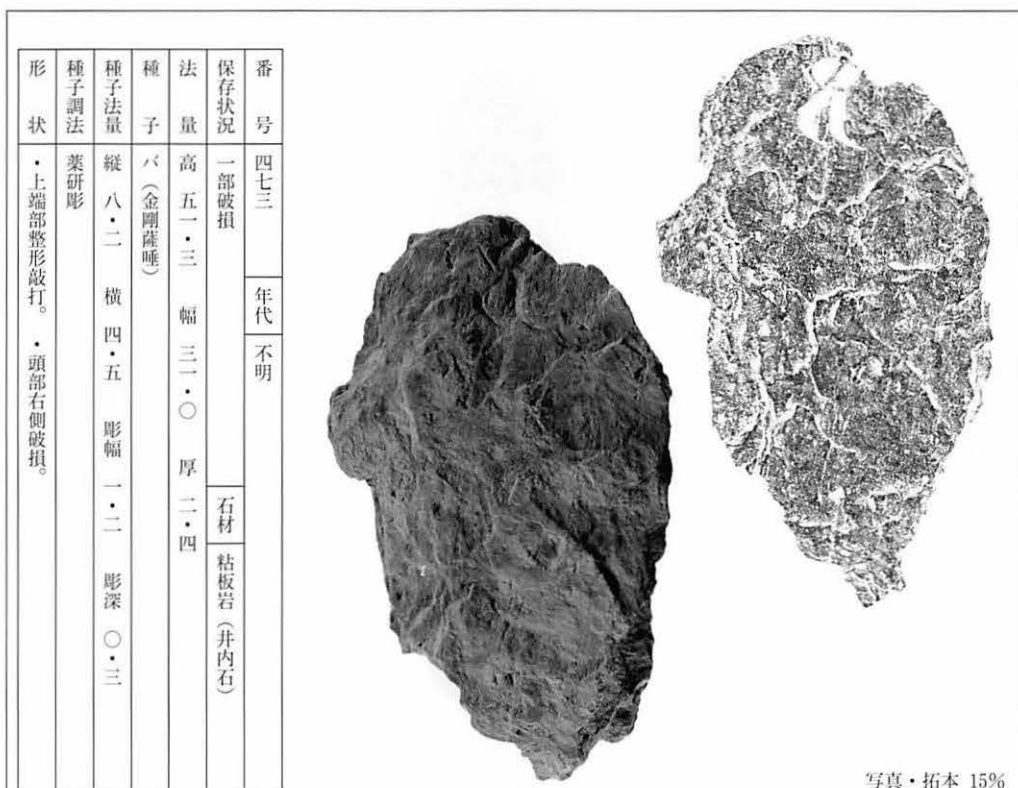
写真・拓本 10%

備考	形状	種子調法	種子法量	種子	法量	保存状況	番号
・種子の上方左側方形に研磨。・中央部右側欠損。	・葉研彫 平撃で底線に直角に彫る。	葉研彫 研磨。	縦 八・〇 横 八・五 彫幅 一・〇 彫深 〇・三	サク(勢至菩薩)	高 九二・五 幅 二四・〇 厚 四・〇	一部破損	四六二
							年代 不明
						石材 粘板岩(井内石)	





写真・拓本 10%







番 号	四八二	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩 (井内石)
法 量	高 四四・五 幅 一〇・七 厚 二・五		
種 子	バ (金剛薩唾)		
種子法量	縦 五・五 横 三・二 彫幅 〇・九 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫		
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・種子の一部のみの破片。 ・種子の右に鑿痕(種子彫刻の可能性。これが種子の残画であるならば、大型板碑の石材の再利用が想定できるか)。 		


写真・拓本 20%


番 号	四八八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩 (井内石)
法 量	高 二九・〇 幅 一五・〇 厚 三・三		
種 子	ラ (金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦 四・一 横 三・〇 彫幅 〇・六五 彫深 〇・一		
種子調法	丸彫 悉曇の輪郭に対し直角に突り鑿で彫り込む。		
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・周縁部敲打。 ・下部右側欠損。 ・背面 削り痕、研磨。 		

写真・拓本 25%


番 号	四九三	年 代	不 明	石 材	粘板岩（井内石）	保 存 状 況	完 全	法 量	高 四九・〇 幅 一四・〇 厚 三・〇	種 子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）	種 子 法 量	縦 八・〇 横 三・〇 彫幅 〇・五 彫深 〇・一	種 子 調 法	丸 彫	形 状	・頭部整形。

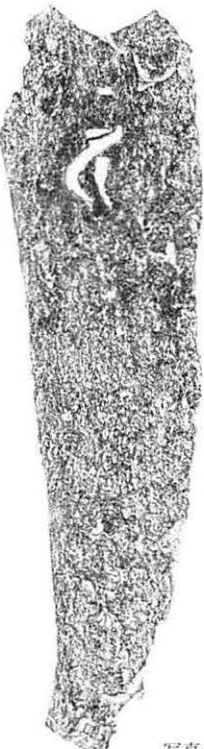




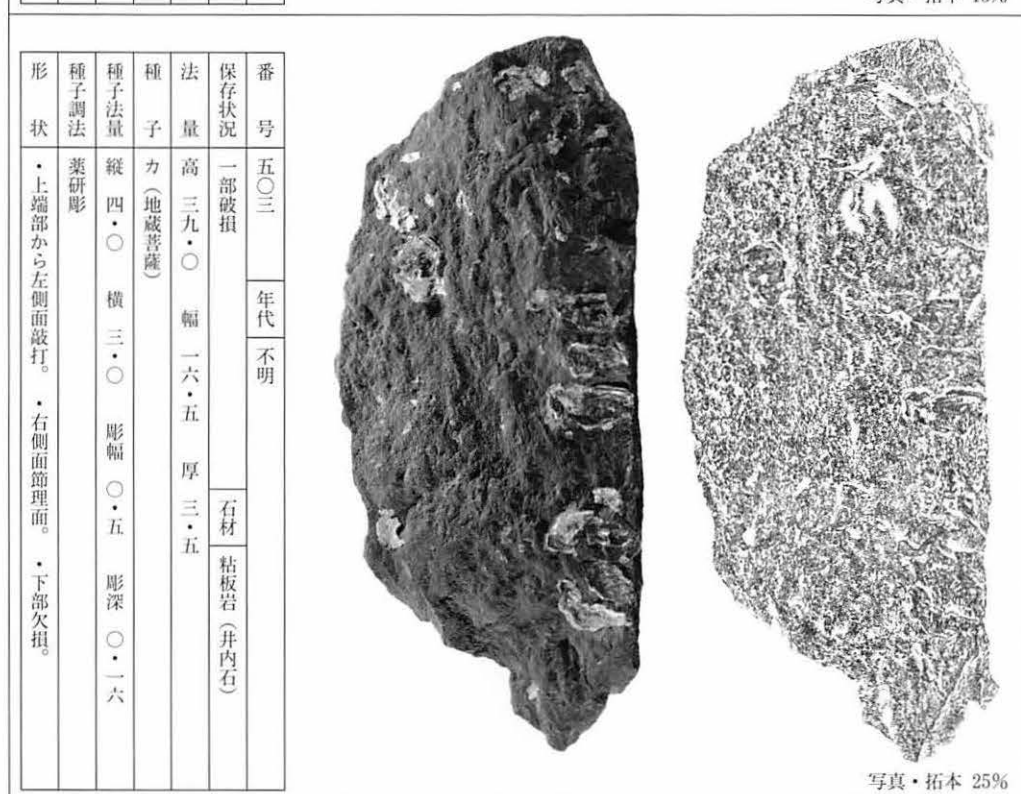
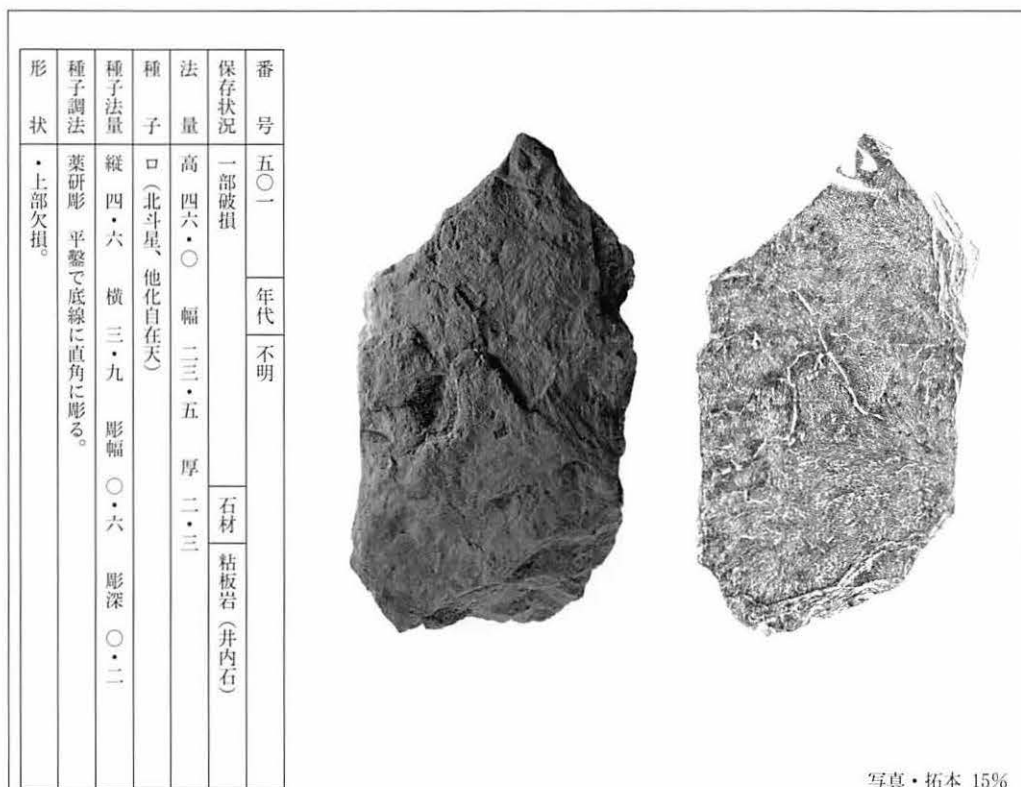
写真・拓本 20%

番 号	四九七	年 代	不 明	石 材	粘板岩（井内石）	保 存 状 況	完 全	法 量	高 五〇・五 幅 一三・五 厚 四・〇	種 子	パン（金剛界大日如来）	種 子 法 量	縦 六・〇 横 三・五 彫幅 〇・三 彫深 〇・二	種 子 調 法	葉研彫	形 状	・上部右側面に鑿痕。

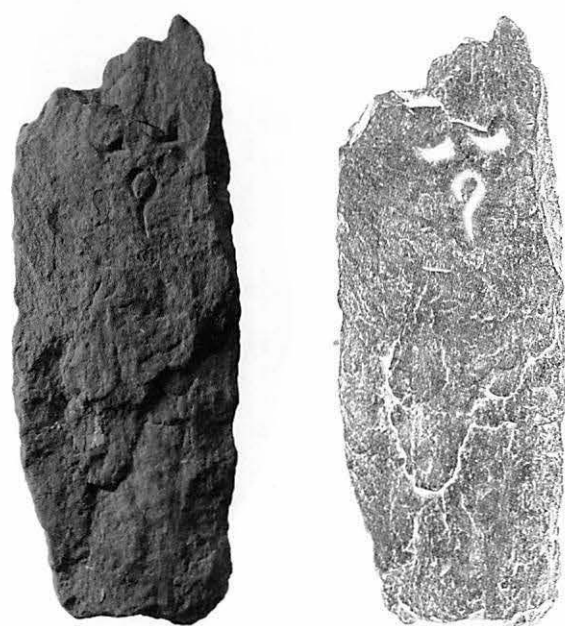




写真・拓本 20%

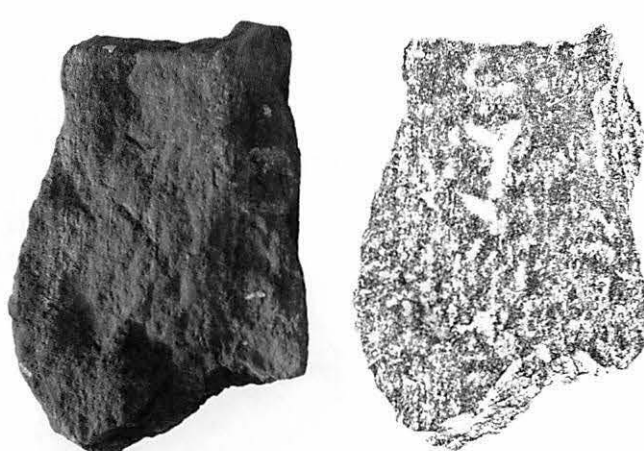


番号	五〇四	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四一・三 幅 一五・五 厚 一・八		
種子	イ(護国地蔵)		
種子法量	縦 七・五 横 六・五 彫幅 一・一 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平撃で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・頭部欠損。・左側面敲打。・背面 左側割り刻ぎ。		



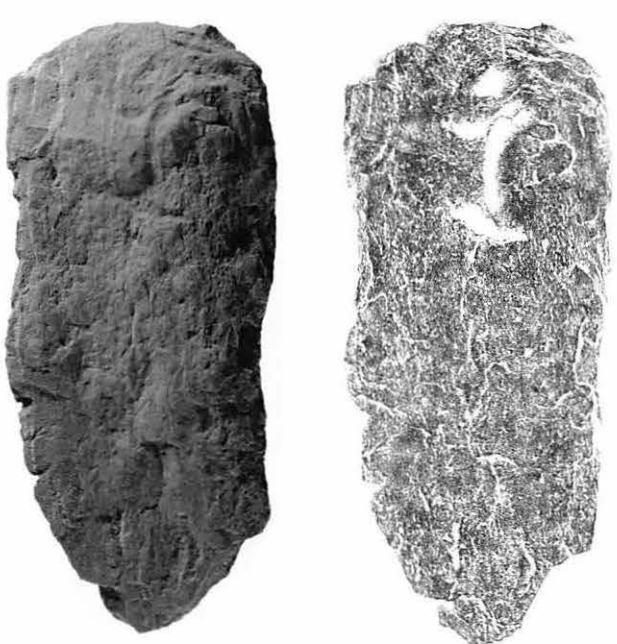
写真・拓本 20%

番号	五〇五	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 一九・三 幅 一三・五 厚 三・五		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦 三・〇 横 二・四 彫幅 〇・五 彫深 〇・〇八		
種子調法	葉研彫		
形状	・頭部整形、敲打。・下部欠損。		



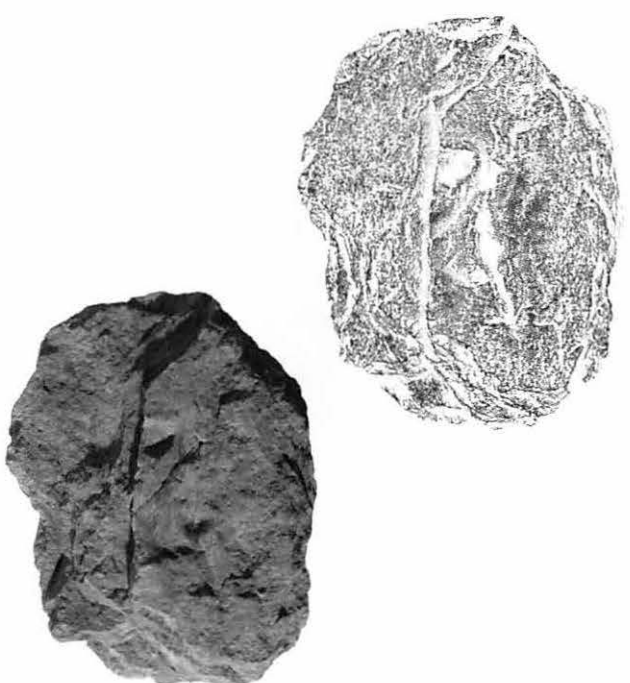
写真・拓本 30%

番号	五〇九	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二七・三	幅	一二・一
種子	ラン(金剛語菩薩)	厚	一・八
種子法量	縦七・五	横	三・四
種子調法	葉研彫	彫幅	一・〇
形状	・周縁部敲打。・背面 右側割りゆきか。	彫深	〇・〇八



写真・拓本 30%

番号	五一七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一八・〇	幅	一四・〇
種子	パン(金剛界大日如来)	厚	二・〇
種子法量	縦九・〇	横	四・〇
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。	彫幅	一・〇
形状	・種子の一部のみの破片。・種子の周囲研磨。	彫深	〇・三



写真・拓本 30%



番号	五一八	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二・五	幅一三・四	厚四・三
種子	パン（金剛界大日如來）		
種子法量	縦五・三	横三・四	彫幅一・三 彫深〇・一五
種子調法	葉研彫 平整で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・碑面鑿痕。・下部欠損。		

写真・拓本 30%

番号	五二一	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二三・五	幅九・五	厚三・〇
種子	ラン（金剛語菩薩）		
種子法量	縦六・二	横三・〇	彫幅〇・八 彫深〇・二
種子調法	葉研彫 平整で底線に平行に彫る。		
形状	・種子の一部の破片。		



写真・拓本 40%

番号	五三二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二九・〇 幅一三・五 厚二・五		
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。		
種子法量	縦三・四五 横二・一 彫幅〇・七 彫深〇・〇八		
種子調法	葉研彫		
形状	・上部欠損。		

写真・拓本 30%

番号	五三〇	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二〇・〇 幅一四・五 厚四・〇		
種子	不明		
種子法量	縦三・五 横二・〇 彫幅一・〇 彫深〇・一三		
種子調法	葉研彫		
形状	・上部欠損。		

写真・拓本 30%

番号	五四三	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二一・〇 幅 一六・〇 厚 四・〇		
種子	不明		
種子法量	縦 二・〇 横 二・〇 彫幅 一・〇 彫深 〇・二五		
種子調法	葉研彫		
形状	・種子の一部のみの破片。		

写真・拓本 25%

備考	形状	法量	保存状況	番号
			一部破損	五四六
			年代	不明
			石材	粘板岩（玄昌石系）
			高 一八・六 幅 一一・三 厚 一・四	

如露亦如電
應作如是觀


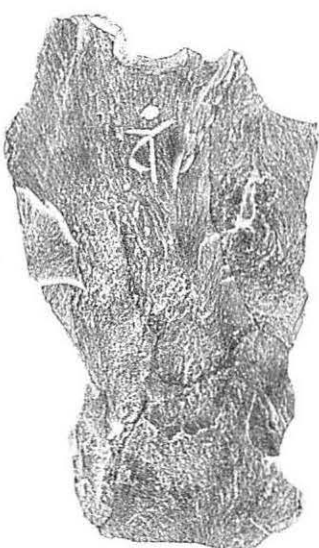


・傷頸の一部のみが認められる破片。
・左側面節理面。

・傷頸割り付けのための罫線（横罫線三本、縦罫線二本）、種子を配置するための基準線と考えられる凹形の二重線。
・傷頸 金剛般若波羅密經「一切有為法 如夢幻泡影 如露亦如電 應作如是觀」。


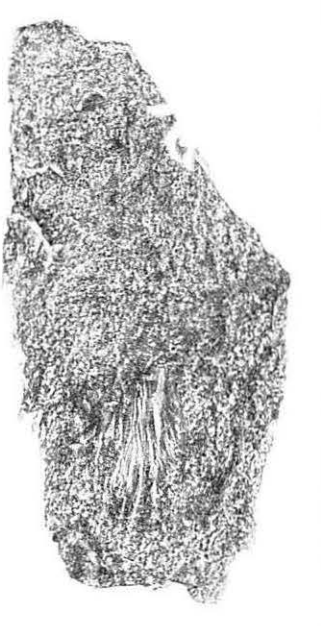
写真・拓本 30%

番号	五四七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(玄昌石系)
法量	高二・四・二	幅	一四・〇
厚	一・五	種子法量	縦 三・五 横 二・一 彫幅 〇・七 彫深 〇・〇八
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。	種子法量	縦 三・五 横 二・一 彫幅 〇・七 彫深 〇・〇八
形状	・上部欠損。・種子の右に削り痕。	種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。
備考	・種子の内部に朱色が認められる。	形状	・上部欠損。・種子の右に削り痕。



写真・拓本 30%

番号	五四九	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三・三・〇	幅	一七・〇
厚	三・〇	種子法量	縦 三・五 横 二・七 彫幅 〇・七五 彫深 〇・一二
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。	種子法量	縦 三・五 横 二・七 彫幅 〇・七五 彫深 〇・一二
形状	・上部欠損。・下部に顕著な削り痕。	種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。



写真・拓本 25%

番号	五五八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二・四・〇	幅	一一・二
種子	厚四・〇	厚	四・〇
種子法量	縦 四・八	横	三・五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。	彫幅	〇・八
形状	・頭部、下部欠損。・背面 右側削り削ぎ。・中央部縦方向に削り痕。・左側面敲打。	彫深	〇・一

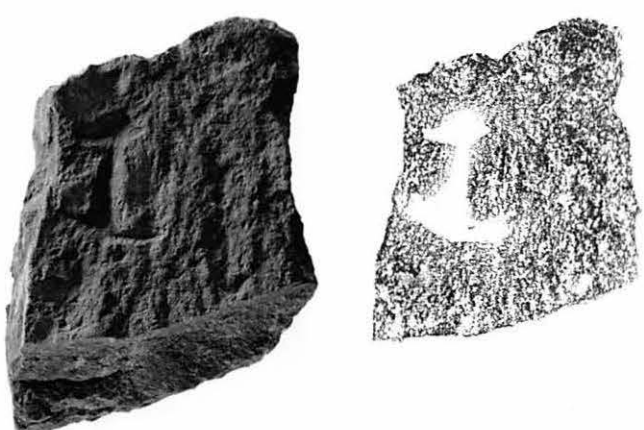
写真・拓本 30%

番号	五七七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一七・〇	幅	九・〇
種子	厚 一・五	厚	一・五
種子法量	縦 二・〇	横	一・〇
種子調法	葉研彫	彫幅	〇・八
形状	・種子の一部のみの破片。・右側面敲打。	彫深	〇・一一

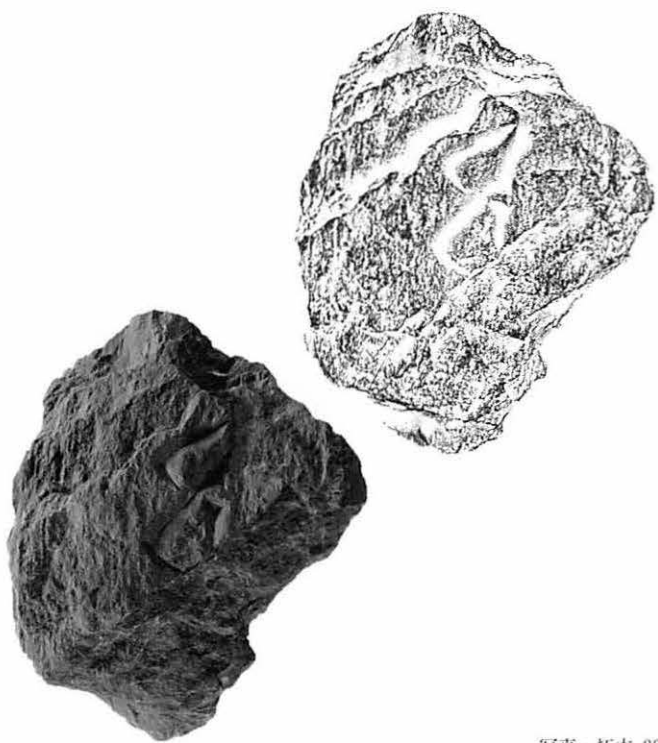
写真・拓本 40%

番号	五九三	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一六・〇 幅一二・〇 厚二・〇		
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)		
種子法量	縦四・五 横三・五 彫幅〇・七 彫深〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。		
形状	・種子の一部のみの破片。		




写真・拓本 40%

番号	五九七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一九・三 幅一六・〇 厚二・〇		
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。		
種子法量	縦七・〇 横二・五 彫幅〇・八 彫深〇・一		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・種子の一部のみの破片。・左側面敲打。		



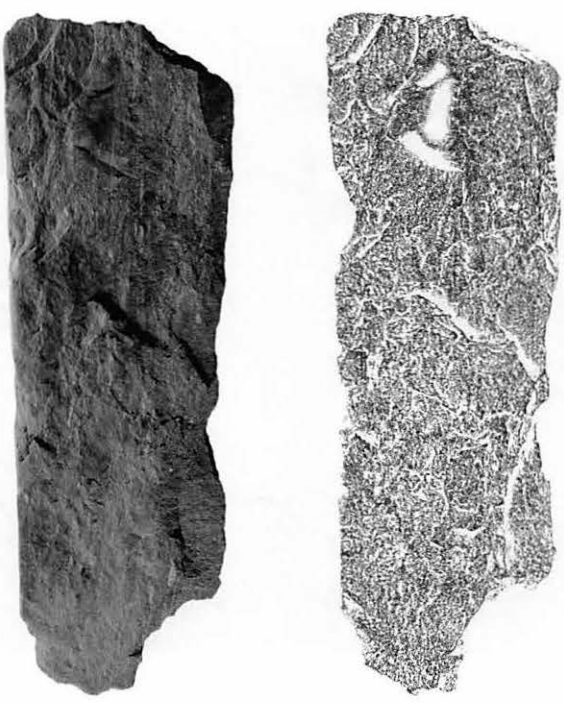
写真・拓本 30%

番号	六一三	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)	保存状況	一部破損
	法 量						高 一六・五 幅 一二・五 厚 二・五
種子	キリーク(阿弥陀如来)						
種子法量	縦 五・五 横 四・〇 彫幅 〇・五 彫深 〇・〇七						
種子調法	葉研彫						
形状	・下部欠損。・左右側面割り筋き、敲打。						
備考	・種子の上下に横界線。						

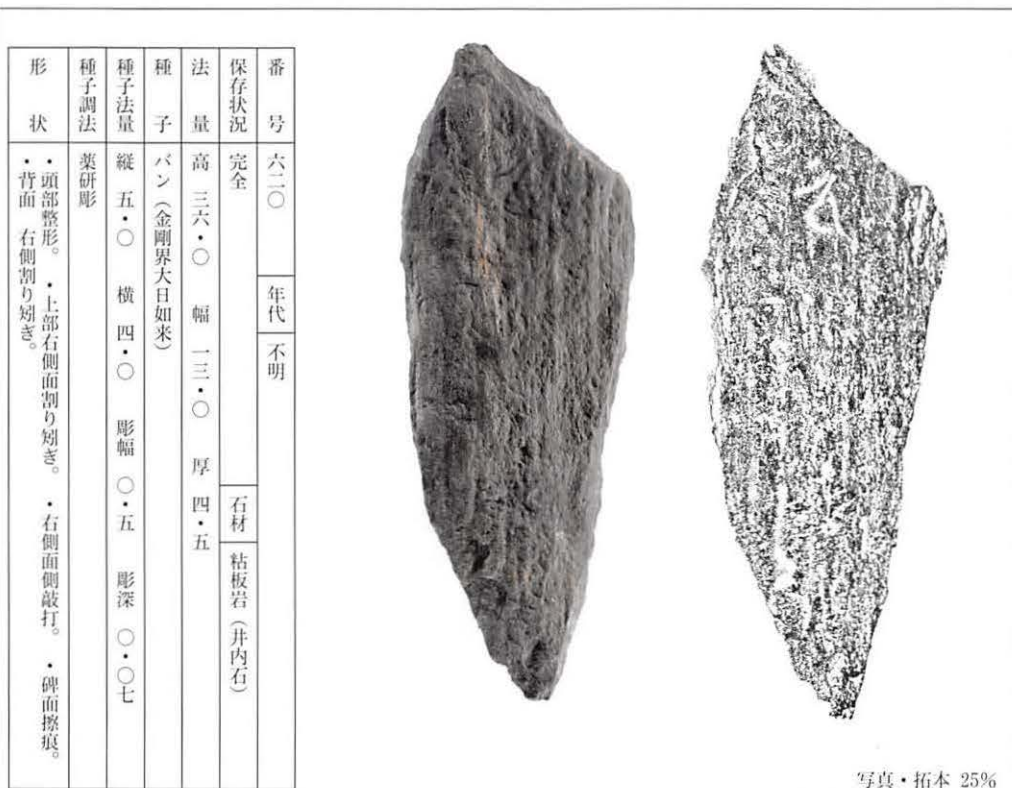


写真・拓本 30%

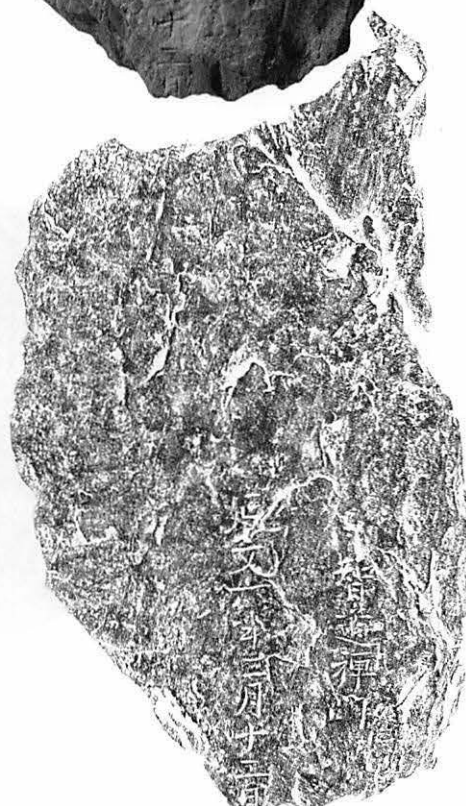
番号	六一四	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)	保存状況	完全
	法 量						高 三七・〇 幅 一二・五 厚 二・二
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)						
種子法量	縦 五・五 横 三・三 彫幅 〇・九 彫深 〇・一						
種子調法	葉研彫						
形状	・背面 左側割り筋き。						



写真・拓本 25%



個別Naを付けて取り上げた板碑





松本源吉「陸前宮城郡の古碑」掲載図

智道禪門
延文六年三月十二日

備考	形状	法量	保存状況	番号	年代	石材
・松本源吉「陸前宮城郡の古碑」(『考古学評論』第三輯、一九四一年)に記録図が掲載。種子はパンであることがわかる。松本の調査時には、完全な形態で雄鳥に立っていたと考えられる。	・上部欠損。 ・左右側面敲打。 ・背面 右側割り崩き。	高 五四・〇 幅 三〇・五 厚 四・〇	一部破損	六二二	延文六年(一三六二)	粘板岩(井内石)
						南北朝時代(北朝)



写真・拓本 15%

番号	六二二	年代	不明				
保存状況	一部破損						
法量	高一四・三	幅	一三・五				
種子	不明	※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。	厚	三・〇			
種子法量	縦 五・八	横	三・六	彫幅	〇・二	彫深	〇・二
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。						
形状	・ 種子の一部のみの破片。						

写真・拓本 30%

番号	六二四	年代	不明				
保存状況	一部破損						
法量	高三〇・五	幅	二六・〇				
種子	カ(釈迦如来)	厚	二・五				
種子法量	縦 五・〇	横	三・〇	彫幅	〇・五	彫深	〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。						
形状	・ 頭部整形。・ 右側下部欠損。						

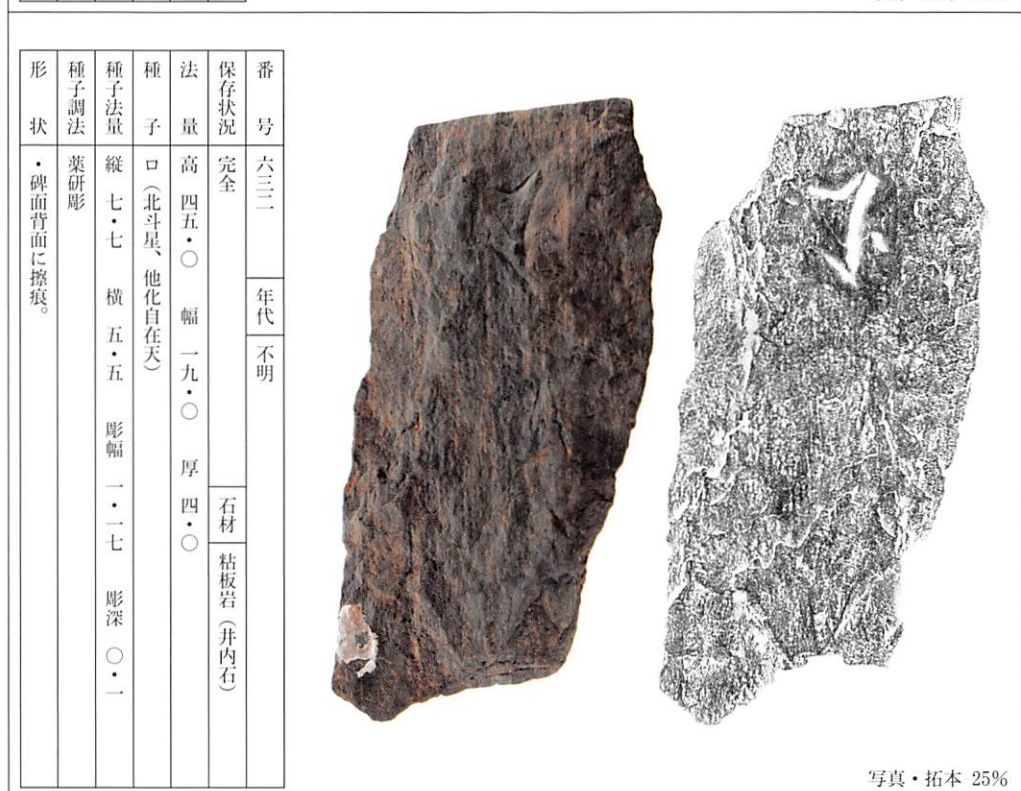
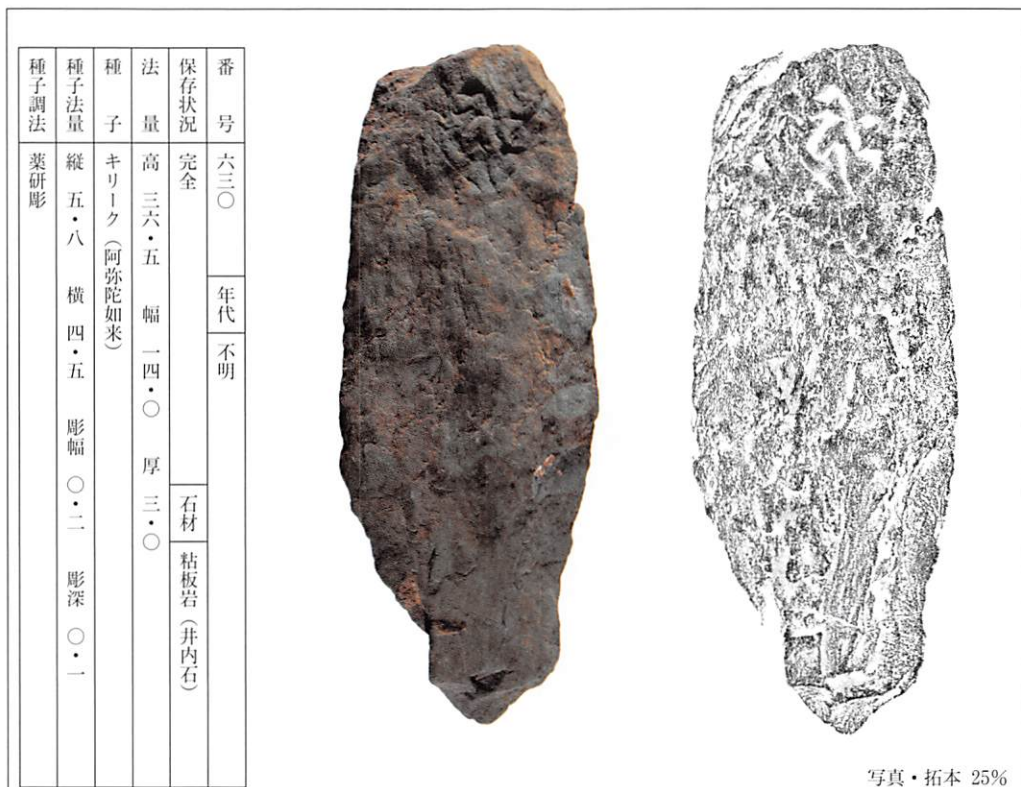
写真・拓本 20%

番号	六二六	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四一・〇 幅 一六・〇 厚 四・〇		
種子	パン(金剛界大日如來)		
種子法量	縦 六・六 横 三・〇 彫幅 〇・七 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・周縁部敲打。・背面 左側割り削ぎ。		

写真・拓本 20%

番号	六二七	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 七七・五 幅 一七・五 厚 七・〇		
種子	サ(聖観音菩薩)		
種子法量	縦 八・四 横 五・五 彫幅 一・四 彫深 〇・四		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・左右側面割り削ぎ。・基部整形。・背面 上部下部割り削ぎ。		

写真・拓本 10%



番号	六三三
保存状況	一部破損
年代	不明
石材	粘板岩(井内石)
法量	高三・一〇 幅 一五・〇 厚 二・七
種子	ラン(金剛語菩薩)
種子法量	縦 八・五 横 四・〇 彫幅 一・二 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫
形状	・下部欠損。・碑面擦痕。



写真・拓本 25%

番号	六三六
保存状況	一部破損
年代	不明
石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四四・九 幅 一九・八 厚 四・五
種子	口(北斗星、他化自在天)
種子法量	縦 七・四 横 四・七 彫幅 一・四 彫深 〇・一五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形状	・頭部基部整形。・頭部右側欠損。・上部左側面節理面。・碑面削り痕、擦痕。・背面 割り矧ぎ。



写真・拓本 20%

番号	六三七	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三八・〇	幅	一七・五	厚	三・三
種子	サ(聖観音菩薩)				
種子法量	縦 七・五	横	五・〇	彫幅	一・一
種子調法	葉研彫 研磨。				
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・下部欠損。 ・種子の下に二本の横線。 				



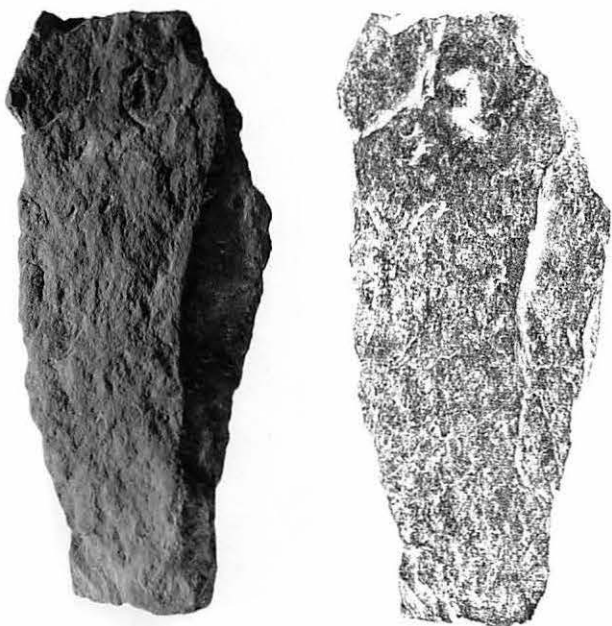

写真・拓本 20%

番号	六四一	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高二八・二	幅	一二・三	厚	一・七
種子	パン(金剛界大日如来)				
種子法量	縦 四・五	横	三・〇	彫幅	〇・三
種子調法	葉研彫				
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・左側面節理面。 ・背面 頭部割り短き。 ・上端部から右側面敲打。 ・下部欠損。 				



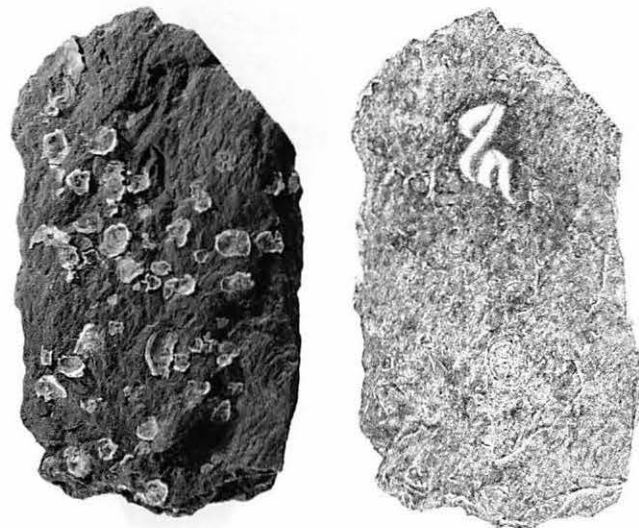

写真・拓本 30%

番号	六四二		年代	不明		石材	粘板岩(井内石)
	保存状況	一部破損					
法量	高	二〇・五	幅	八・七	厚	三・〇	
種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)						
種子法量	縦	二・二	横	一・三	彫幅	〇・二	彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。						
形状	・頭部左側剥離。・左側面敲打。・下端部節理面。・碑面擦痕。						





写真・拓本 40%

番号	六四六		年代	不明		石材	粘板岩(井内石)
	保存状況	完全					
法量	高	四六・〇	幅	二六・五	厚	三・二	
種子	カ(地藏菩薩)						
種子法量	縦	九・〇	横	四・五	彫幅	〇・八	彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 研磨。						
形状	・頭部整形。						





写真・拓本 15%

番号	六四八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四五・〇 幅 一八・〇 厚 三・五	種子	イー(護讃地蔵)
種子法量	縦 五・〇 横 五・〇 彫幅 一・一 彫深 〇・一	種子調法	葉研彫 研磨。
形状	・頭部整形。・下部欠損。・中央部右側に削り痕。		


写真・拓本 20%

番号	六四九	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二七・五 幅 一一・五 厚 二・三	種子	パン(金剛界大日如来)
種子法量	縦 八・〇 横 四・〇 彫幅 一・三 彫深 〇・一三	種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。
形状	・右側面割り削ぎ。・背面 右側面割り削ぎ、敲打。		

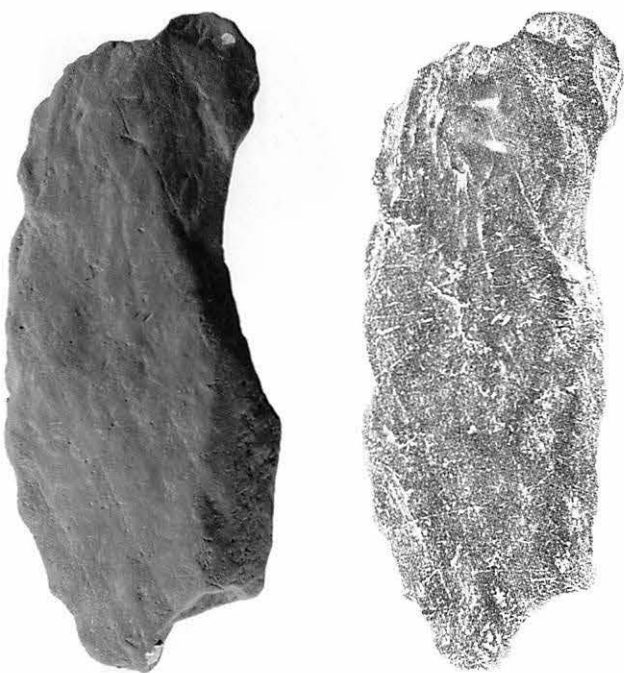
写真・拓本 30%

番号	六五三	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 一六・〇	幅 一六・二	厚 一・六
種子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）？		
種子法量	縦 四・三	横 五・〇	彫幅 一・二 彫深 〇・二
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・種子の一部のみの破片。		



写真・拓本 30%

番号	六五四	年代	不明
保存状況	完全		
法量	高 二九・〇	幅 一二・五	厚 二・五
種子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）？		
種子法量	縦 三・〇	横 二・五	彫幅 〇・三 彫深 〇・〇一
種子調法	葉研彫		
形状	・左側面敲打。・中央部、下部に削り痕。・背面 右側割り崩き。		




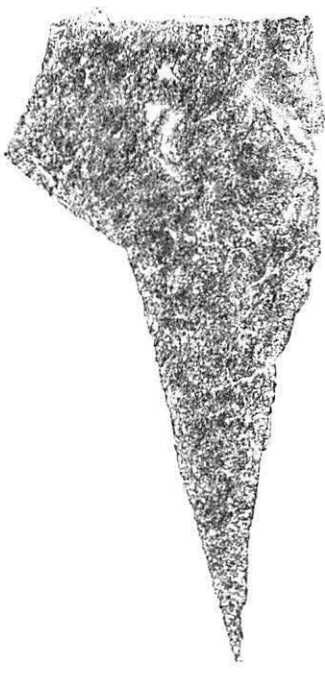
写真・拓本 30%

形 状	種子調法 ・頭部整形。 ・右側から中央部割り欠き。背面 左右両側割り欠き。	種子法量	縦 四・〇 横 三・六 彫幅 〇・六 彫深 〇・一
		種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)
		法 量	高 四一・一 幅 一一・〇 厚 四・〇
		保存状況	完全
		番号	六六〇
		年代	不明
		石材	粘板岩(井内石)




写真・拓本 20%

形 状	種子調法 ・頭部整形。 ・上部右側面、下部欠損。	種子法量	縦 三・七 横 二・〇 彫幅 〇・九 彫深 〇・〇五
		種子	ラン(金剛語菩薩)
		法 量	高 二九・五 幅 一四・五 厚 三・二
		保存状況	一部破損
		番号	六六四
		年代	不明
		石材	粘板岩(井内石)

写真・拓本 30%



番号	六七三	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三・四・三 幅 一・五・七 厚 二・二		
種子	力 (地藏菩薩)		
種子法量	縦 四・一 横 三・〇 彫幅 〇・六 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平整で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。 ・上端部、左側面敲打。 ・背面 左右両側割り短き。		

写真・拓本 25%

番号	六七四	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三・二・二 幅 二・〇・八 厚 五・五		
種子	不明		
種子法量	縦 一・〇・五 横 九・〇 彫幅 二・一五 彫深 〇・三三		
種子調法	葉研彫 平整で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・種子左側研磨。 ・下部欠損。		
備考	・全体に被熱の痕跡が見られ、背面に油煙付着。		


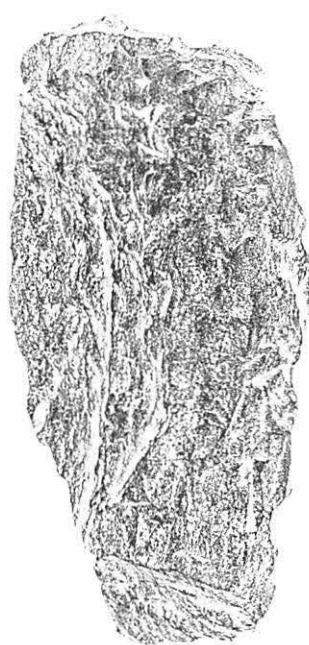
写真・拓本 20%

番号	六七八	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高 六一・八	幅 二二・六	厚 三・五		
種子	カン(馬頭観音)				
種子法量	縦 一二・五	横 八・〇	彫幅 一・六	彫深 〇・四五	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。				
形状	・頭部左側、右側面中央欠損。				

写真・拓本 15%

番号	六七九	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	完全				
法量	高 三二・九	幅 一六・三	厚 五・三		
種子	ラン(金剛語菩薩)				
種子法量	縦 四・〇	横 二・二	彫幅 〇・五	彫深 〇・一	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。				
形状	・周縁部敲打。				

写真・拓本 25%

番号	六八四
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高 一八・〇 幅 一三・五 厚 二・二
種子	ラ (金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)
種子法量	縦 五・二 横 二・二 彫幅 〇・八 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形状	・下部欠損。





写真・拓本 30%

番号	六九四
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高 一七・四 幅 一五・〇 厚 二・〇
種子	力 (地藏菩薩)
種子法量	縦 九・〇 横 五・〇 彫幅 一・〇 彫深 〇・二五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形状	・種子部分の破片。・右側に鑿痕。





写真・拓本 40%

番号	六九九	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三九・五	幅	一六・〇
種子	イー(護讃地藏)	厚	四・一
種子法量	縦 四・一	横 三・五	彫幅 〇・七五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。	彫深	〇・一
形状	・頭部基部整形。・右側面に石材切断のための矢穴と思われる痕。		

写真・拓本 25%

番号	七〇三	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二四・五	幅	一四・〇
種子	力(地藏菩薩)	厚	三・〇
種子法量	縦 八・五	横 六・〇	彫幅 一・五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	彫深	〇・一三
形状	・頭部整形。・左側面、下部欠損。 ・背面 上端部割り欠き、中央に削り痕。		

写真・拓本 30%